

(様式第 10)

筑大病品安第 17-128 号  
平成 29 年 10 月 5 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人筑波大学長 永田 恭介 (印)

筑波大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
氏 名	国立大学法人筑波大学長 永田 恭介

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

筑波大学附属病院
----------

3 所在の場所

〒305-8576 茨城県つくば市天久保2-1-1	電話(029)853-3900
---------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 <input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
<input checked="" type="radio"/> 1 呼吸器内科 <input checked="" type="radio"/> 2 消化器内科 <input checked="" type="radio"/> 3 循環器内科 <input checked="" type="radio"/> 4 腎臓内科 <input checked="" type="radio"/> 5 神経内科 <input checked="" type="radio"/> 6 血液内科      7 内分泌内科      8 代謝内科 <input checked="" type="radio"/> 9 感染症内科 <input checked="" type="radio"/> 10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科 <input checked="" type="radio"/> 11 リウマチ科	
診療実績	
「7 内分泌内科」及び「8 代謝内科」にて提供される医療は、「内分泌・代謝・糖尿病内科」にて提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
①呼吸器外科 5血管外科	②消化器外科 ⑥心臓血管外科
3乳腺外科 7内分泌外科	4心臓外科 ⑧小児外科
診療実績 「3 乳腺外科」及び「7 内分泌外科」にて提供される医療は、「乳腺・内分泌外科」にて提供している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	12放射線科	⑬放射線診断科	
⑭放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1臓器移植外科	2腫瘍内科	3形成外科	4リハビリテーション科	5頭頸部外科	6病理診断科	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41床	床	床	床	759床	800床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	601人	56人	609.1人	看 護 補 助 者	47人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	14人	4人	14.2人	理 学 療 法 士	35人	臨床検査技師	70人
薬 剤 師	57人	5人	61.2人	作 業 療 法 士	12人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	6人	そ の 他	0人
助 産 師	45人	3人	46.6人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	782人	44人	809.7人	臨 床 工 学 士	27人	医療社会事業従事者	6人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	33人
歯科衛生士	3人	0人	3人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	205人
管理栄養士	9人	1人	9.2人	診 療 放 射 線 技 師	50人	そ の 他 の 職 員	30人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成29年10月 1日)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	78人	眼 科 専 門 医	10人
外 科 専 門 医	58人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	11人
精 神 科 専 門 医	14人	放 射 線 科 専 門 医	19人
小 児 科 専 門 医	30人	脳 神 経 外 科 専 門 医	23人
皮 膚 科 専 門 医	8人	整 形 外 科 専 門 医	35人
泌 尿 器 科 専 門 医	16人	麻 酔 科 専 門 医	21人
産 婦 人 科 専 門 医	18人	救 急 科 専 門 医	5人
		合 計	346人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(松村 明) 任命年月日 平成26年 4月 1日

組織リスクマネージャー歴5年(平成16年4月1日～平成21年3月31日)  
 リスクマネジメント委員会委員歴7年(平成19年4月1日～平成26年3月31日)  
 リスクマネジメント委員会委員長歴3年6ヶ月(平成26年4月1日～現在)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	705人	9人	714人
1日当たり平均外来患者数	1,645人	59人	1,704人
1日当たり平均調剤数	1,914.6剤		
必要医師数	171人		
必要歯科医師数	2人		
必要薬剤師数	24人		
必要(准)看護師数	414人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	457.67m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	20床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 684.49m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 0台	床面積	684.49m <sup>2</sup>	病床数	35床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 43.91m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名	床積	43.91m <sup>2</sup>			
化学検査室	67.6m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 尿定性検査機、尿定量検査機			
細菌検査室	170.41m <sup>2</sup>	同上	(主な設備) 血液培養機、薬剤感受装置			
病理検査室	384.6m <sup>2</sup>	同上	(主な設備) 自動包埋装置、自動染色機、自動封入機			
病理解剖室	54m <sup>2</sup>	同上	(主な設備) 解剖台			
研究室	801.76m <sup>2</sup>	同上	(主な設備) 机、椅子、書棚、PC			
講義室	2,434 m <sup>2</sup>	同上	室数	17室	収容定員	2,102人
図書室	2,793 m <sup>2</sup>	同上	室数	1室	蔵書数	171,381冊

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	90.6 %	逆紹介率	79.2 %
算出根拠	A：紹介患者の数		17,981 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16,439 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		820 人
	D：初診の患者の数		20,758 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
柳田 国夫	東京医科大学 茨城医療センター副院長	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
宮本 恭子	リレー・フォー・ライフ・ジャパン茨城実行委員会実行委員長		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者
佐藤 総一郎	国立大学法人 筑波大学監事		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法	病院ホームページにて公表している。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
陽子線治療	220人
末梢血幹細胞による血管再生治療	0人
EBウイルス感染症迅速診断(リアルタイムPCR法)	39人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	18人
前眼部三次元画像解析	3人
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	4人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る)の併用療法	0人
経胎盤的抗不整脈投与療法	0人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	1人
コレステロール塞栓症に対する血液浄化法	0人
放射線照射前に大量メトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	0人
陽子線治療 肝内胆管がん	0人
陽子線治療 肝細胞がん	0人
テモゾロミド用量強化療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	10	56	ベーチェット病	82
2	筋萎縮性側索硬化症	23	57	特発性拡張型心筋症	61
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	12
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	3	60	再生不良性貧血	46
6	パーキンソン病	152	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	33
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	65	原発性免疫不全症候群	6
11	重症筋無力症	138	66	IgA腎症	25
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	42
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	112	68	黄色靱帯骨化症	7
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	21	69	後縦靱帯骨化症	45
15	封入体筋炎	8	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	94
17	多系統萎縮症	20	72	下垂体性ADH分泌異常症	16
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	46	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	3	74	下垂体性PRL分泌亢進症	2
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	8
21	ミトコンドリア病	19	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	3
22	もやもや病	21	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	34
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	63
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	9	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	77
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	20
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	28
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	19
34	神経線維腫症	13	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡	41	90	網膜色素変性症	27
36	表皮水疱症	4	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	24
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	42	95	自己免疫性肝炎	9
41	巨細胞性動脈炎	2	96	クローン病	104
42	結節性多発動脈炎	17	97	潰瘍性大腸炎	215
43	顕微鏡的多発血管炎	60	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	16	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	3
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	10	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	17	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	16	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	487	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	163	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	110	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	47	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	41	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	12	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	5
113	筋ジストロフィー	4	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	2
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	1
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	1	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	2
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	1
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	2	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	3

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	4	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	1	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	12	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	6
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	1	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	2	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	14
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ ーケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・退院支援加算
・歯科診療特別対応連携加算	・精神疾患診療体制加算
・特定機能病院入院基本料	・精神科急性期医師配置加算
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料4
・診療録管理体制加算1	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・医師事務作業補助体制加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・急性期看護補助体制加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・看護職員夜間配置加算	・小児入院医療管理料1
・療養環境加算	・短期滞在手術等基本料1
・無菌治療室管理加算1	・入院時食事療養(I)
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・総合評価加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算2	・
・データ提出加算	・

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・遺伝カウンセリング加算
・糖尿病合併症管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・胎児心エコー法
・がん患者指導管理料1	・胎児心エコー法時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・がん患者指導管理料2	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料3	・皮下連続式グルコース測定
・外来緩和ケア管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・神経学的検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・補聴器適合検査
・院内トリアージ実施料	・コンタクトレンズ検査料1
・外来放射線照射診療料	・小児食物アレルギー負荷検査
・ニコチン依存症管理料	・内服・点滴誘発試験
・がん治療連携計画策定料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・画像診断管理加算2
・薬剤管理指導料	・遠隔画像診断
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料1	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料2	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・乳房MRI撮影加算
・歯科治療総合医療管理料(Ⅰ)及び(Ⅱ)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・外来化学療法加算1
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・無菌製剤処理料
・遺伝学的検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・検体検査管理加算Ⅳ	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・国際標準検査管理加算	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・がん患者リハビリテーション料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・精神科ショート・ケア「大規模なもの」	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・精神科デイ・ケア「大規模なもの」	・経カテーテル大動脈弁置換術
・医療保護入院等診療料	・経皮的中等心筋焼灼術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・透析液水質確保加算2	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・CAD/CAM冠	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・歯科技工加算1及び2	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・補助人工心臓
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・小児補助人工心臓
・腫瘍脊椎骨全摘術	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・腹腔鏡下肝切除術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・生体部分肝移植術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
・網膜再建術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術、植込型骨導補聴器交換術及び人工中耳用	・同種死体腎移植術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・生体腎移植術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・膀胱水圧拡張術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・腹腔鏡下仙骨膿固定術

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・病理診断管理加算2
・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・輸血管理料1	
・輸血適正使用加算	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・歯周組織再生誘導手術	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・麻酔管理料(Ⅰ)	
・麻酔管理料(Ⅱ)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・定位放射線治療	
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
・粒子線治療	
・粒子線治療適応判定加算	
・粒子線治療医学管理加算	
・画像誘導密封小線源治療加算	
・保険医療機関間の連携による病理診断	
・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・粒子線治療	・
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週9回程度実施
剖 検 の 状 況	剖検症例数 30例 / 剖検率 9%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補委	
				補委	
				補委	
別紙のとおり				補委	
				補委	

計234件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

	研究課題名	研究者代表者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託先
1	3次元エコー図による右室機能と同期不全評価法の研究	石津 智子	循環器(内)診療グループ	3,380,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
2	後期高齢者における包括的な心エコー図指標に関する基準値の策定	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	2,080,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
3	好中球細胞外トラップに焦点をあてた新視点からの心筋梗塞に伴う炎症の制御	田尻 和子	循環器(内)診療グループ	1,950,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
4	心筋梗塞後炎症の制御機構の解明	木村 泰三	循環器(内)診療グループ	1,950,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
5	心房細動の発症におけるNamt役割の解明	許 東洙	循環器(内)診療グループ	1,300,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
6	心房細動および致死性不整脈に対する革新的な腎交感神経アブレーション治療法の確立	町野 毅	循環器(内)診療グループ	1,170,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
7	J波症候群における次世代シーケンサーを用いた包括的遺伝子解析	黒木 健志	循環器(内)診療グループ	1,950,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
8	持続性心房細動における心房内異常電位の成因と機序の解明	村越 伸行	循環器(内)診療グループ	1,170,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
9	腹部大動脈瘤の病態形成における好中球細胞外トラップの役割解明と治療への応用	佐藤 明	循環器(内)診療グループ	2,210,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
10	自然発症心室性不整脈突然死モデルマウスの分子生理学的機序の解明とその臨床応用	青沼和隆	循環器(内)診療グループ	8,580,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
11	運動はNrf2を活性化し組織障害因子TWEAKに誘発される肥満肝疾患を改善する	久賀圭祐	循環器(内)診療グループ	7,930,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
12	肺高血圧症におけるポリアミン系活性化の意義解明と新規治療法の開発	酒井 俊	循環器(内)診療グループ	1,430,000	補 挑戦的萌芽研究
13	ナノ粒子を用いた血管炎症病変の非侵襲的診断および治療法の探求	小菅 寿徳	循環器(内)診療グループ	1,300,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
14	心房細動の発症におけるNamt役割の解明	許 東洙	循環器(内)診療グループ	14,300,000	委 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化)
15	放射光微小冠動脈造影を用いた微小冠動脈の機能評価法確立および虚血性心疾患への応用	坂本裕昭	循環器(外)診療グループ	1,300,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
16	肺高血圧症における放射光微小血管撮影法を用いた微小血管血流変化と血管内皮細胞障害	徳永千穂	循環器(外)診療グループ	520,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
17	MK-7低産生菌、短時間発酵と紫外線加工によるビタミンK低減化納豆開発と性能試験	平松祐司	循環器(外)診療グループ	1,300,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
18	MDM4を標的とした新規癌治療の開発研究	山本 祥之	消化器(内)診療グループ	1,560,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
19	肝細胞癌に対する腫瘍融解ワクシニアウイルスJX-594と一過性免疫抑制の併用効果	長谷川 直之	消化器(内)診療グループ	1,300,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
20	p53変異型癌細胞におけるp73活性化を応用した新規癌治療の基礎研究	兵頭 一之介	消化器(内)診療グループ	1,950,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
21	遺伝子レスキューマウス解析による肥満肝発癌を制御する組織・細胞Nrf2の役割解明	石毛 和紀	消化器(内)診療グループ	3,770,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)

22	遺伝子レスキューマウス解析によるNASH発癌を制御する組織・細胞Nrf2の役割解明	石毛 和紀	消化器(内)診療グループ	1,430,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
23	肝脂肪酸エネルギー代謝異常による新しいNASH発症機序の解明	溝上裕士	消化器(内)診療グループ	1,950,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
24	ポルフィリン蛍光を利用した血中循環腫瘍細胞捕捉技術に関する研究	松井裕史	消化器(内)診療グループ	1,560,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
25	経口血小板増多剤による肝硬変に対する新規肝再生、線維化改善及び発癌予防法の確立	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	3,750,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
26	ヒト胎盤羊膜由来間葉系幹細胞のバイオバンクの創設	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	1,170,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
27	iCAF:iPS由来の癌線維芽細胞による膵癌幹細胞、間質幹細胞の糖鎖標的探索	小田 竜也	消化器(外)診療グループ	6,370,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
28	糖鎖標的癌治療;癌幹細胞の特異的糖鎖に対するレクチンキシンによる新規癌治療	小田 竜也	消化器(外)診療グループ	1,820,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
29	ヒト免疫システムを持つヒト肝臓化ラットの確立とヒト肝疾患・治療モデルへの応用	鄭 允文	消化器(外)診療グループ	1,430,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
30	肝類洞内皮細胞を標的としたsiRNAを用いた新規肝疾患治療薬の開発	田村 孝史	消化器(外)診療グループ	1,820,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
31	肝転移抑制を目指した癌細胞接着・浸潤メカニズムの解明と予防法の開発研究	近藤 匡	消化器(外)診療グループ	1,690,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
32	消化器癌に特異的な糖鎖暗号(sugar code)の解読	橋本 真治	消化器(外)診療グループ	2,470,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
33	糖鎖発現解析による腎移植後慢性拒絶反応の新規診断法の開発	高野 恵輔	消化器(外)診療グループ	1,690,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
34	徐放性ハイドロゲル製剤を用いた新規消化管縫合不全予防剤の開発	久倉 勝治	消化器(外)診療グループ	1,690,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
35	大腸癌におけるCD44variant9発現の意義と新規診断法の開発	榎本 剛史	消化器(外)診療グループ	1,560,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
36	可変3D画像・タッチレスインタフェースを用いた鏡視下手術ナビゲーションの開発	明石 義正	消化器(外)診療グループ	910,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
37	Patient dependent 力覚体感型手術エミュレータ開発	大城 幸雄	消化器(外)診療グループ	1,100,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
38	CTとMRIを融合させる多元型変形可能な膵臓手術シミュレーションソフトの開発研究	大城 幸雄	消化器(外)診療グループ	1,700,000	補 科学研究費補助金 新学術領域研究 (研究領域提案型)
39	経口感染によるウイルス性肝炎(A型及びE型)の感染防止、病態解明、治療等に関する研究	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	2,400,000	委 日本医療研究開発機構 感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業
40	次世代型3D-CG手術テキストを活用した、革新的外科学教育システムの構築ー卒前・卒後・生涯教育環境の充実による外科医不足の解消ー	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	24,500,000	補 文部科学省 特別経費
41	ゲノム情報に基づく難治性気道疾患のエンドタイプの解明に向けた基盤研究	檜澤 伸之	呼吸器(内)診療グループ	5,070,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
42	自動車排ガスの炎症応答に関連するバイオマーカーの研究動向調査	石井 幸雄	呼吸器(内)診療グループ	810,000	委 財団法人 日本自動車研究所 受託研究
43	新規モデルを用いた非自己免疫性肺蛋白症の病態解明と治療法の開発	石井 幸雄	呼吸器(内)診療グループ	1,560,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
44	慢性炎症性呼吸器疾患におけるヘルパーT細胞と炎症性マクロファージのクロストーク	森島 祐子	呼吸器(内)診療グループ	1,430,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)

45	難治性喘息の病態解明: IL-17Fの意義	川口 未央	呼吸器(内)診療グループ	1,300,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
46	肺線維症における活性酸素シグナリングの役割とその制御機構	松野 洋輔	呼吸器(内)診療グループ	2,210,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
47	気道リモデリング形成に伴うSiglecを介した好酸球炎症制御経路障害の解明	際本 拓未	呼吸器(内)診療グループ	1,170,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
48	IgE感作後の臓器感受性の違いに着目した花粉症病態の検討	増子 裕典	呼吸器(内)診療グループ	2,340,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
49	肺エアリーク定量モニタリングの臨床応用と気腫に対する新しい治療戦略の構築	酒井 光昭	呼吸器(外)診療グループ	5,070,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
50	外科手術用の高強度魚ゼラチン接着剤開発	佐藤 幸夫	呼吸器(外)診療グループ	4,080,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
51	壺長類モデルを用いた革新的な術後SIRS/ARDS発症メカニズムの探求	後藤 行延	呼吸器(外)診療グループ	3,510,000	補 挑戦的萌芽研究
52	細胞接着分子CADM1を分子標的とする小細胞肺癌の治療法の開発	菊池 慎二	呼吸器(外)診療グループ	4,420,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
53	胸腔内に存在する癌細胞の進展に関する実験研究	鬼塚正孝	呼吸器(外)診療グループ	2,500,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
54	腎臓発生研究成果を臨床医療に応用するための基盤研究-腎疾患モデルと臓器再生モデル	臼井 丈一	腎泌尿器(内)診療グループ	1,040,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
55	肥満細胞の機能制御による血管炎治療法の探索	永井 恵	腎泌尿器(内)診療グループ	1,170,000	補 科学研究費補助金 研究活動スタート支援
56	慢性腎臓病進行抑制のための医薬連携システムの確立と検証	斎藤 知栄	腎泌尿器(内)診療グループ	390,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
57	転写因子異常による単状糸球体硬化症発症機序の解明	森戸 直記	腎泌尿器(内)診療グループ	1,950,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
58	慢性腎臓病(CKD)進行例の実態把握と透析導入回避のための有効な指針の作成に関する研究	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	44,768,000	委 日本医療研究開発機構 (腎疾患実用化研究事業)
59	高齢者のMPO-ANCA産生機序解明とその治療応用	永井 恵	腎泌尿器(内)診療グループ	700,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
60	多系統動物モデルを用いた尿路上皮癌の発癌進展における腫瘍微小環境の解明	西山 博之	腎泌尿器(外)診療グループ	3,639,500	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
61	土壌菌成分であるミコール酸による抗腫瘍免疫製剤の開発	西山 博之	腎泌尿器(外)診療グループ	1,690,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
62	精巣腫瘍の組織分化におけるエピジェネティクス制御の解明	河合 弘二	腎泌尿器(外)診療グループ	1,430,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
63	腎細胞癌の発生と肉腫様変化におけるRAC2-VAV1シグナルの役割	小島 崇宏	腎泌尿器(外)診療グループ	1,430,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
64	膀胱癌における免疫環境と遺伝子変異の包括的解析によるBCG抵抗性機序の解明	常楽 晃	腎泌尿器(外)診療グループ	1,820,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
65	進行膀胱癌に高発現するGPNMBを標的とした環状ペプチドの開発	木村 友和	腎泌尿器(外)診療グループ	1,820,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
66	BCG細胞夾膜成分を用いた、全身投与可能な新規癌治療剤の開発	宮崎 淳	腎泌尿器(外)診療グループ	1,430,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
67	Elov16による脂肪酸の質的変容が起こす多臓器代謝病態と脳行動異常のメカニズム	島野 仁	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	12,480,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(A)

68	横紋筋融解症発症モデルマウスにおけるオートファジー異常の分子メカニズム	島野 仁	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	1,820,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
69	脂肪酸の鎖長を基軸とした疾患の制御機構と医療展開に向けた基盤構築	島野 仁	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	23,920,000	委 日本医療研究開発機構 AMED-CREST
70	生活習慣病におけるmicroRNAのバイオマーカーとしての意義に関する研究	鈴木 浩明	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	2,080,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
71	転写因子CREB3L3による複合的な生活習慣病改善に関わる新規因子の同定	岩崎 仁	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	1,430,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
72	エネルギー代謝制御を担う核内情報処理機構の解明と生活習慣病治療への応用	矢作 直也	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	4,680,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
73	多価不飽和脂肪酸の作用ドメイン解明から新規高トリグリセリド血症治療薬へ	矢作 直也	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	1,690,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
74	新規エネルギー代謝センサー分子によって制御される脂質代謝経路の解明と医療応用	関谷 元博	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	14,690,000	委 日本医療研究開発機構 AMED-PRIME
75	生活習慣病予防における脂肪酸組成制御の有用性の解明と健康科学への応用	松坂 賢	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	4,680,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
76	腸肝循環から始まる栄養代謝と炎症による複合炎症を対象とした生活習慣病の解析	中川 嘉	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	3,770,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
77	脂質代謝と小胞体ストレスをつなぐCREBHの非アルコール性脂肪肝発症における役割	小林 和人	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	1,560,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
78	自己免疫疾患に関する調査研究	住田 孝之	膠原病リウマチアレルギー 内科診療グループ	23,952,000	補 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患等政策研究事業)
79	自己免疫疾患のイノベーション研究	住田 孝之	膠原病リウマチアレルギー 内科診療グループ	27,300,000	委 日本医療研究開発機構 委託研究開発費 (難治性疾患実用化研究事業)
80	関節炎における炎症性サイトカインと自己免疫応答相互の制御	松本 功	膠原病リウマチアレルギー 内科診療グループ	1,560,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
81	間質性肺炎発症におけるヒトCD161陽性γδ陽性T細胞の関与	後藤 大輔	膠原病リウマチアレルギー 内科診療グループ	1,560,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
82	IgG4関連疾患におけるCCL18-CCR8と疾患特異的治療標的分子の探索	坪井 洋人	膠原病リウマチアレルギー 内科診療グループ	1,690,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
83	自己免疫性関節炎における病原性T細胞の分化制御機構の解析	近藤 裕也	膠原病リウマチアレルギー 内科診療グループ	1,560,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
84	シェーグレン症候群における抗原特異的治療法の新規構築	浅島 弘充	膠原病リウマチアレルギー 内科診療グループ	2,080,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
85	関節リウマチにおける抗原特異的治療法の構築	廣田 智哉	膠原病リウマチアレルギー 内科診療グループ	1,950,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
86	シェーグレン症候群における新規治療標的分子NR4A2とDPP4	高橋 広行	膠原病リウマチアレルギー 内科診療グループ	1,600,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
87	エイジングに伴うエピゲノム変化に注目した造血幹細胞の前がん化機構	千葉 滋	血液内科診療グループ	5,590,000	補 科学研究費補助金 新学術領域研究 (研究領域提案型)
88	骨髄赤芽球造血ニッチの解明	千葉 滋	血液内科診療グループ	1,430,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
89	血管免疫芽球性T細胞リンパ腫の病態解明と診断・治療法開発をめざす統合的アプローチ	千葉 滋	血液内科診療グループ	20,280,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(A)
90	新たな巨核球分化経路の探索と、造血幹細胞移植マウスモデルにおける応用	栗田 尚樹	血液内科診療グループ	1,950,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)

91	難治性白血病の病態解明(Notchシグナルによる白血病抑制機構の破綻)	加藤 貴康	血液内科診療グループ	1,560,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
92	T細胞リンパ腫の支持環境細胞クローン進化の解析	坂田 麻実子	血液内科診療グループ	1,690,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
93	同種骨髄移植後の新規免疫モニタリングシステムと免疫寛容メカニズムの解明	錦井 秀和	血液内科診療グループ	1,690,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
94	成人慢性好中球減少症の診療ガイドライン作成に向けた予後追跡調査	千葉 滋	血液内科診療グループ	9,880,000	委 日本医療研究開発機構 (難治性疾患実用化研究)
95	血液がんにおける腫瘍細胞と微小環境との相互作用の分子メカニズムに基づく治療標的の標準化	千葉 滋	血液内科診療グループ	34,000,000	委 日本医療研究開発機構 (次世代がん医療創生研究事業)
96	末梢性T細胞リンパ腫における特異的RHOA遺伝子変異を利用した診断および標的治療の開発	千葉 滋	血液内科診療グループ	500,000	補 特別一産学連携推進プロジェクト 共同研究プロジェクト
97	急性骨髄性白血病と骨髄微小環境の相互作用における分子メカニズムの解明	加藤 貴康	血液内科診療グループ	1,000,000	補 公益財団法人 かなえ医薬振興財団
98	蓄積蛋白質の構造異常による認知症の分子病理診断法およびモデル動物の開発	新井 哲明	精神神経科診療グループ	1,040,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
99	タンパク質-RNA相互作用が及ぼす神経変性疾患の病態機序の解明	東 晋二	精神神経科診療グループ	910,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
100	東日本大震災後5年後の被災者・避難者こころのケアニーズ調査事業	太刀川 弘和	精神神経科診療グループ	3,000,000	補 茨城県保健福祉部 平成28年度 茨城県自殺防止対策モデル事業
101	大学生の自殺予防を目的とするメンタルヘルスリテラシー教育手法の開発	太刀川 弘和	精神神経科診療グループ	1,690,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
102	脳情報の可視化と制御による活力溢れる生活の実現(脳情報クラウド)	根本 清貴	精神神経科診療グループ	7,370,000	委 国立研究開発法人 科学技術振興機構 革新的研究開発推進 プログラム (ImPACT)
103	脳情報の可視化と制御による活力溢れる生活の実現(ユースケース)	根本 清貴	精神神経科診療グループ	2,881,000	委 国立研究開発法人 科学技術振興機構 革新的研究開発推進 プログラム (ImPACT)
104	皮膚筋炎におけるB細胞と自己抗体の病態関与メカニズムの解明	藤本 学	皮膚科診療グループ	5,980,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
105	皮膚苔癬反応におけるランゲルハンス細胞によるCD8 T細胞抑制機構の解明	沖山 奈緒子	皮膚科診療グループ	1,690,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
106	ヒト皮膚resident memory T細胞と皮膚疾患の関わりに関する解析	渡辺 玲	皮膚科診療グループ	2,340,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
107	ロリクリン欠損が末梢免疫に与える影響	石塚 洋典	皮膚科診療グループ	1,430,000	補 科学研究費補助金 研究活動スタート支援
108	移植片対宿主病(GVHD)様皮膚粘膜疾患モデルを用いた苔癬反応における表皮角化細胞アポトーシス機構の解明と治療法開発	沖山 奈緒子	皮膚科診療グループ	500,000	補 一般財団法人 リディアオリリー記念 ピアス皮膚科学振興財団
109	皮膚疾患臨床像の多様性におけるヒト皮膚T細胞の役割の検討	渡辺 玲	皮膚科診療グループ	2,000,000	補 ロート皮膚医学研究基金
110	尋常性乾癬における皮膚resident memory T細胞マーカーCD69、CD103の役割の検討	渡辺 玲	皮膚科診療グループ	2,000,000	補 GSKジャパン研究助成
111	全身性強皮症の病態における皮膚T細胞の役割の検討	渡辺 玲	皮膚科診療グループ	1,000,000	補 日本応用酵素協会 若手研究助成
112	高性能の新規RNAベクターによる血友病遺伝子治療の開発	須磨崎 亮	小児(内)診療グループ	22,499,000	委 日本医療研究開発機構 再生医療実用化研究事業
113	新規高性能ベクターを生体イメージングで評価し血友病遺伝子治療に応用するための研究	福島 敬	小児(内)診療グループ	1,040,000	補 学術研究助成基金助成金 挑戦的萌芽研究

114	新しい心磁図指標を用いた小児の早期再分極症例の突然死リスク評価に関する研究	加藤 愛章	小児(内)診療グループ	1,950,000	補 学術研究助成基金助成金 若手研究(B)
115	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症2型患者のiPS細胞由来肝細胞を用いた治療薬の探索	今川 和生	小児(内)診療グループ	1,170,000	補 学術研究助成基金助成金 若手研究(B)
116	微量血液による多種血糖制御ペプチド測定系を応用した、小児の新規糖尿病治療法開発	岩淵 敦	小児(内)診療グループ	1,430,000	補 学術研究助成基金助成金 若手研究(B)
117	「陽子線照射後のQOL調査」に対する研究助成	福島 絢子	小児(内)診療グループ	1,000,000	補 公益財団法人 がんの子供を守る会
118	「新生児・乳児・小児の慢性炎症性消化管疾患における消化管粘膜の形態学的変化と栄養・代謝との関連に関する臨床研究」に対する研究助成	田川 学	小児(内)診療グループ	450,000	補 財団法人 森永奉仕会
119	救急現場における周産期救急〜わが国の実態調査と病院前 周産期救急教育のあり方に関する検討	宮園 弥生	小児(内)診療グループ	2,000,000	委 一般財団法人 救急振興財団委託研究事業
120	平成28年度大学外角推進等補助金「大学・大学院及び附属病院における人材養成機能強化事業(課題解決型高度医療人材養成プログラム)」	須磨崎 亮	小児(内)診療グループ	40,970,000	補 文部科学省 大学教育再生戦略推進費 平成28年度大学外角推進等補助金
121	B型肝炎ワクチン反応性を規定するClass II H	酒井 愛子	小児(内)診療グループ	1,400,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
122	自家臍帯幹細胞シート移植による先天性横隔膜ヘルニアにおける低形成肺の再生	新開 統子	小児(外)診療グループ	1,650,162	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
123	先天性横隔膜ヘルニアにおける肺低形成と肺高血圧への薬物治療の研究	高安 肇	小児(外)診療グループ	1,820,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
124	末梢神経再生技術の形成外科領域への導入	関堂 充	形成外科診療グループ	1,100,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
125	認知症患者のバランス障害に対する前庭刺激効果の解明および臨床応用	中馬越清隆	脳神経(内)診療グループ	1,430,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
126	経口免疫寛容の誘導による外来遺伝子発現法の検討	石井 重紀子	脳神経(内)診療グループ	1,820,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
127	ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究―試薬からの希少疾病治療薬開発の試み―	石井 重紀子	脳神経(内)診療グループ	4,550,000	委 厚生労働科学委託費 (難治性疾患等実用化研究)
128	成人におけるジフェニルアルシン酸等に係る健康影響に関する臨床研究	石井 一弘	脳神経(内)診療グループ	3,736,097	委 環境省 平成28年度「ジフェニルアルシン酸等に係る健康影響に関する調査研究」
129	モデル動物を用いたジフェニルアルシン酸(DPAA)の生体影響	玉岡 晃	脳神経(内)診療グループ	12,386,696	委 環境省 平成28年度「ジフェニルアルシン酸等に係る健康影響に関する調査研究」
130	アルツハイマー病の予防的治療法にむけた毒性Aβコンホマーによる新規診断マーカー	富所 康志	脳神経(内)診療グループ	1,170,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
131	アルツハイマー病における病因関連分子の分子種依存的なミトコンドリア障害の解析	玉岡 晃	脳神経(内)診療グループ	1,820,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
132	多機能レーザー内視鏡治療機器を用いた超低侵襲内視鏡手術	阿久津 博義	脳神経(外)診療グループ	1,800,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
133	神経血管ワイアリング分子を標的とした脳腫瘍の血管新生抑制療法	高野 晋吾	脳神経(外)診療グループ	5,460,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
134	血管新生因子アンチセンスホモロジーボックス由来ペプチドによる脳梗塞の血管新生療法	高野 晋吾	脳神経(外)診療グループ	1,300,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
135	頭頸部血管形成術後再狭窄に対するナノ粒子を用いた診断・治療についての基礎的研究	鶴田 和太郎	脳神経(外)診療グループ	1,690,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
136	病院併設BNCTにむけた血液・組織内ホウ素分析手法の最適化	中井 啓	脳神経(外)診療グループ	1,430,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)

137	ホウ素中性子線療法用のナノカーボンホウ素キャリアーの開発	松村 明	脳神経(外)診療グループ	230,000	補 産業技術総合研究所と筑波大学の合わせ技ファンド事業
138	病院内加速器中性子捕捉療法確立のための基礎的・臨床的研究	松村 明	脳神経(外)診療グループ	2,860,000	補 科学研究費補助金 基礎研究(B)
139	不活化ウイルス粒子による脳腫瘍幹細胞を標的とした新規核酸医薬療法の開発	松田 真秀	脳神経(外)診療グループ	1,300,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
140	TEMPO-RNPによる脳梗塞再開通療法後における再灌流障害と出血性脳梗塞の予防	丸島 愛樹	脳神経(外)診療グループ	1,885,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
141	中性アミノ酸プレローディングによる中性子捕捉療法(BNCT)の確立	山本 哲哉	脳神経(外)診療グループ	1,433,212	補 科学研究費補助金 基礎研究(C)
142	グリオーマ幹細胞に対する免疫チェックポイント阻害薬とワクチン療法の併用	石川 栄一	脳神経(外)診療グループ	1,400,000	補 科学研究費補助金 基礎研究(C)
143	徐放性DDSと未分化細胞を用いた脳虚血に対する再生医療の基礎的研究	鶴嶋 英夫	脳神経(外)診療グループ	2,600,000	補 科学研究費補助金 基礎研究(C)
144	脳血管障害による片麻痺の歩行・下肢体幹運動機能改善効果を得るための新たな医療機器、下肢着型型ロボットスーツHALに関する医師主導治験	鶴嶋 英夫	脳神経(外)診療グループ	80,000,000	委 日本医療研究開発機構 AMED
145	入院患者および接続医療機器の異常検出技術とその医療従事者への伝達方法	鶴嶋 英夫	脳神経(外)診療グループ	2,000,000	補 産業技術総合研究所と筑波大学の合わせ技ファンド事業
146	健康起因交通事故撲滅のための医工連携研究開発コンソーシアム(aMECC,automotive and Medical Concert consortium)」	鶴嶋 英夫	脳神経(外)診療グループ	180,000,000	補 コンソーシアム
147	下視不能な体内植え込み型医療機器のリアルタイム可視化装置の開発	鶴嶋 英夫	脳神経(外)診療グループ	1,000,000	補 TIA連携プログラム探索推進事業「かけはし」
148	ニューロコミュニケーターの病室内利用の可能性の検討	鶴嶋英夫	脳神経(外)診療グループ	2,000,000	補 産業技術総合研究所と筑波大学の合わせ技ファンド事業
149	RNP による頸動脈狭窄モデル・メタボリックマウスにおける動脈硬化抑制効果	滝川 知司	脳神経(外)診療グループ	4,680,000	補 科学研究費補助金 基礎研究(C)
150	神経管閉鎖不全症の早期体内分子診断法の確立	鶴淵 隆夫	脳神経(外)診療グループ	1,300,000	補 科学研究費補助金 研究活動スタート支援
151	急性期脳主幹動脈閉塞に対する血行再建療法の適応基準策定に関する研究	早川 幹人	脳神経(外)診療グループ	1,430,000	補 科学研究費補助金 基礎研究(C)
152	実測線量データに基づくIVR被曝管理技術の開発と多職種連携治療支援体制の構築	松丸祐司	脳神経(外)診療グループ	3,250,000	補 科学研究費補助金 基礎研究(C)
153	神栖市ー筑波大学区共同プロジェクト Brain Rescue KAMISU	鶴田 和太郎	脳神経(外)診療グループ	500,000	神栖市 一般受託研究費 神栖市まちづくり推進事業
154	コンビネーション医療機器の革新的評価法の構築	山崎 正志	整形外科診療グループ	3,000,000	補 科学研究費補助金 基礎研究(C)
155	革新的医療機器開発:骨粗鬆症高齢者でも弛まない骨固定材料・成長因子含有アパタイトコーティングネジ	山崎 正志	整形外科診療グループ	3,000,000	補 特別ー産学連携推進プロジェクト マッチングファンドプロジェクト
156	小中学生の運動器障害に対する運動器検診の構築と予防の取り組み	鎌田 浩史	整形外科診療グループ	4,550,000	補 科学研究費補助金 基礎研究(C)
157	腰痛予防対策指針策定に向けた重量物取り扱い、介護・看護作業における装着型ロボットの腰部負担軽減効果および作業省力化に関する研究	安部 哲哉	整形外科診療グループ	10,000,000	補 労災疾病臨床研究事業費 補助金
158	末梢神経欠損間隙の新治療法:末梢神経両断端緩徐伸長法の実用化に向けて	原 友紀	整形外科診療グループ	1,950,000	補 科学研究費補助金 基礎研究(C)
159	関節リウマチモデルマウスにおける光線力学療法による関節炎抑制	大西 信三	整形外科診療グループ	2,500,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)

160	加齢黄斑変性症における異常凝集蛋白質の 同定および新規治療薬・光線力学療法の開 発	加治 優一	眼診療グループ	1,170,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
161	高次収差解析による近視進行コアメカニズム の解明と新理論に基づく近視抑制CLの開発	平岡 孝浩	眼診療グループ	1,560,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
162	組織シーラントによる新しい網膜剥離手術手 技の開発とヒトへの臨床応用	岡本 史樹	眼診療グループ	1,300,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
163	食品添加物由来の組織シーラントを用いた 結膜癒着防止効果の検討	岡本 芳史	眼診療グループ	2,600,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
164	非膨潤性ハイドロゲルを眼内タンポナーデと して用いた網膜剥離手術の検討	星 崇仁	眼診療グループ	1,560,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
165	「眼科学に関する研究」に対する研究助成	大鹿 哲郎	眼診療グループ	523,000	委 公益財団法人茨城県アイバ ンク
166	婦人科がんの系統的、総合的周術期VTE予 防法の確立およびVTE発生機序の解明	佐藤 豊実	婦人・周産期科診療グルー プ	910,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
167	妊娠・授乳期における医療用医薬品の使用 上の注意の在り方に関する研究	濱田 洋実	婦人・周産期科診療グルー プ	2,700,000	委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構・ 医薬品等規制 調和・評価研究事業
168	総合周産期母子医療センター内助産システ ムを中核とする新規地域産科医療モデルの 構築	濱田 洋実	婦人・周産期科診療グルー プ	800,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
169	次世代シークエンサーによるHPV準種解 析:子宮頸部発癌との関連について	小貫 麻美子	婦人・周産期科診療グルー プ	1,430,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
170	婦人科悪性腫瘍におけるTFの発現と過凝固 状態についての研究	櫻井 学	婦人・周産期科診療グルー プ	780,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
171	子宮体癌における統合的ゲノム・エピゲノム 解析に基づく新規分子標的治療の探索	水口 剛雄	婦人・周産期科診療グルー プ	1,560,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
172	蝸牛発生、機能維持、蝸牛障害におけるセラ ミド、スフィンゴ脂質の影響の検討	田淵 経司	耳鼻咽喉科診療グループ	700,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
173	疼痛による扁桃体抑制性神経回路可塑性機 構の解明	山本 純偉	麻酔科診療グループ	2,612,013	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
174	Neurogenesisに焦点をあてた術後の認知機 能障害の発症機序と予防法の解明	山下 創一郎	麻酔科診療グループ	1,300,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
175	蘇生後症候群へのスタチンの多面効果: 水 溶性と脂溶性の比較	中山 慎	麻酔科診療グループ	700,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
176	術後認知障害におけるオランザピンの効果	福田 妙子	麻酔科診療グループ	780,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
177	加齢が術後認知機能に与える経時的変化の 解明とその予防についての研究	田口 典子	麻酔科診療グループ	1,950,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
178	マウスの心肺停止を用いた全脳虚血に対す るフルオキセチン投与長期予後の検討	田口 典子	麻酔科診療グループ	822,716	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
179	安全な街 神栖 ～市民が守る市民の命/ 救急教育強化プロジェクト～	高橋 伸二	麻酔科診療グループ	900,000	委 神栖市(受託研究費)
180	スードラット末梢神経損傷に対するヒト歯髄幹 細胞の神経再生効果	武川 寛樹	歯・口腔外科診療グループ	2,080,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
181	microRNAを切り口とした口腔癌発癌メカニ ズムの解明	内田 文彦	歯・口腔外科診療グループ	1,820,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
182	口腔がん関連microRNAの総合的機能解析 と新規治療法の探索	武川 寛樹	歯・口腔外科診療グループ	4,940,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)

183	閉経女性のエストロゲン欠乏によるサルコペニア肥満のリスク増大とNrf2の抑止効果	山縣 憲司	歯・口腔外科診療グループ	1,560,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
184	海馬の疼痛記憶形成異常仮説による舌痛症モデル動物の構築と解析	柳川 徹	歯・口腔外科診療グループ	1,820,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
185	Nrf2-p62ダブルノックアウトを用いたオートファジー異常による肝発癌の解析	柳川 徹	歯・口腔外科診療グループ	5,590,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
186	想定外のストレス下での精神・自律神経系の恒常性維持機構の解明	松崎 一葉	保健衛生外来診療グループ	15,080,000	補 科学研究費補助金 新学術領域研究 (研究領域提案型)
187	メコン川流域国における急速なモーターゼーションから子どもの命と健康を守る	市川 政雄	保健衛生外来診療グループ	1,300,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
188	依存物質再使用リスク測度の潜在的指標を用いた改良および治療応用	大谷 保和	保健衛生外来診療グループ	1,000,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
189	救命センターにおける多剤耐性アシネトバクターバウマニ感染経路の解明	井上 貴昭	救急・集中治療診療グループ	2,340,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
190	Exploration of the role of environmental chemical (arsenic) in the development of diabetes and the related metabolic disorders for South Asian Countries	河野 了	救急・集中治療診療グループ	5,590,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
191	敗血症超急性期モデル動物に対するTEMPO-RNPを用いた抗酸化ストレス療法	下條 信威	救急・集中治療診療グループ	1,170,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
192	TEMPO-RNPによる脳梗塞再開通療法後における再灌流障害と出血性脳梗塞の予防	丸島 愛樹	救急・集中治療診療グループ	1,040,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
193	近赤外線分光法を用いた心肺脳蘇生の新しい評価方法ー簡易で非侵襲でリアルタイムにー	小山 泰明	救急・集中治療診療グループ	2,600,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
194	敗血症によるエンドトキシン血症が筋力に及ぼす影響に関する研究	榎本 有希	救急・集中治療診療グループ	1,430,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
195	次世代型マルチ粒子線治療の臨床応用のための基盤研究	櫻井 英幸	放射線腫瘍科診療グループ	5,460,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
196	加速器型治療装置によるホウ素中性子捕捉療法(BNCT)の医師主導治験	櫻井 英幸	放射線腫瘍科診療グループ	60,000,000	委 日本医療研究開発機構
197	局所限局性前立腺癌中リスク症例に対する陽子線治療の多施設共同臨床試験	櫻井 英幸	放射線腫瘍科診療グループ	19,981,000	委 日本医療研究開発機構
198	放射線照射とiPS細胞による新たながん治療	坪井 康次	放射線腫瘍科診療グループ	1,690,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
199	DNA損傷と細胞死応答に基づく「がん陽子線・複合免疫療法」の開発	坪井 康次	放射線腫瘍科診療グループ	6,630,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
200	あらゆる放射線外部照射の治療計画が可能なオールモダリティ治療計画システムの開発	熊田 博明	放射線腫瘍科診療グループ	1,560,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
201	BNCT照射中の患者の動きに追従してリアルタイム線量評価を行うシステムの開発	熊田 博明	放射線腫瘍科診療グループ	4,940,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
202	医療用加速器中性子源技術の産業利用への応用に関する研究	熊田 博明	放射線腫瘍科診療グループ	24,830,000	委 JST A-STEP産業 ニーズ対応タイプ

203	残肝機能に着目した陽子線照射の最適化に関する研究	奥村 敏之	放射線腫瘍科診療グループ	780,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
204	難治性頭頸部癌癌素中性子捕捉療法と併用療法上乗せ効果の研究	栗飯原 輝人	放射線腫瘍科診療グループ	2,210,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
205	機能画像情報を利用した非アルコール性脂肪性肝疾患の非侵襲的病態評価法の確立	磯辺 智範	放射線腫瘍科診療グループ	1,040,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
206	病院併設型中性子捕捉療法を用いた難治性癌克服の研究	福光 延吉	放射線腫瘍科診療グループ	9,230,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
207	本邦初の99Mo/99mTc国産化を目指した99Mo/99mTcジェネレータ開発	福光 延吉	放射線腫瘍科診療グループ	1,950,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
208	BNCTに関連した患者体内ホウ素濃度分布の非侵襲的計測機器の開発	安岡 聖	放射線腫瘍科診療グループ	3,770,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
209	次世代型ホウ素中性子捕捉療法の実現に向けた多角的アプローチ	松本 孔貴	放射線腫瘍科診療グループ	1,300,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
210	葉酸修飾シクロデキストリンによる新規ホウ素中性子捕捉療法キャリア技術の開発	松本 孔貴	放射線腫瘍科診療グループ	1,450,000	補 日本医療研究開発機構(橋渡し研究加速ネットワークプログラム)
211	治療用高エネルギーX線を利用した体内線量リアルタイムモニタリングシステムの開発	武居 秀行	放射線腫瘍科診療グループ	2,210,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
212	スキャンニング照射のインタープレイ効果軽減に向けたシステムの最適化	神澤 聡	放射線腫瘍科診療グループ	780,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
213	温熱療法の陽子線治療に対する増感効果の基礎的検討	斎藤 高	放射線腫瘍科診療グループ	2,370,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
214	多角的なMRI評価を用いたスポーツアスリートの筋コンディショニングの試み	岡本嘉一	放射線診断・IVR	1,240,299	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
215	我が国における地域枠制度の実態・効果および地域枠学生のキャリア形成に関する調査・研究	前野 哲博	総合診療グループ	13,000,000	委 文部科学省 平成28年度 大学における医療人養成の 在り方に関する調査研究 委託事業
216	大学生におけるアルコール使用障害のスクリーニングに関する研究	吉本 尚	総合診療グループ	2,340,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
217	非がん疾患の終末期医療の実態に関する調査事業	濱野 淳	総合診療グループ	1,000,000	委 公益財団法人 日本ホスピス・緩和ケア 研究振興財団
218	客観的専門職連携能力実施試験の開発と試験が及ぼすインパクトの検証	春田 淳志	総合診療グループ	1,400,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
219	地域枠医学生の医師不足地域での従事意思についての全国調査	高屋敷 明由美	総合診療グループ	800,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
220	小中学校がん教育プログラムを通じたがん検診受診の促進とその検証	横谷 省治	総合診療グループ	900,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
221	大教室で1日のできるチーム医療教育プログラムパッケージの開発と教育効果の検証	前野 貴美	総合診療グループ	1,000,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
222	革新的がん診断・治療・創薬開発のための基礎探索研究拠点の構築	野口 雅之	病理診断診療グループ	18,200,000	補 文部科学省 H28年度概算要求機能 強化経費教育研究活動
223	初期浸潤肺腺がん凍結組織培養を利用した肺腺がんの悪性化分子機構の解明	竹内 朋代	病理診断診療グループ	1,430,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
224	患者由来XGマウスを用いたIGBP1関連miRNAの肺癌治療における機序の検討	坂下 信悟	病理診断診療グループ	1,170,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)

225	セルフリーDNAを用いた乳癌の予後予測法の開発	野口 恵美子	遺伝診療グループ	1,820,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
226	出生コホート研究によるアレルギー疾患の遺伝環境要因の解明	野口 恵美子	遺伝診療グループ	7,410,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(B)
227	悪性中皮腫における薬剤耐性の克服と分子標的治療の開発	関根 郁夫	腫瘍内科診療グループ	400,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
228	漢方エキス剤の使用実態に基づく偽アルドステロン症のリスク因子の解明	本間 真人	薬剤部	1,820,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
229	新規経口抗凝固薬の血中薬物濃度を指標とした個別投与設計法の構築	土岐 浩介	薬剤部	1,430,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
230	高度周産期医療施設勤務助産師のワークエンゲージメント向上プログラムの開発	小泉 仁子	看護部	800,000	補 科学研究費補助金 基盤研究(C)
231	「育児ストレス」軽減に向けた認知行動療法プログラムの開発	山海 千保子	看護部	300,000	補 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
232	重症呼吸不全患者に対する安全で効果的な気道クリアランス方法に関する検討	櫻本 秀明	看護部	1,000,000	補 科学研究費補助金 若手研究(B)
233	ミトコンドリア行病MELAS成人例における心エコー図所見に関する研究	椎名 亮揮	検査部	560,000	補 科学研究費補助金 奨励研究
234	放射線治療における全身照射の高精度治療計画システムの構築	小林 大輔	放射線部	570,000	補 科学研究費補助金 奨励研究

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					Review
4		別紙のとおり			Letter
5					Others
6					
～					
70					
～					

計430件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2		別紙のとおり			Case report
3					
～					

計443件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名	論文種別
1	Masuda K	循環器(内)診療グループ	Conversion to Purkinje-Related Monomorphic Ventricular Tachycardia After Ablation of Ventricular Fibrillation in Ischemic Heart Disease.	Circ Arrhythm Electrophysiol 2016 Sep;9(9). pii: e004224. doi: 10.1161/CIRCEP.116.004224	Original Article
2	Machino-Ohtsuka T	循環器(内)診療グループ	Novel Mechanistic Insights Into Atrial Functional Mitral Regurgitation - 3-Dimensional Echocardiographic Study.	Circ J 2016 Sep 23;80(10):2240-8. doi: 10.1253/circj.CJ-16-0435. Epub 2016 Aug 17.	Original Article
3	Hiraya D	循環器(内)診療グループ	Life-threatening acute occlusion between interposed graft and left coronary artery after modified Bentall operation.	Eur Heart J 2017 Jul 1;38(25):2019. doi: 10.1093/eurheartj/ehw605.	Original Article
4	Komatsu Y	循環器(内)診療グループ	Fascicular Ventricular Tachycardia Originating From Papillary Muscles:Purkinje Network Involvement in the Reentrant Circuit.	Circ Arrhythm Electrophysiol 2017 Mar;10(3). pii: e004549. doi: 10.1161/CIRCEP.116.004549.	Original Article
5	Sato K	循環器(内)診療グループ	Reliability of Aortic Stenosis Severity Classified by 3-Dimensional Echocardiography in the Prediction of Cardiovascular Events.	Am J Cardiol 2016 Aug 1;118(3):410-7. doi: 10.1016/j.amjcard.2016.05.016. Epub 2016 May 14.	Original Article
6	Kawabe M	循環器(内)診療グループ	Author's reply. (Sex differences in the association between serum uric acid and cardiac mortality in Asia patients with established coronary artery disease:A revisit of the ET-CHD registry in Taiwan. 1997-2003 reply)	J Cardiol 2016 Nov;68(5):461-462. doi: 10.1016/j.jcc.2016.03.002. Epub 2016 Mar 26.	Original Article
7	石津 智子	循環器(内)診療グループ	Noninvasive Localization of Accessory Pathways in Wolff-Parkinson-White Syndrome by Three-Dimensional Speckle Tracking Echocardiography	CIRCULATION-CARDIOVASCULAR IMAGING 2016 Jun;9(6). pii: e004532. doi: 10.1161/CIRCIMAGING.116.004532	Original Article
8	吉田 健太郎	循環器(内)診療グループ	Bradycardia-dependent rise in the atrial capture threshold early after cardiac pacemaker implantation in patients with sick sinus syndrome	Heart Rhythm Case Reports 2015 Oct 3;2(1):27-31. doi: 10.1016/j.hrcr.2015.08.012. eCollection 2016 Jan.	Original Article
9	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	Estimation of Central Venous Pressure Using the Ratio of Short to Long Diameter from Cross-Sectional Images of the Inferior Vena Cava	Journal of the American Society of Echocardiography : official publication of the American Society of Echocardiography 2017 May;30(5):461-467. doi: 10.1016/j.echo.2016.12.002. Epub 2017 Jan 5.	Original Article
10	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	Incremental Value of Speckle Tracking Echocardiography to Predict Cardiac Resynchronization Therapy (CRT) Responders	JOURNAL OF THE AMERICAN HEART ASSOCIATION 2016 Oct 19;5(10). pii: e003882.	Original Article
11	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	Clinical Implications of Intrarenal Hemodynamic Evaluation by Doppler Ultrasonography in Heart Failure	JACC-HEART FAILURE 2016 Aug;4(8):674-82. doi: 10.1016/j.jchf.2016.03.016. Epub 2016 May 11.	Original Article
12	佐藤 明	循環器(内)診療グループ	Efficacy of Endeavor zotarolimus-eluting stent implantation for the treatment of very late stent thrombosis with late-acquired incomplete stent apposition after sirolimus-eluting stent implantation	Heart Vessels 31,p.1196-1199,2016	Original Article
13	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	Right Ventricular Deformation Analyses Using a Three-Dimensional Speckle-Tracking Echocardiographic System Specialized for the Right Ventricle	JOURNAL OF THE AMERICAN SOCIETY OF ECHOCARDIOGRAPHY 2016 May;29(5):402-411.e2. doi: 10.1016/j.echo.2015.12.014. Epub 2016 Feb 12.	Original Article
14	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	Optimal cut-off value of reverse remodeling to predict long-term outcome after cardiac resynchronization therapy in patients with ischemic cardiomyopathy.	J Cardiol 2017 Feb;69(2):456-461. doi: 10.1016/j.jcc.2016.01.016. Epub 2016 Mar 2.	Original Article
15	山崎 浩	循環器(内)診療グループ	Unexpected Electrical Isolation of the Superior Vena Cava During Radiofrequency Hot Balloon Ablation in the Right Superior Pulmonary Vein	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society 2017 Apr 25;81(5):763-765. doi: 10.1253/circj.CJ-16-1055. Epub 2016 Dec 28.	Original Article
16	村越 伸行	循環器(内)診療グループ	Catheter ablation for ventricular tachyarrhythmia in patients with channelopathies	JOURNAL OF ARRHYTHMIA 2016 Oct;32(5):404-410. Epub 2016 Jun 10.	Original Article
17	佐藤 明	循環器(内)診療グループ	Coronary plaque morphology on multi-modality imagining and periprocedural myocardial infarction after percutaneous coronary intervention.	IJC Heart Vasculature 2016 Mar 17;11:43-48. doi: 10.1016/j.ijcha.2016.03.009. eCollection 2016 Jun.	Original Article
18	佐藤 明	循環器(内)診療グループ	Author's reply	JOURNAL OF CARDIOLOGY 2017 Mar 24;81(4):579-580. doi: 10.1253/circj.CJ-16-1088. Epub 2016 Nov 22.	Original Article
19	佐藤 明	循環器(内)診療グループ	Stent Recoil Manifesting as Early Stent Thrombosis After Ultimaster Thin-Strut, Cobalt-Chromium Sirolimus-Eluting Stent Implantation	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society 2017 Mar 24;81(4):579-580. doi: 10.1253/circj.CJ-16-1088. Epub 2016 Nov 22.	Original Article
20	佐藤 明	循環器(内)診療グループ	Association of contrast-induced nephropathy with risk of adverse clinical outcomes in patients with cardiac catheterization: From the CINC-J study	INTERNATIONAL JOURNAL OF CARDIOLOGY 2017 Jan 15;227:424-429. doi: 10.1016/j.ijcard.2016.11.019. Epub 2016 Nov 7.	Original Article
21	酒井 俊	循環器(内)診療グループ	Glucagon-Like Peptide-1 Receptor Agonist Ameliorates Pulmonary Hypertension Partly via eNOS Activation	JOURNAL OF VASCULAR RESEARCH 2016-11-07--2016-11-09	Original Article
22	佐藤 明	循環器(内)診療グループ	Life-threatening simultaneous acute stent thrombosis associated with anaphylactic shock due to contrast material	European heart journal 2017 Apr 7;38(14):1085-1086. doi: 10.1093/eurheartj/ehw600.	Original Article
23	星 智也	循環器(内)診療グループ	No recommendation of routine perioperative statin use for prevention of acute kidney injury in patients undergoing cardiac surgery	JOURNAL OF THORACIC DISEASE 2016 Jul;8(7):E618-20. doi: 10.21037/jtd.2016.05.45.	Original Article
24	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	The sphericity index of cross-section of inferior vena cava as a reliable parameter to estimate central venous pressure	EUROPEAN HEART JOURNAL 37,1,p.469-469,2016-08	Original Article
25	山本 昌良	循環器(内)診療グループ	Mechanical resynchronization by cardiac resynchronization therapy augments early diastolic intraventricular pressure gradient and improves energy efficiency	EUROPEAN HEART JOURNAL 37,1,p.254-255,2016-08	Original Article
26	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	Validation of incremental value of speckle tracking echocardiography to predict CRT responders	EUROPEAN HEART JOURNAL 37,1,p.850-850,2016-08	Original Article
27	田尻 和子	循環器(内)診療グループ	Recent advances in the management of autoimmune myocarditis: insights from animal studies	CURRENT PHARMACEUTICAL DESIGN 2016;22(4):427-39	Original Article
28	井藤 葉子	循環器(内)診療グループ	Aortic Calcification and Superior-Mesenteric-Artery Stenosis	NEW ENGLAND JOURNAL OF MEDICINE 2016 Aug 11;375(6):566. doi: 10.1056/NEJMicm1513692.	Original Article
29	関口 幸夫	循環器(内)診療グループ	Conservative therapy for the management of cardiac implantable electronic device infection	JOURNAL OF ARRHYTHMIA 2016 Aug;32(4):293-6. doi: 10.1016/j.joa.2015.09.012. Epub 2015 Nov 19	Original Article
30	野上 昭彦	循環器(内)診療グループ	What Is the Real Identity of the Mysterious Potential P1, and What Is the Most Important Segment of the Fascicular Ventricular Tachycardia Circuit?	CIRCULATION-ARRHYTHMIA AND ELECTROPHYSIOLOGY 2016 Sep;9(9). pii: e004517. doi: 10.1161/CIRCEP.116.004517.	Original Article
31	酒井 俊	循環器(内)診療グループ	Serum lipoprotein (a) is associated with the presence of ruptured plaque determined by optical coherence tomography in coronary artery disease	EUROPEAN HEART JOURNAL 37,1,p.110-110,2016-08	Original Article

32	本田 洵也	循環器(内)診療グループ	The glucagon-like peptide-1 receptor agonist ameliorates hypoxia induced pulmonary hypertension in mice model	EUROPEAN HEART JOURNAL,37,1,p.1147-1147,2016-08	Original Article
33	井藤 葉子	循環器(内)診療グループ	What is the useful parameter for effective clinical ablation in atrial fibrillation with contact force catheter at each points?	EUROPEAN HEART JOURNAL,37,1,p.1085-1085,2016-08	Original Article
34	酒井 俊	循環器(内)診療グループ	Clinical impact of a newly diagnosed cancer in patients with acute coronary syndrome undergoing emergent percutaneous coronary intervention	EUROPEAN HEART JOURNAL,37,1,p.773-773,2016-08	Original Article
35	五十嵐 都	循環器(内)診療グループ	Fragmented QRS Is a Novel Risk Factor for Ventricular Arrhythmic Events After Receiving Cardiac Resynchronization Therapy in Nonischemic Cardiomyopathy	Journal of cardiovascular electrophysiology 2017 Mar;28(3):327-335. doi: 10.1111/jce.13139. Epub 2017 Jan 18	Original Article
36	吉田 健太郎	循環器(内)診療グループ	Optimal configurations for bipolar radiofrequency ablation that allow deeper lesion formation: Good catheter-tip cooling, good catheter-tissue contact, and the next	HEART RHYTHM 2016 Nov;13(11):2172-2173. doi: 10.1016/j.hrthm.2016.07.031. Epub 2016 Jul 30	Original Article
37	Yoneyama F	循環器(外)診療グループ	Postoperative dysphagia in debranching TEVAR with retroesophageal carotid-carotid bypass	Ann Vasc Surg. In press 2017 Aug;43:315.e1-315.e4. doi: 10.1016/j.javs.2017.01.030. Epub 2017 May 4.	Original Article
38	Yoneyama F	循環器(外)診療グループ	Mid-term outcomes of isolated versus combined valve surgery in elderly patients.	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2017	Original Article
39	Yoneyama F	循環器(外)診療グループ	Interventricular septal hematoma associated with congenital heart surgery: Case report and literature review.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2016; 153: e55-57. 2017 Apr;153(4):e55-e57. doi: 10.1016/j.jitcvs.2016.10.053. Epub 2016 Nov 8.	Original Article
40	Imai A	循環器(外)診療グループ	Coil embolization-assisted thoracic endovascular aortic repair for multiple sacular descending aortic aneurysms with insufficient landing zone.	Ann Vasc Surg 2016 Nov 28. doi: 10.1016/j.javsg.2016.07.093. [Epub ahead of print] 2017 Feb;39:290.e17-290.e20. doi: 10.1016/j.javsg.2016.07.093. Epub 2016 Nov 28.	Original Article
41	Yoneyama F	循環器(外)診療グループ	Complex coronary artery aneurysm.	J Card Surg 2016 Nov 14. doi: 10.1111/jocs.12868. [Epub ahead of print] 2017 Jan;32(1):26-27. doi: 10.1111/jocs.12868. Epub 2016 Nov 14.	Original Article
42	Miya K	循環器(外)診療グループ	Renal contrast microangiography with synchrotron radiation: a novel method for visualizing structures within nephrons in vivo.	Acta Radiol 2016 Jul 20. pii: 0284185116658685 2017 Apr;58(4):505-510. doi: 10.1177/0284185116658685. Epub 2016 Jul 22	Original Article
43	Thang Q	循環器(外)診療グループ	Mid-term results of a modification of extended aortic arch anastomosis in single ventricle neonates with hypoplastic transverse aortic arch.	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2016, In press 2016 Dec 20;22(6):340-347. doi: 10.5761/atcs.oa.16-00170. Epub 2016 Oct 11	Original Article
44	Fuji S	循環器(外)診療グループ	Association between endothelial function and micro-vascular remodeling measured by synchrotron radiation pulmonary micro-angiography in pulmonary arterial	General Thoracic Cardiovascular Surgery 2016; 64: 597-603. 2016 Oct;64(10):597-603. doi: 10.1007/s11748-016-0684-6. Epub 2016 Jul 8.	Original Article
45	松崎 寛二	循環器(外)診療グループ	Intravenous lobular capillary hemangioma in the subclavian vein	Ann Thorac Surg 2016 Nov;102(5):e427-e429. doi: 10.1016/j.jathoracsurg.2016.04.013	Original Article
46	大坂 基男	循環器(外)診療グループ	Rupture of the right upper pulmonary vein and left atrium caused by blunt chest trauma.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2017 Nov;65(11):646-649. doi: 10.1007/s11748-017-0749-1. Epub 2017 Feb 1.	Original Article
47	坂本 裕昭	循環器(外)診療グループ	Intramyocardial lipoma	JOURNAL OF CARDIAC SURGERY 2016 Nov;31(11):689. doi: 10.1111/jocs.12854. Epub 2016 Sep 28.	Original Article
48	松崎 寛二	循環器(外)診療グループ	Infective endocarditis of an aorto-right atrial fistula caused by asymptomatic rupture of a sinus of Valsalva aneurysm: a case report	Surg Case Rep. 2016 Dec;2(1):43. doi: 10.1186/s40792-016-0171-4. Epub 2016 May 15	Original Article
49	松崎 寛二	循環器(外)診療グループ	Thick lung wedge resection for acute life-threatening massive hemoptysis due to aortobronchial fistula	J Thorac Dis 2016 Sep;8(9):E957-E960.	Original Article
50	松崎 寛二	循環器(外)診療グループ	Radiopaque Ruler-Guided Frozen Elephant Trunk Technique	Ann Vasc Dis 2016;9(4):352-355. doi: 10.3400/avd.hdi.16-00019. Epub 2016 Sep 15.	Original Article
51	Yamada	消化器(内)診療グループ	Oncolytic Virotherapy and Gene Therapy Strategies for Hepatobiliary Cancers.	Curr Cancer Drug Targets. 2017 Mar 30. doi: 10.2174/1568009617666170330123841. [Epub ahead of print]	Original Article
52	Fukuda K	消化器(内)診療グループ	Long-term outcomes of proton beam therapy in patients with previously untreated hepatocellular carcinoma.	Cancer Sci. 2017 Mar;108(3):497-503. doi: 10.1111/cas.13145.	Original Article
53	Akutsu D	消化器(内)診療グループ	A Rare Case of Colonic Leiomyosarcoma in Association with Ulcerative Colitis.	Intern Med. 2016;55(19):2799-2803. Epub 2016 Oct 1.	Original Article
54	Ito H	消化器(内)診療グループ	Reactive oxygen species induced by non-steroidal anti-inflammatory drugs enhance the effects of photodynamic therapy in gastric cancer cells.	J Clin Biochem Nutr. 2016 May;58(3):180-5. doi: 10.3164/jcbn.15-124. Epub 2016 Feb 19.	Original Article
55	Moriwaki T	消化器(内)診療グループ	Correlations of survival with progression-free survival, response rate, and disease control rate in advanced biliary tract cancer: a meta-analysis of randomised trials of first-line chemotherapy.	Br J Cancer. 2016 Apr 12;114(8):881-8. doi: 10.1038/bjc.2016.83. Epub 2016 Mar 31.	Original Article
56	鈴木 英雄	消化器(内)診療グループ	The Promoting Effect of the Extracellular Matrix Peptide TNIIA2 Derived from Tenascin-C in Colon Cancer Cell Infiltration.	Int J Mol Sci. 2017 Jan 17;18(1). pii: E181. doi: 10.3390/ijms18010181.	Original Article
57	正田 純一	消化器(内)診療グループ	Cytoprotective role of Nrf2 in electrical pulse stimulated C2C12 myotube.	PLoS One 2015 Dec 14;10(12):e0144835. doi: 10.1371/journal.pone.0144835. eCollection 2015.	Original Article
58	正田 純一	消化器(内)診療グループ	Wisteria floribunda agglutinin-sialylated mucin core polypeptide 1 is a sensitive biomarker for biliary tract carcinoma and intrahepatic cholangiocarcinoma: a	Journal of gastroenterology 2017 Feb;52(2):218-228. doi: 10.1007/s00535-016-1230-0. Epub 2016 Jun 29.	Original Article
59	鈴木 英雄	消化器(内)診療グループ	Waterjet submucosal dissection of porcine esophagus with the HybridKnife and ERBEJET 2 system: a pilot study.	Endosc Int Open. 2017 Jan;5(1):E30-E34. doi: 10.1055/s-0042-122335	Original Article
60	松井 裕史	消化器(内)診療グループ	NSAIDs-induced reactive oxygen species from mitochondria enhanced accumulation of photosensitizer in gastric cancer cells.	MOLECULAR BIOLOGY OF THE CELL 27,p.-.2016	Original Article
61	松井 裕史	消化器(内)診療グループ	Indomethacin- derived mitochondrial reactive oxygen species accelerated cancer specific porphyrin accumulation to enhance photodynamic therapeutic effect in gastric epithelial cells	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY AND HEPATOLOGY 31,3,p.56-56,2016-11	Original Article
62	溝上 裕士	消化器(内)診療グループ	Evidence-based clinical practice guidelines for peptic ulcer disease 2015.	J Gastroenterol. .2016 Mar;51(3):177-94. doi: 10.1007/s00535-016-1166-4. Epub 2016 Feb 15.	Original Article
63	谷中 昭典	消化器(内)診療グループ	Role of Sulforaphane in Protection of Gastrointestinal Tract against H.pylori- and NSAID-Induced Oxidative Stress	Current pharmaceutical design 2017;23(27):4066-4075. doi: 10.2174/1381612823666170207103943.	Original Article
64	鈴木 英雄	消化器(内)診療グループ	Therapeutic impact of the herbal medicine Qing Dai (Indigo naturalis) in intractable ulcerative colitis patients	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY AND HEPATOLOGY 31,3,p.166-166,2016-11	Original Article

65	大城 幸雄	消化器(外)診療グループ	Three-dimensional pancreatic surgical simulation including the main pancreatic duct size and location.	Surgery today 2017 Mar;47(3):357-364. doi: 10.1007/s00595-016-1377-6. Epub 2016 Jul 1.	Original Article
66	水野 道代	消化器(外)診療グループ	Reliability and Validity of a Japanese Version of the Quality of Life Index in Cancer Patients	CANCER NURSING_39_1.p.S105-S105.2016-11	Original Article
67	水野 道代	消化器(外)診療グループ	Relationship between the Physical and Psychosocial Conditions of Postoperative Gastrointestinal Cancer Patients and their Responses to an Informational Material	ASIA-PACIFIC JOURNAL OF ONCOLOGY NURSING 2017 Jan-Mar;4(1):53-60. doi: 10.4103/2347-5625.199072.	Original Article
68	鄭 允文	消化器(外)診療グループ	Generation of a humanized mouse liver by using human hepatic stem cells	J Vis Exp 2016 Aug 29;(114). doi: 10.3791/54167.	Original Article
69	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	Protecting liver sinusoidal endothelial cells suppresses apoptosis in acute liver damage.	Hepatol Res. 2016 Jun;46(7):697-706. doi: 10.1111/hepr.12607. Epub 2015 Nov 12.	Original Article
70	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	Novel functions of platelets in the liver.	J Gastroenterol Hepatol. 2016 Apr;31(4):745-51. doi: 10.1111/jgh.13244	Original Article
71	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	Stable liver function during long-term administration of eltrombopag, a thrombopoietin receptor agonist, in patients with chronic liver disease	Tohoku J Exp Med. 2016 Dec;240(4):277-279.	Original Article
72	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	Nasogastric tube syndrome induced by an indwelling long intestinal tube	World J Gastroenterol. 2016 Apr 21;22(15):4057-61. doi: 10.3748/wjg.v22.i15.4057.	Original Article
73	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	A case of a resected heisigmoid knot in an older schizophrenic patient	THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL_66.4.p.289-292.2016	Original Article
74	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	Anticancer effect of linalool Via cancer-specific hydroxyl radical generation in human colon cancer	World J Gastroenterol	Original Article
75	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	Age does not affect complications and overall survival rate after pancreaticoduodenectomy:Single-center experience and systematic review of Inter-Anastomosis Drainage Tube between the Pancreas and Jejunum: A Novel Technique for Preventing Pancreatic Fistula after Pancreaticoduodenectomy	Biosci Trends 2016 Sep 5;10(4):300-6. doi: 10.5582/bst.2016.01093. Epub 2016 Jul 8	Original Article
76	小田 竜也	消化器(外)診療グループ	Hepatitis E virus infection in heart and kidney transplant recipients in Japan ~ progress report~	JOURNAL OF THE AMERICAN COLLEGE OF SURGEONS 2015 Sep;221(3):e55-60. doi: 10.1016/j.jamcollsurg.2015.05.010. Epub 2015 May 22	Original Article
77	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	Neuroendocrine carcinoma of the extrahepatic bile duct: A case report	第64回日本ウイルス学会学術集会プログラム・抄録集p.294, 2016-10	Original Article
78	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	Pancreas transection at last procedure in pancreaticoduodenectomy	World J Gastroenterol 2016 Aug 14;22(30):6960-4. doi: 10.3748/wjg.v22.i30.6960.	Original Article
79	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	Four cases of surgical resection of the isolated lung metastasis from pancreatic cancer	第47回日本膵臓学会大会・第20回国際膵臓学会・第6回アジアオセアニア膵臓学会プログラム・抄録 p.295-465-2016-08	Original Article
80	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	A novel three-dimensional print of liver vessels and tumors in hepatectomy	第47回日本膵臓学会大会・第20回国際膵臓学会・第20回国際膵臓学会・第6回アジアオセアニア膵臓学会プログラム・抄録 p.359-529, 2016-08	Original Article
81	大城 幸雄	消化器(外)診療グループ	Pancreatic neuroendocrine tumor and solid-pseudopapillary neoplasm: Key immunohistochemical profiles for differential diagnosis	Surgery today 2017 Apr;47(4):521-524. doi: 10.1007/s00595-016-1383-8. Epub 2016 Jul 25.	Original Article
82	大原 佑介	消化器(外)診療グループ	Well leg compartment syndrome after surgery for ulcerative colitis in the lithotomy position: A case report	WORLD JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY 2016 Oct 14;22(38):8596-8604.	Original Article
83	榎本 剛史	消化器(外)診療グループ	Comparison of Subjective Well-being and Relevant Health Outcome Factors between Patients Undergoing Chemotherapy and Cancer Survivors in Stable	INTERNATIONAL JOURNAL OF SURGERY CASE REPORTS 2016;23:25-8. doi: 10.1016/j.ijscr.2016.04.006. Epub 2016 Apr 7.	Original Article
84	水野 道代	消化器(外)診療グループ	Safe approach to the splenic hilum by first mobilizing the pancreatic tail in laparoscopic splenectomy.	PSYCHO-ONCOLOGY_25.SP. S3.p.60-60.2016-10	Original Article
85	倉田 昌直	消化器(外)診療グループ	Postoperative Decrease in Platelet Counts Is Associated with Delayed Liver Function Recovery and Complications after Partial Hepatectomy.	Asian J Endosc Surg. 2017 Feb;10(1):83-86. doi: 10.1111/ases.12325.	Original Article
86	高橋 一広	消化器(外)診療グループ	Treatment with ribavirin for chronic hepatitis E following living donor liver transplantation: A case report.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine 2016 May;239(1):47-55. doi: 10.1620/tjem.239.47.	Original Article
87	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	Elevated serum levels of two anti-neutrophil cytoplasmic antibodies in a lung cancer patient: A case report.	Hepatol Res. 2016 Sep;46(10):1058-9. doi: 10.1111/hepr.12641. Epub 2016 Jan 26	Original Article
88	Okauchi S	呼吸器(内)診療グループ	IL-17F induces IL-6 via TAK1-NF-κB pathway in airway smooth muscle cells.	Biomed Rep. 2016 Oct;5(4):511-513. Epub 2016 Sep 6.	Original Article
89	Nakajima M	呼吸器(内)診療グループ	Telomere length and survival in IPF patients.	Immun Inflamm Dis 2017 Jun;5(2):124-131. doi: 10.1002/iid3.149. Epub 2017 Mar 3.	Original Article
90	Satoh H.	呼吸器(内)診療グループ	Pre-invasive lung adenocarcinoma lesions on CT.	Respirol 2016 Jan;21(1):195. doi: 10.1111/resp.12667. Epub 2015 Oct 27	Original Article
91	Satoh H	呼吸器(内)診療グループ	Successful pemetrexed-containing chemotherapy for EGFR mutation positive adenocarcinoma of the lung.	Clin Resp 2016 Mar 7. doi: 10.1111/crj.12473. [Epub ahead of print	Original Article
92	Watanabe H	呼吸器(内)診療グループ	Late relapse after resection of stage IIIA lung adenocarcinoma in an elderly.	Mol Clin Oncol 2016 Apr;4(4):628-630. Epub 2016 Jan 29.	Original Article
93	Shiozawa T	呼吸器(内)診療グループ	Hemoptysis in a serum ANCA-positive elderly patient.	Eur Geriatr Med June 29, 2017 .:259-262	Original Article
94	Watanabe H	呼吸器(内)診療グループ	Timely bronchoscopic examination for a patient with hemoptysis.	Tuberk Toraks 2017 Mar;65(1):63	Original Article
95	Watanabe H	呼吸器(内)診療グループ	Pleural fluid CEA.	Tuberk Toraks 2016 Sep;64(3):258-259	Original Article
96	Watanabe H	呼吸器(内)診療グループ	Effect of a traditional herbal medicine, hangekobokuto, on the sensation of lump of the throat in patients with respiratory diseases.	Clin Respir J 2016 May 23. doi: 10.1111/crj.12500. [Epub ahead of print	Original Article
97	Kagohashi K	呼吸器(内)診療グループ	Decortication of empyema.	Biomed Rep 2016 Mar;4(3):384-386. Epub 2016 Feb 5	Original Article
98	Ohara G	呼吸器(内)診療グループ	Analysis of scrub typhus involvement of the lung by bronchoalveolar lavage: A case report	Ann Thorac Med 2016 Jul-Sep;11(3):230-1. doi: 10.4103/1817-1737.185754.	Original Article
99	Lin SY	呼吸器(内)診療グループ		Respir Investig 2016 Nov;54(6):487-489. doi: 10.1016/i.resinv.2016.06.004. Epub 2016 Aug 7	Original Article

100	Hizawa N.	呼吸器(内)診療グループ	Clinical approaches towards asthma and chronic obstructive pulmonary disease based on the heterogeneity of disease pathogenesis.	Clin Exp Allergy 2016 May;46(5):678-87. doi: 10.1111/cea.12731.	Original Article
101	Kiwamoto T	呼吸器(内)診療グループ	Sialylated glycans carried by airway mucins Muc5b and Muc4 selectively bind to mouse Siglec-F and control eosinophilic airway inflammation.	Proceedings of the 30th Symposium of the Collegium Internationale Allergologicum. 2015 May;135(5):1329-1340.e9. doi: 10.1016/j.jaci.2014.10.027. Epub 2014 Dec 12	Original Article
102	Tsunoda Y	呼吸器(内)診療グループ	Paraneoplastic limbic encephalitis with late-onset magnetic resonance imaging findings: a case report.	Mol Clin Oncol. June 29, 2017 259-262	Original Article
103	Morishima Y	呼吸器(内)診療グループ	Pathogenesis of Comorbidities in COPD. In Chronic Obstructive Pulmonary Disease; Systemic Inflammatory Disease. Edited by H Nakamura and K Aoshiba. Springer Science+Business	Media Singapore Pte Ltd,p115-133	Original Article
104	Naoki Maki	呼吸器(内)診療グループ	The effect of respiratory rehabilitation for the frail elderly: a pilot study	Journal of General and Family Medicine_17.4.p.289-298.2016-12	Original Article
105	Shinsuke Kitazawa	呼吸器(内)診療グループ	Surgical resection for bilateral giant emphysematous bullae	Clinical and Medical Investigations February 24, 2017	Original Article
106	石井 幸雄	呼吸器(内)診療グループ	Activation of murine invariant NKT cells promotes susceptibility to candidiasis by IL-10 induced modulation of phagocyte antifungal activity.	European Journal of Immunology 2016 Jul;46(7):1691-703. doi: 10.1002/eji.201545987. Epub 2016 May 27.	Original Article
107	石井 幸雄	呼吸器(内)診療グループ	Inflammation and airway hyperresponsiveness after chlorine exposure are prolonged by Nrf2 deficiency in mice.	FREE RADICAL BIOLOGY AND MEDICINE 2017 Jan;102:1-15. doi: 10.1016/j.freeradbiomed.2016.11.017. Epub 2016 Nov 13.	Original Article
108	金澤 潤	呼吸器(内)診療グループ	Genetic association of the functional CDHR3 genotype with early-onset adult asthma in Japanese populations	Allergy international : official journal of the Japanese Society of Allergy 2017 Oct;66(4):563-567. doi: 10.1016/j.alit.2017.02.012. Epub 2017 Mar 17	Original Article
109	佐藤 幸夫	呼吸器(外)診療グループ	Long-Term Survival after Pneumonectomy for Pulmonary Carcinosarcoma	Jacobs Publishers_3.2.p.28--2016-11	Original Article
110	小林 尚寛	呼吸器(外)診療グループ	Long-term pulmonary function after surgery for lung cancer	Interactive cardiovascular and thoracic surgery 2017 Feb 13. doi: 10.1093/icvts/ivw414. [Epub ahead of print]	Original Article
111	市村 秀夫	呼吸器(外)診療グループ	Enlarged mediastinal air cyst in a patient with bronchial diverticula localized in the left main bronchus: a case report with surgical and bronchoscopic findings	SURGICAL CASE REPORTS 2017 Dec;3(1):1. doi: 10.1186/s40792-016-0282-y. Epub 2017 Jan 3	Original Article
112	市村 秀夫	呼吸器(外)診療グループ	Endobronchial dental prosthesis retrieval by a snare technique using a flexible bronchoscope and fluoroscopy: Two case reports and technical tips	Respiratory medicine case reports 2016 Oct 18;19:187-189. eCollection 2016.	Original Article
113	市村 秀夫	呼吸器(外)診療グループ	Current status of health among workers in Japan: Results from the Japan Epidemiology Collaboration on Occupational Health Study.	Ind Health. 2016 Dec 7;54(6):505-514. Epub 2016 Jul 13	Original Article
114	市村 秀夫	呼吸器(外)診療グループ	Hba1c, Blood Pressure, and Lipid Control in People with Diabetes: Japan Epidemiology Collaboration on Occupational Health Study.	PLoS One 2016 Jul 20;11(7):e0159071. doi: 10.1371/journal.pone.0159071. eCollection 2016.	Original Article
115	Nagai K, Sairenchi T, Irie F, Watanabe H, Ota H, Yamagata K.	腎泌尿器(内)診療グループ	Relationship between Estimated Glomerular Filtration Rate and Cardiovascular Mortality in a Japanese Cohort with Long-Term Follow-Up.	Plos One, 2016 Jun 06; Vol. 11 (6), pp. e0156792; 2016 Jun 6;11(6):e0156792. doi: 10.1371/journal.pone.0156792. eCollection 2016	Original Article
116	臼井 文一	腎泌尿器(内)診療グループ	Renal outcome after tonsillectomy plus corticosteroid pulse therapy in patients with immunoglobulin A nephropathy: results of a multicenter cohort study.	Clin Exp Nephrol. 2016 Aug;20(4):618-627. doi: 10.1007/s10157-015-1194-z. Epub 2015 Nov 14.	Original Article
117	臼井 文一	腎泌尿器(内)診療グループ	Angiotensin balance in septic shock patients with acute kidney injury: Effects of direct hemoperfusion with polymyxin b-immobilized fiber	Therapeutic apheresis and dialysis 2016 Aug;20(4):368-75. doi: 10.1111/1744-9987.12468.	Original Article
118	臼井 文一	腎泌尿器(内)診療グループ	Comparison of severity classification in Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study	Modern Rheumatology 2016 Sep;26(5):730-7. doi: 10.3109/14397595.2016.1140274. Epub 2016 Mar 11.	Original Article
119	金子 修三	腎泌尿器(内)診療グループ	A novel heterozygous mutation in the ATP6V0A4 gene encoding the V-ATPase a4 subunit in an adult patient with incomplete distal renal tubular acidosis.	Clinical Kidney Journal 2016 Jun;9(3):424-8. doi: 10.1093/ckj/sfw008. Epub 2016 Mar 24.	Original Article
120	臼井 文一	腎泌尿器(内)診療グループ	Temporal changes in post-infectious glomerulonephritis in Japan (1976-2009)	PLoS One 2016 Jun 10;11(6):e0157356. doi: 10.1371/journal.pone.0157356. eCollection 2016.	Original Article
121	臼井 文一	腎泌尿器(内)診療グループ	Clinical practice guideline for drug-induced kidney injury in Japan 2016: digest version	CLINICAL AND EXPERIMENTAL NEPHROLOGY . 2016 Dec;20(6):827-831.	Original Article
122	野口 和之	腎泌尿器(内)診療グループ	Both Diet and Exercise Are Necessary for Obese CKD Patients: A Pilot Prospective Randomized Controlled Study	Open Journal of Nephrology_2016.6.p.43-54.2016-06	Original Article
123	甲斐 平康	腎泌尿器(内)診療グループ	Two autosomal dominant polycystic kidney (ADPKD) cases with advanced renal dysfunction, effectively treated with tolvaptan	CEN case report 2016 May;5(1):87-90. doi: 10.1007/s13730-015-0198-6. Epub 2015 Nov 17.	Original Article
124	河村 哲也	腎泌尿器(内)診療グループ	ANEMIA IS A PRIORITY COMPLICATION OF ANCA-ASSOCIATED RENAL VASCULITIS	RHEUMATOLOGY_56.3.p.139-139.2017-03	Original Article
125	河村 哲也	腎泌尿器(内)診療グループ	CLINICOPATHOLOGICAL ANALYSIS OF ANEMIA IN PATIENTS WITH ANCA-ASSOCIATED RENAL VASCULITIS	NEPHROLOGY_21.2.p.239-239.2016-09	Original Article
126	永井 恵	腎泌尿器(内)診療グループ	Use of darbeopoetin alfa for myelodysplastic syndrome coincident with chronic kidney disease	CEN CASE REPORTS 2016 May;5(1):117-118. doi: 10.1007/s13730-016-0212-7. Epub 2016 Jan 22.	Original Article
127	永井 恵	腎泌尿器(内)診療グループ	IMAGING FLOWCYTOMETRY-BASED ANALYSES OF CYTOPLASMIC GRANULES IN NEUTROPHILS FROM PATIENTS WITH ANCA ASSOCIATED VASCULITIS	RHEUMATOLOGY_56.3.p.-2017-03	Original Article
128	野口 和之	腎泌尿器(内)診療グループ	HISTAMINE IS INVOLVED IN THE PATHOPHYSIOLOGY OF HEART AND KIDNEY DYSFUNCTIONS IN MICE	NEPHROLOGY DIALYSIS TRANSPLANTATION_31.1.p.1430-1430.2016-05	Original Article
129	Miyazaki J	腎泌尿器(外)診療グループ	Laparoscopic versus open nephroureterectomy in muscle-invasive upper tract urothelial carcinoma: Subanalysis of the multi-institutional national database of the Japanese Urological Association for Journal of Endourology.	Journal of Endourology 30(5) 520-525 2016 2016 May;30(5):520-5. doi: 10.1089/end.2015.0757. Epub 2016 Jan 28.	Original Article
130	Ikeda A	腎泌尿器(外)診療グループ	Impact of living at the Japanese Antarctic Research Expedition base on urinary status.	LUTS Low Urin Tract Symptoms 2016 Jul 20. doi: 10.1111/luts.12137. [Epub ahead of print]	Original Article
131	Kurobe M	腎泌尿器(外)診療グループ	Development of RNA-FISH Assay for Detection of Oncogenic FGFR3-TACC3 Fusion Genes in FFPE Samples.	PLoS One. 11(12) e0165109. doi: 10.1371/2016 2016 Dec 8;11(12):e0165109. doi: 10.1371/journal.pone.0165109. eCollection 2016	Original Article

132	Ishitsuka R	腎泌尿器(外)診療グループ	Impact of acute kidney injury defined by CTCAE v4.0 during first course of cisplatin-based chemotherapy on treatment outcomes in advanced urothelial cancer patients.	Clin Exp Nephrol.[Epub ahead of print] 2016 2017 Aug;21(4):732-740. doi: 10.1007/s10157-016-1327-z. Epub 2016 Aug 26	Original Article
133	Takaoka EI	腎泌尿器(外)診療グループ	Long-term single-institute experience with trimodal bladder-preserving therapy with proton beam therapy for muscle-invasive bladder cancer.	Jpn J Clin Oncol. 47(1) 67-73 2017 2017 Jan;47(1):67-73. doi: 10.1093/jco/hyw151. Epub 2016 Oct 13.	Original Article
134	松岡 妙子	腎泌尿器(外)診療グループ	DNA methyltransferase-3 like protein expression in various histological types of testicular germ cell tumor.	Japanese Journal of Clinical Oncology. 2016 May;46(5):475-81. doi: 10.1093/jco/hyw012. Epub 2016 Feb 24.	Original Article
135	河原 貴史	腎泌尿器(外)診療グループ	The clinical presentation and favorable prognosis of patients with isolated metachronous brain metastasis from germ cell tumors	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY 2016 Aug 27. [Epub ahead of print]	Original Article
136	神鳥 周也	腎泌尿器(外)診療グループ	Feasibility of classical secondary hormonal therapies prior to docetaxel therapy in Japanese patients with castration-resistant prostate cancer: Multicenter retrospective study.	Prostate Int 2016 Dec;4(4):140-144. Epub 2016 Sep 20.	Original Article
137	池田 篤史	腎泌尿器(外)診療グループ	The impact of a polar environment on urinary status - an investigation of urinary status in the 54th Japanese Antarctic Research Expedition	INTERNATIONAL JOURNAL OF CIRCUMPOLAR HEALTH.75..p.92-92.2016	Original Article
138	吉野 喬之	腎泌尿器(外)診療グループ	Phase I clinical and pharmacokinetic study of S-1 plus oral leucovorin in patients with metastatic colorectal cancer	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY 2017 Jan;79(1):107-116. doi: 10.1007/s00280-016-3212-6. Epub 2016 Dec 8.	Original Article
139	吉野 喬之	腎泌尿器(外)診療グループ	Final survival results and onset of neutropenia as an indicator of therapeutic effect in phase 2 of TAS-102 vs placebo with metastatic colorectal cancer (J003-	ANNALS OF ONCOLOGY.27.2.p.107-107.2016-06	Original Article
140	鈴木 浩明	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	Serum malondialdehyde-modified LDL levels are increased in type 2 diabetic patients with nephropathy	DIABETOLOGIA.59.1.p.S538-S538.2016-08	Original Article
141	小林 和人	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	Impact of immunohistological subtypes on the long-term prognosis of patients with metastatic breast cancer.	Surgery today : the Japanese journal of surgery 2016 Jul;46(7):821-6. doi: 10.1007/s00595-015-1252-x. Epub 2015 Oct 14.	Original Article
142	Takei K	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	The selective PPAR $\alpha$ modulator K-877 efficiently activates the PPAR $\alpha$ pathway and improves lipid metabolism in mice	2017 Jan 13. doi: 10.1111/jdi.12621 J Diabetes Investig. 2017 Jul;8(4):446-452. doi: 10.1111/jdi.12621. Epub 2017 Apr	Original Article
143	Nakagawa Y	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	CREB3L3 controls fatty acid oxidation and ketogenesis in synergy with PPAR $\alpha$ .	Sci Rep. 2016 Dec 16; 6: 39182.	Original Article
144	Kikuchi T	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	Intestinal CREBH overexpression prevents high-cholesterol diet-induced hypercholesterolemia by reducing Npc1l1 expression.	Mol Metab. 2016 Sep 17; 5(11): 1092-1102.	Original Article
145	Takeuchi Y	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	KLF13 Enables Rapid Switching between Lipogenesis and Gluconeogenesis during Fasting	Cell Rep. 2016 Aug 30; 16(9): 2373-2386.	Original Article
146	Nakagawa Y	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	Hyperlipidemia and hepatitis in liver-specific CREB3L3 knockout mice generated using a one-step CRISPR/Cas9 system.	Sci Rep. 2016 Jun 13;6:27857.	Original Article
147	6. Matsuzaka T	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	Novel role for the CRT2 in lipid homeostasis. J Diabetes Investig	2016 Sep; 7(5): 677-679.	Original Article
148	西 真貴子	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	A key role of nuclear factor Y in the refeeding response of fatty acid synthase in adipocytes	FEBS letters 2017 Apr;591(7):965-978. doi: 10.1002/1873-3468.12620. Epub 2017 Mar 27.	Original Article
149	藤原 和哉	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	Comparison of baseline characteristics and clinical course in Japanese patients with type 2 diabetes among whom different types of oral hypoglycemic agents were chosen by diabetes specialists as initial monotherapy (JDDM 42).	Medicine (Baltimore) 2017 Feb;96(7):e6122. doi: 10.1097/MD.00000000000006122.	Original Article
150	井口 研子	乳腺・甲状腺・内分泌(外)診療グループ	Increased soluble CD155 in the serum of cancer patients	PLoS One 2016 Apr 6;11(4):e0152982. doi: 10.1371/journal.pone.0152982. eCollection 2016.	Original Article
151	井口 研子	乳腺・甲状腺・内分泌(外)診療グループ	Expression of soluble CD155 in breast cancer	第75回日本癌学会学術総会プログラム...p.:2016-09	Original Article
152	穂積 康夫	乳腺・甲状腺・内分泌(外)診療グループ	Impact of neoadjuvant therapy on breast conservation rates in patients with HER2-positive breast cancer: Preliminary results of Ki-67 index guided selection trial of preoperative chemotherapy	EUROPEAN JOURNAL OF CANCER.57.2.p.S64-S64.2016-04	Original Article
153	市岡 恵美香	乳腺・甲状腺・内分泌(外)診療グループ	A case of hemorrhagic cystitis caused by nab-paclitaxel	Int Canc Conf J.5..p.187-191.2016-07	Original Article
154	Emika Ichioka	乳腺・甲状腺・内分泌(外)診療グループ	A case of hemorrhagic cystitis caused by nab-paclitaxel	Int Canc Conf J.5..p.187-191.2016-07	Original Article
155	廣田 智哉	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	Evaluation of changes in magnetic resonance images following 24 and 52 weeks of treatment of rheumatoid arthritis with infliximab, tocilizumab, or abatacept.	Mod Rheumatol. 2016;26(1):29-35 2016;26(1):29-35. doi: 10.3109/14397595.2015.1069471. Epub 2015 Jul 30	Original Article
156	萩原 晋也	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	Association of anti-Ro/SSA antibody with response to biologics in patients with rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol. 2016 Nov;26(6):857-862 2016 Nov;26(6):857-862. doi: 10.3109/14397595.2016.1153567. Epub 2016 Mar 22.	Original Article
157	廣田 智哉	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	Suppression of glucose-6-phosphate-isomerase induced arthritis by oral administration of transgenic rice seeds expressing altered peptide ligands of glucose-6-phosphate-isomerase.	Mod Rheumatol. 2017 May;27(3):457-465. 2017 May;27(3):457-465. doi: 10.1080/14397595.2016.1218598. Epub 2017 Feb 1.	Original Article
158	横澤 将宏	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	T-bet over-expression regulates aryl hydrocarbon receptor-mediated T helper type 17 differentiation through an interferon (IFN) $\gamma$ -independent pathway.	Clin Exp Immunol.2017 Apr;188(1):22-35 2017 Apr;188(1):22-35. doi: 10.1111/cei.12912. Epub 2017 Jan 31	Original Article
159	松本 功	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	TIARP attenuates autoantibody-mediated arthritis via the suppression of neutrophil migration by reducing CXCL2/CXCR2 and IL-6 expression	SCIENTIFIC REPORTS 2016 Dec 20;6:38684. doi: 10.1038/srep38684.	Original Article
160	坪井 洋人	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	The effectiveness of upfront pulmonary vasodilators combination therapy in addition to corticosteroids for pulmonary arterial hypertension associated with systemic lupus erythematosus: two successful cases utilizing both corticosteroids and an upfront combination of vasodilators.	Modern Rheumatol Case Reports...p.1-6.2017-01	Original Article

161	坪井 洋人	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	Effectiveness of abatacept for patients with Sjogren's syndrome associated with rheumatoid arthritis. An open label, multicenter, one-year, prospective study: ROSE (Rheumatoid Arthritis with Orenzia Trial toward Sjogren's syndrome)	MODERN RHEUMATOLOGY 2016 Nov;26(6):891-899. doi: 10.3109/14397595.2016.1158773. Epub 2016 Jul 26	Original Article
162	坪井 洋人	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	ROR gamma t antagonist suppresses M3 muscarinic acetylcholine receptor-induced Sjogren's syndrome-like sialadenitis	CLINICAL AND EXPERIMENTAL IMMUNOLOGY 2017 Feb;187(2):213-224. doi: 10.1111/cei.12868. Epub 2016 Oct 11.	Original Article
163	坪井 洋人	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	Maternal predictive factors for fetal congenital heart block in pregnant mothers positive for anti-SS-A antibodies	MODERN RHEUMATOLOGY . 2016 Jul;26(4):569-75. doi: 10.3109/14397595.2015.1106661. Epub 2015 Nov 20.	Original Article
164	坪井 洋人	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	Comparison of performance of the 2016 ACR-EULAR classification criteria for primary Sjogren's syndrome with other sets of criteria in Japanese patients	Annals of the rheumatic diseases 2017 Dec;76(12):1980-1985. doi: 10.1136/annrheumdis-2016-210758. Epub 2017	Original Article
165	梅田 直人	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	Anti-cyclic citrullinated glucose-6-phosphate isomerase peptide-7 (CGG-7) antibodies were suppressed by biologics treatment and deposited to citrullinated proteins in CD68-positive cells in the RA synovium	Modern rheumatology 2017 Sep;27(5):914-916. doi: 10.1080/14397595.2016.1270388. Epub 2017 Jan 9.	Original Article
166	Nguyen TB	血液内科診療グループ	Identification of cell-type-specific mutations in nodal T-cell lymphomas.	Blood Cancer J 2017 Jan 6;7(1):e516. doi: 10.1038/bcj.2016.122.	Original Article
167	二宮 治彦	血液内科診療グループ	Interim analysis of post-marketing surveillance of eculizumab for paroxysmal nocturnal hemoglobinuria in Japan.	Int J Hematol. 2016 Nov;104(5):548-558. Epub 2016 Jul 27.	Original Article
168	錦井 秀和	血液内科診療グループ	DR3 signaling modulates the function of Foxp3(+) regulatory T cells and the severity of acute graft-versus-host disease	BLOOD 2016 Dec 15;128(24):2846-2858. Epub 2016 Oct 19.	Original Article
169	栗田 尚樹	血液内科診療グループ	RECOMBINANT THROMBOMODULIN AMELIORATES HEMATOLOGICAL MALIGNANCY-INDUCED DISSEMINATED INTRAVASCULAR COAGULATION MORE PROMPTLY THAN CONVENTIONAL THERAPY WITHOUT CAUSING	HAEMATOLOGICA_101.1.p.310-310.2016-06	Original Article
170	坂田 麻実子	血液内科診療グループ	A nationwide survey of co-occurrence of malignant lymphomas and myelodysplastic syndromes/myeloproliferative neoplasms	ANNALS OF HEMATOLOGY 2016 Apr;95(5):829-30. doi: 10.1007/s00277-016-2612-3. Epub 2016 Feb 19.	Original Article
171	坂田 麻実子	血液内科診療グループ	Molecular mechanisms of angioimmunoblastic T-cell lymphoma development	[Rinsho ketsueki] The Japanese journal of clinical hematology 2016 Aug;57(8):1038-43. doi: 10.11406/rinketsu.57.1038.	Original Article
172	千葉 滋	血液内科診療グループ	Dysregulation of TET2 in hematologic malignancies	INTERNATIONAL JOURNAL OF HEMATOLOGY 2017 Jan;105(1):17-22. doi: 10.1007/s12185-016-2122-z. Epub 2016 Nov 15.	Original Article
173	真家 紘一郎	血液内科診療グループ	DOUBLE INACTIVATION OF TET2 AND TET3 INDUCES HYPOMETHYLATING AGENT-SENSITIVE ACUTE MYELOID LEUKEMIA	HAEMATOLOGICA_101.1.p.212-212.2016-06	Original Article
174	新井 哲明	精神神経診療グループ	Association between a Change in Social Interaction and Dementia among Elderly People	International Journal of Gerontology _10.2.p.76-80.2016-06	Original Article
175	新井 哲明	精神神経診療グループ	Chorea as a clinical feature of the basophilic inclusion body disease subtype of fused-in-sarcoma-associated frontotemporal lobar degeneration.	Acta Neuropathologica Communications 2016 Apr 4;4:36. doi: 10.1186/s40478-016-0304-9.	Original Article
176	高橋 晶	精神神経診療グループ	Ventilatory Response to Hypercapnia Predicts Dementia with Lewy Bodies in Late-Onset Major Depressive Disorder	JOURNAL OF ALZHEIMERS DISEASE . 2016;50(3):751-8. doi: 10.3233/JAD-150507.	Original Article
177	高橋 晶	精神神経診療グループ	Lack of association between Fukushima nuclear power plant workers' radiation dose and mental health	Journal of Psychiatric Research_..p..2016-08	Original Article
178	佐藤 晋爾	精神神経診療グループ	Clinical Utility of an Enzyme-Linked Immunosorbent Assay for Detecting Anti-Melanoma Differentiation-Associated Gene 5 Autoantibodies	PLOS ONE 2016 Apr 26;11(4):e0154285. doi: 10.1371/journal.pone.0154285. eCollection 2016.	Original Article
179	Nakamura Y	皮膚診療グループ	Immunoreceptor CD300a on mast cells and dendritic cells regulates neutrophil recruitment in a murine model of sepsis.	Int Immunol. 28(12):611-615 2016 Dec;28(12):611-615. doi: 10.1093/intimm/dxw047. Epub 2016 Nov 11.	Original Article
180	Tanaka R	皮膚診療グループ	Severe hepatitis arising from ipilimumab administration, following melanoma treatment with nivolumab.	Jpn J Clin Oncol. 47(2):175-178 2017 Feb 11;47(2):175-178. doi: 10.1093/jcco/hyw167	Original Article
181	Ogawa T	皮膚診療グループ	Taxane-induced scleroderma-like skin changes resulting in gangrene: A case report.	J Dermatol. 44(4):e54-e55 2017 Apr;44(4):e54-e55. doi: 10.1111/1346-8138.13569. Epub 2016 Sep 7	Original Article
182	Inoue S	皮膚診療グループ	Clinical and histological characteristics of livedo racemosa in essential thrombocythemia: A report of two cases and review of the published works.	J Dermatol. 44(1):84-87 2017 Jan;44(1):84-87. doi: 10.1111/1346-8138.13561. Epub 2016 Aug 29.	Original Article
183	Shibao K	皮膚診療グループ	Nodulocystic Basal Cell Carcinoma Arising Directly from a Seborrhic Keratosis: A Rare Case Report.	Indian J Dermatol. 61(4):443-5 2016 Jul-Aug;61(4):443-5. doi: 10.4103/0019-5154.185720.	Original Article
184	Tanaka R	皮膚診療グループ	Nivolumab-induced chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy mimicking rapid-onset Guillain-Barré syndrome: a case report.	Jpn J Clin Oncol. 46(9):875-8 2016 Sep;46(9):875-8. doi: 10.1093/jcco/hyw090. Epub 2016 Jul 5	Original Article
185	Tanaka R	皮膚診療グループ	Concordance of the HER2 protein and gene status between primary and corresponding lymph node metastatic sites of extramammary Paget disease.	Clin Exp Metastasis. 33(7):687-97 2016 Jun 1;26(3):317-8. doi: 10.1684/ejd.2016.2763	Original Article
186	Shibao K	皮膚診療グループ	Scleroderma-like skin changes occurring after the use of paclitaxel without any chemical solvents: a first case report.	Eur J Dermatol. 26(3):317-8 2016 Jun 1;26(3):317-8. doi: 10.1684/eid.2016.2763	Original Article

187	Tanaka R	皮膚診療グループ	Nivolumab-induced thyroid dysfunction.	Jpn J Clin Oncol. 46(6):575-9 2016 Jun;46(6):575-9. doi: 10.1093/jco/hyw036. Epub 2016 Mar 23	Original Article
188	Tanaka R	皮膚診療グループ	Risk Factors for Developing Skeletal-Related Events in Breast Cancer Patients With Bone Metastases Undergoing Treatment With Bone-Modifying Agents.	Oncologist. 21(4):508-13 2016 Apr;21(4):508-13. doi: 10.1634/theoncologist.2015-0377. Epub 2016 Mar 14	Original Article
189	Saito K	皮膚診療グループ	Angioimmunoblastic T-cell lymphoma mimicking dermatomyositis.	J Dermatol. 43(7):837-9 . 2016 Jul;43(7):837-9. doi: 10.1111/1346-8138.13299. Epub 2016 Feb 22	Original Article
190	丸山 浩	皮膚診療グループ	Lysyl oxidase was increased by endothelin-1 and restored by PGI2 in pulmonary artery smooth muscle cells	EUROPEAN HEART JOURNAL.37.1.p.568-568.2016-08	Original Article
191	丸山 浩	皮膚診療グループ	Hypoxia induces the downregulation of the BMP signalling in pulmonary artery smooth muscle cells through the endothelin system	EUROPEAN HEART JOURNAL.37.1.p.624-624.2016-08	Original Article
192	藤澤 康弘	皮膚診療グループ	A proposal for a TNM staging system for extramammary Paget disease: Retrospective analysis of 301 patients with invasive primary tumors	J Dermatol Sci. 2016 Sep;83(3):234-9. doi: 10.1016/j.jdermsci.2016.06.004. Epub 2016 Jun 3	Original Article
193	沖山 奈緒子	皮膚診療グループ	Immunoglobulin A vasculitis associated with HIV infection.	The Journal of Dermatology 2016 Apr;43(4):444-5. doi: 10.1111/1346-8138.13222. Epub 2015 Dec 12.	Original Article
194	藤本 学	皮膚診療グループ	Enzyme-linked immunosorbent assays for detection of anti-transcriptional intermediary factor-1 gamma and anti-Mi-2 autoantibodies in dermatomyositis	JOURNAL OF DERMATOLOGICAL SCIENCE 2016 Dec;84(3):272-281. doi: 10.1016/j.jdermsci.2016.09.013. Epub 2016 Sep 23.	Original Article
195	藤本 学	皮膚診療グループ	Recent advances in dermatomyositis-specific autoantibodies	CURRENT OPINION IN RHEUMATOLOGY 2016 Nov;28(6):636-44. doi: 10.1097/BOR.0000000000000329.	Original Article
196	沖山 奈緒子	皮膚診療グループ	Direct suppression of autoaggressive CD8+ T cells with CD80/86 blockade in CD8+ T cell-mediated polymyositis models of mice.	Clin Exp Rheumatol. 2017 Jul-Aug;35(4):593-597. Epub 2017 Jan 27	Original Article
197	石塚 洋典	皮膚診療グループ	Proteomic Analysis of Lorcin Knockout Mouse Epidermis.	J Proteome Res. 2016 Aug 5;15(8):2560-6. doi: 10.1021/acs.jproteome.6b00108. Epub 2016 Jul 26.	Original Article
198	石塚 洋典	皮膚診療グループ	Lce1 Family Members Are Nr2-Target Genes that Are Induced to Compensate for the Loss of Lorcin.	Journal of Investigative Dermatology 2016 Aug;136(8):1656-63. doi: 10.1016/j.jid.2016.04.022. Epub 2016 May 7	Original Article
199	Onizawa Y	小児(内)診療グループ	The Association of the Delayed Introduction of Cow's Milk with IgE-Mediated Cow's Milk Allergies.	J Allergy Clin Immunol Pract 2016 May-Jun;4(3):481-488.e2. doi: 10.1016/j.jaip.2016.01.012	Original Article
200	Imagawa K	小児(内)診療グループ	Generation of a bile salt export pump deficiency model using patient-specific induced pluripotent stem cell-derived hepatocyte-like cells.	Sci Rep. 2017 Feb 27;4:1806. doi: 10.1038/srep41806	Original Article
201	Sakai A	小児(内)診療グループ	Identification of amino acids in antigen-binding site of class II HLA proteins independently associated with hepatitis B vaccine response.	Vaccine .2017 Jan 23;35(4):703-710. doi: 10.1016/j.vaccine.2016.08.068. Epub 2016 Dec 30	Original Article
202	Suzuki H	小児(内)診療グループ	Genotyping NUDT15 can predict the dose reduction of 6-MP for children with acute lymphoblastic leukemia especially at a preschool age.	J Hum Genet. 2016 Sep;61(9):797-801. doi: 10.1038/jhg.2016.55. Epub 2016 May 1	Original Article
203	Ryoko Nakajima-Yamaguchi	小児(内)診療グループ	Parental Post-Traumatic Stress Symptoms as Predictors of Psychosocial Problems in Children Treated for Cancer.	Int. J. Environ. Res. Public Health 2016 Aug 11;13(8). pii: E812. doi: 10.3390/ijerph13080812	Original Article
204	Enokizono T	小児(内)診療グループ	Cyclic vomiting syndrome after acute autonomic and sensory neuropathy.	Pediatr Int. 2017 Oct;59(10):1039-1045. doi: 10.1111/ped.13323	Original Article
205	Fukushima H	小児(内)診療グループ	Co-morbidity and quality of life in childhood cancer survivors treated with proton beam therapy.	Pediatr Int. 2017 Oct;59(10):1039-1045. doi: 10.1111/ped.13323.	Original Article
206	Suzuki H	小児(内)診療グループ	A rare variant in CYP27A1 and its association with atopic dermatitis with high serum total IgE.	Allergy. 2016 Oct;71(10):1486-9. doi: 10.1111/all.12950. Epub 2016 Aug 3	Original Article
207	堀米 仁志	小児(内)診療グループ	Dilated Cardiomyopathy in Children With Isolated Congenital Complete Atrioventricular Block	Circulation Journal 2016 Apr 25;80(5):1110-2. doi: 10.1253/circj.CJ-16-0284. Epub 2016 Apr 6.	Original Article
208	齋藤 誠	小児(内)診療グループ	High Dose Octreotide for the Treatment of Chylothorax in Three Neonates.	J Neonatal Biol...p.-.2016	Original Article
209	福島 紘子	小児(内)診療グループ	陽子線治療を利用し集学的治療を受けた頭頸部がん患者のQOLは一般と同程度以上であった	日本小児血液・がん学会雑誌.53.4.p.276-.2016-11	Original Article
210	福島 紘子	小児(内)診療グループ	陽子線治療を利用した集学的治療後の中枢神経障害は限定的であった	日本小児血液・がん学会雑誌.53.4.p.277-.2016-11	Original Article
211	齊藤 綾子	小児(内)診療グループ	Cutaneous infection due to Mycobacterium szulgai in a patient with myelodysplastic syndrome	J Dermatol 2017 Apr;44(4):471-472. doi: 10.1111/1346-8138.13466. Epub 2016 May 21	Original Article
212	Jimbo Takahiro	小児(外)診療グループ	A new innovative laparoscopic fundoplication training simulator with a surgical skill validation system	Surgical endoscopy 2017 Apr;31(4):1688-1696. doi: 10.1007/s00464-016-5159-4. Epub 2016 Aug 12	Original Article
213	Sakamoto Naoya	小児(外)診療グループ	The accumulation of regulatory T cells in the hepatic hilar lymph nodes in biliary atresia	Surgery today 2017 Mar 14. doi: 10.1007/s00595-017-1502-1. [Epub ahead of print	Original Article
214	Jimbo Takahiro	小児(外)診療グループ	Preoperative simulation regarding the appropriate port location for laparoscopic hepaticojejunosomy: a randomized study using a disease-specific training simulator	PEDIATRIC SURGERY INTERNATIONAL 2016 Sep;32(9):901-7. doi: 10.1007/s00383-016-3937-7. Epub 2016 Aug 11	Original Article
215	Aiyoshi Tsubasa	小児(外)診療グループ	Pulmonary interstitial emphysema due to respiratory syncytial virus infection	PEDIATRICS INTERNATIONAL 2016 Sep;58(9):916-9. doi: 10.1111/ped.13013. Epub 2016 Jul 20	Original Article
216	Tanaka Hideaki	小児(外)診療グループ	Hypergastrinemia and a duodenal ulcer caused by gastric duplication	SURGICAL CASE REPORTS 2016 Dec;2(1):75. doi: 10.1186/s40792-016-0203-0. Epub 2016 Jul 27.	Original Article
217	Takayasu Hajime	小児(外)診療グループ	Echocardiographic predictors of poor prognosis in congenital diaphragmatic hernia	J Pediatr Surg 2016 Dec;51(12):1926-1930. doi: 10.1016/j.jpedsurg.2016.09.014. Epub 2016 Sep 15	Original Article

218	Masumoto K	小児(外)診療グループ	Vascular access. Part I Basic Procedure	Operative General Surgery in Neonates and Infants/pp.531-540, 2016-01	Original Article
219	Takayasu Hajime	小児(外)診療グループ	Growth Assessment and the Risk of Growth Retardation in Congenital Diaphragmatic Hernia: A Long-Term Follow-Up Study from the Japanese Congenital Diaphragmatic Hernia Study Group	Eur J Pediatr Surg 2016 Feb;26(1):60-6. doi: 10.1055/s-0035-1566094. Epub 2015 Oct 28	Original Article
220	Takayasu H Masumoto K	小児(外)診療グループ	Musculoskeletal abnormalities in congenital diaphragmatic hernia survivors: Patterns and risk factors: report of a Japanese multicenter follow-up survey.	Pediatr Int 2016 Sep;58(9):877-80. doi: 10.1111/ped.12922. Epub 2016 Jun 21	Original Article
221	Jimbo Takahiro	小児(外)診療グループ	The evaluation of rectal mucosal punch biopsy in the diagnosis of Hirschsprung's disease: a 30-year experience of 954 patients	Surg Case Rep 2016 Sep;8(3):226-33. doi: 10.1016/j.jdermsci.2016.05.005. Epub 2016 May 10	Original Article
222	高安 肇	小児(外)診療グループ	Analysis of risk factors of long-term complications in congenital diaphragmatic hernia: A single institution's experience	Asian journal of surgery 2017 Jan;40(1):1-5. doi: 10.1016/j.asjsur.2015.02.005. Epub 2015 May 1.	Original Article
223	高安 肇	小児(外)診療グループ	Suppressed erythropoietin expression in a nitrofen-induced congenital diaphragmatic hernia	Pediatric pulmonology 2017 May;52(5):606-615. doi: 10.1002/ppul.23640. Epub 2016 Nov 23.	Original Article
224	高安 肇	小児(外)診療グループ	The use of a sternothyroid muscle flap to prevent the re-occurrence of a recurrent tracheoesophageal fistula found 10 years after the primary repair	Surgical case reports 2016 Dec;2(1):88. doi: 10.1186/s40792-016-0213-y. Epub 2016 Sep 2.	Original Article
225	Shiraiwa N	脳神経(内)診療グループ	A case of complex partial seizure with reversible MRI abnormalities in the elderly	Rinsho Shinkeigaku 2016 Jul 28;56(7):472-6. doi: 10.5692/clinicalneuro.cn-000826. Epub 2016 Jun 30.	Original Article
226	Ishii K	脳神経(内)診療グループ	Decreased dopamine transporter and receptor ligand binding in Parkinsonism with diabetic uremic syndrome	Ann Nucl Med. 2016 May;30(4):320-4. doi: 10.1007/s12149-015-1054-7. Epub 2016 Jan 20	Original Article
227	Tomono T	脳神経(内)診療グループ	Ultracentrifugation-free chromatography-mediated large-scale purification of recombinant adeno-associated virus serotype 1 (rAAV1)	Mol Ther Methods Clin 2016 Feb 10;3:15058. doi: 10.1038/mtm.2015.58. eCollection 2016.	Original Article
228	Oikawa T	脳神経(内)診療グループ	$\alpha$ -Synuclein fibrils exhibit gain of toxic function, promoting tau aggregation and inhibiting microtubule assembly	J Biol Chem 2016 Jul 15;291(29):15046-56. doi: 10.1074/jbc.M116.736355. Epub 2016 May 19.	Original Article
229	Shimizu M	脳神経(内)診療グループ	Third nerve palsy due to local inflammation associated with vascular compression: A case series	J Neurol Sci. 2016 Aug 15;367:365-7. doi: 10.1016/j.jns.2016.06.048. Epub 2016 Jun 23	Original Article
230	Yamamoto F	脳神経(内)診療グループ	A case of very-long-chain acyl-coenzyme A dehydrogenase deficiency with novel compound heterozygous mutations	J Neurol Sci 2017 Jan;35:47-49. doi: 10.1016/j.jocn.2016.09.018. Epub 2016 Oct 15.	Original Article
231	Masuda T	脳神経(内)診療グループ	Transforming growth factor- $\beta$ 1 in the cerebrospinal fluid of patients with distinct neurodegenerative diseases	J Clin Neurosci. 2017 Jan;35:47-49. doi: 10.1016/j.jocn.2016.09.018. Epub 2016 Oct 15.	Original Article
232	Masuda T	脳神経(内)診療グループ	Long-term accumulation of diphenylarsinic acid in the central nervous system of cynomolgus monkeys	Arch Toxicol 2017 Aug;91(8):2799-2812. doi: 10.1007/s00204-016-1928-z. Epub 2017 Jan 25.	Original Article
233	Tanokashira D	脳神経(内)診療グループ	The neurotoxicity of amyloid $\beta$ -protein oligomers is reversible in a primary neuron model	Mol Brain 2017 Jan 31;10(1):4. doi: 10.1186/s13041-016-0284-5.	Original Article
234	Terada M	脳神経(内)診療グループ	Chronic Graft-versus-host Disease Presenting with Multiple Punctate Intracranial Lesions on Contrast-enhanced Magnetic Resonance Imaging	Intern Med. 2017;56(3):363-368. doi: 10.2169/internalmedicine.56.7329. Epub 2017 Feb 1.	Original Article
235	Yanagihara K	脳神経(内)診療グループ	Acetylcholinesterase inhibitor treatment alleviated cognitive impairment caused by delayed encephalopathy due to carbon monoxide poisoning: Two case reports and a review of the literature	Medicine (Baltimore) . 2017 Feb;96(8):e6125. doi: 10.1097/MD.0000000000006125.	Original Article
236	Masahiko Watanabe	脳神経(内)診療グループ	Peptidergic phenotypes of pheochromocytoma	Medical Research Archives Vol 5 No 2 (2017): Vol.5 Issue 2, February, 2017	Original Article
237	中馬越 清隆	脳神経(内)診療グループ	Vestibular impairment in frontotemporal dementia syndrome	Dement Geriatr Cogn Disord Extra 2016 May 26;6(2):194-204. doi: 10.1159/000445870. eCollection 2016 May-Aug.	Original Article
238	石井 亜紀子	脳神経(内)診療グループ	Antioxidants improve muscle degeneration process	NEUROMUSCULAR DISORDERS. 26.2.p.S204-S204.2016-10	Original Article
239	儘田 直美	脳神経(内)診療グループ	Adult-onset Krabbe disease presenting as acute hemiparesis and progressive demyelination detected by diffusion-weighted imaging	Journal of the Neurological Sciences 2016 Aug 15;367:326-8. doi: 10.1016/j.jns.2016.06.026. Epub 2016 Jun 11.	Original Article
240	儘田 直美	脳神経(内)診療グループ	Mitochondria are devoid of amyloid $\beta$ -protein (A $\beta$ )-producing secretases: Evidence for unlikely occurrence within mitochondria of A $\beta$ generation from	Biochemical and biophysical research communications 2017 Apr 29;486(2):321-328. doi: 10.1016/j.bbrc.2017.03.035. Epub 2017 Mar 14.	Original Article
241	Fujii K, Abe	脳神経(外)診療グループ	The voluntary driven exoskeleton Hybrid Assistive Limb (HAL) for postoperative training of thoracic ossification of the posterior longitudinal ligament: a case report	J Spinal Cord Med, 9, 1-7, 2016 2017 May;40(3):361-367. doi: 10.1080/10790268.2016.1142056. Epub 2016 Feb 9.	Original Article
242	Akutsu H	脳神経(外)診療グループ	Endoscopic endonasal surgery for craniopharyngiomas: Journal of Neurological Surgery	Part B: Skull Base 77, S 01, 2016	Original Article
243	Fujimaki T	脳神経(外)診療グループ	Working conditions and lifestyle of female surgeons affiliated to the Japan Neurosurgical Society: Finding of individual and institutional surveys.	Neurol Med Chir (Tokyo), 56, 11,704-708, 2016 2016 Nov 15;56(11):704-708. Epub 2016 Jun 14	Original Article
244	Fukushima S	脳神経(外)診療グループ	Genome-wide methylation profiles in primary intracranial germ cell tumors indicate a primordial germ cell origin for germinomas.	Acta Neuropathol, 133, 3, 445-462, 2017 Mar;133(3):445-462. doi: 10.1007/s00401-017-1673-2. Epub 2017 Jan 11.	Original Article
245	Gao Z	脳神経(外)診療グループ	Use of boron cluster-containing redox nanoparticles with ROS scavenging ability in boron neutron capture therapy to achieve high therapeutic efficiency and low	Biomaterials, 104, 201-12, 2016 2016 Oct;104:201-12. doi: 10.1016/j.biomaterials.2016.06.046. Epub 2016 Jul 11.	Original Article
246	Hattori K	脳神経(外)診療グループ	MYD88 (L265P) mutation is associated with an unfavourable outcome of primary central nervous system lymphoma.	Br J Haematol, 177, 3, 492-494, 2017 2017 May;177(3):492-494. doi: 10.1111/bjh.14080. Epub 2016 May 10.	Original Article

247	Hirata K	脳神経(外)診療グループ	Hyper-vascular giant cavernous malformation in a child: a case report and review.	Childs Nerv Syst, 33, 2, 375-379, 2017 2017 Feb;33(2):375-379. doi: 10.1007/s00381-016-3234-8. Epub 2016 Sep 1	Original Article
248	Ikumi A	脳神経(外)診療グループ	Decrease of spasticity after hybrid assistive limb® training for a patient with C4 quadriplegia due to chronic SCI.	J Spinal Cord Med, 20, 1-6, 2016 2017 Sep;40(5):573-578. doi: 10.1080/10790268.2016.1225913. Epub 2016 Oct 20.	Original Article
249	Ishikawa M	脳神経(外)診療グループ	Early clinical experience utilizing scintillator with optical fiber (SOF) detector in clinical boron neutron capture therapy: its issues and solutions.	Radiat Oncol, 11, 1, 105, 2016 2016 Aug 9;11(1):105. doi: 10.1186/s13014-016-0680-0.	Original Article
250	Ishikawa E	脳神経(外)診療グループ	Autologous Formalin-fixed tumor vaccine therapy for intracranial High-grade Glioma.	Vaccine Therapy for Gliomas Progress in Neurological Surgery, in press, 2016	Original Article
251	Kang H	脳神経(外)診療グループ	Improved Vision from Severe Compressive Optic Neuropathy by Apical Cavernous Hemangioma.	Case Rep Ophthalmol, 7, 1, 179-83, 2016 2016 Mar 31;7(1):179-83. doi: 10.1159/000445316. eCollection 2016 Jan-Apr.	Original Article
252	Koiso T	脳神経(外)診療グループ	Follow-up results of brain metastasis patients undergoing repeat Gamma Knife radiosurgery	J Neurosurg, 125, Suppl 1, 2-10, 2016 2016 Dec;125(Suppl 1):2-10.	Original Article
253	Koiso T	脳神経(外)診療グループ	A case-matched study of stereotactic radiosurgery for patients with brain metastases: comparing treatment results for those with versus without neurological	J Neurooncol, 130, 3, 581-590, 2016 2016 Dec;130(3):581-590. Epub 2016 Sep 3.	Original Article
254	Matsumura H	脳神経(外)診療グループ	Paraplegia caused by cerebral contusions in the bilateral precentral gyri.	Surg Neurol Int, 7, Suppl 28, S752-S755, 2016 2016 Nov 9;7(Suppl 28):S752-S755. eCollection 2016	Original Article
255	Kubota S	脳神経(外)診療グループ	Improvement of walking ability using Hybrid Assistive Limb training in a patient with severe thoracic myelopathy caused by ossification of the posterior longitudinal ligament - A case report.	Journal of Spine, S7, 003, 2016	Original Article
256	Mashiko R	脳神経(外)診療グループ	Glioblastoma in the limbic system presenting as sustained central hypopnea. Interdisciplinary Neurosurgery	Interdisciplinary Neurosurgery: Advanced Techniques and Case Management, 7, 62-63, 2017	Original Article
257	Matsumura H	脳神経(外)診療グループ	Endovascular treatments for posterior cerebral artery aneurysms and vascular insufficiency of fetal-type circulation after parent artery occlusion.	J Clin Neurosci, 32, 41-6, 2016 2016 Oct;32:41-6. doi: 10.1016/j.jocn.2015.12.049. Epub 2016 Aug 11.	Original Article
258	Mizukami M	脳神経(外)診療グループ	Gait training of subacute stroke patients using a hybrid assistive limb: pilot study.	Disabil Rehabil Assist Technol, 12, 2, 197-204, 2017 2017 Feb;12(2):197-204. Epub 2016 Mar 26	Original Article
259	Oyane A	脳神経(外)診療グループ	Controlled superficial assembly of DNA-amorphous calcium phosphate nanocomposite spheres for surface-mediated gene delivery.	Colloids Surf B Biointerfaces, 1, 141, 519-527, 2016 2016 May 1;141:519-527. doi: 10.1016/j.colsurfb.2016.02.010. Epub 2016 Feb 10.	Original Article
260	О.Ю. Волкова	脳神経(外)診療グループ	Impact of neutron radiation on the viability of tumor cells cultured in the presence of boron-10 isotope	Vestnik rentgenologii i radiologii, 97, 5, 283-288, 2016	Original Article
261	Saotome K	脳神経(外)診療グループ	A brain phantom for motion-corrected PROPELLER showing image contrast and construction similar to those of in vivo MRI	Magn Reson Imaging, 36, 32-39, 2016 2017 Feb;36:32-39. doi: 10.1016/j.mri.2016.10.003. Epub 2016 Oct 11	Original Article
262	Saotome K	脳神経(外)診療グループ	Quantitative Assessment of Head Motion toward Functional Magnetic Resonance Imaging during Stepping.	Magn Reson Med Sci, 15, 3, 273-80, 2016 2016 Jul 11;15(3):273-80. doi: 10.2463/mrms.mp.2015-0015. Epub 2015 Nov 6.	Original Article
263	Saida H	脳神経(外)診療グループ	Saida H, Ishikawa E, Sakamoto N, Hara T, Terakado T, Masumoto T, Akutsu H, Shibuya M, Yamamoto T, Takano S, Akira Matsumura A	NMC case rep, 2016, in press 2016 Dec 5;4(1):19-22. doi: 10.2176/nmcrcr.2016-0147. eCollection 2017 Jan	Original Article
264	Shimizu Y	脳神経(外)診療グループ	Active elbow flexion is possible in C4 quadriplegia using hybrid assistive limb (HAL®) technology: A case study.	J Spinal Cord Med, 40, 404-406, 2017 2017 Jul;40(4):456-462. doi: 10.1080/10790268.2017.1305036. Epub 2017 Mar 29	Original Article
265	Takano S	脳神経(外)診療グループ	Immunohistochemistry on IDH 1/2, ATRX, p53 and Ki-67 substitute molecular genetic testing and predict patient prognosis in grade III adult diffuse gliomas	Brain Tumor Pathol, 33, 2, 107-16, 2016 2016 Apr;33(2):107-16. doi: 10.1007/s10014-016-0260-x. Epub 2016 Mar 11	Original Article
266	Watanabe S	脳神経(外)診療グループ	Stereotactic radiosurgery for vestibular schwannomas: average 10-year follow-up results focusing on long-term hearing preservation.	J Neurosurg, 125, Suppl 1, 64-72, 2016 2016 Dec;125(Suppl 1):64-72.	Original Article
267	Tanaka S	脳神経(外)診療グループ	Resection and reconstruction of nasal turbinates in endoscopic endonasal transpterygoid approach. Journal of Neurological Surgery	Part B: Skull Base 77, S 88, 2016	Original Article
268	Yoshikawa K	脳神経(外)診療グループ	Hybrid Assistive Limb enhances the gait functions in sub-acute stroke stage: A multi single-case study.	Physiotherapy Practice Research, 37, 2, 91-100, 2016 2017;40(1):87-97. doi: 10.3233/NRE-161393.	Original Article
269	松田 真秀	脳神経(外)診療グループ	Combination of Palonosetron, Aprepitant, and Dexamethasone Effectively Controls Chemotherapy-induced Nausea and Vomiting in Patients Treated with Concomitant Temozolomide and Radiotherapy: Results of a Prospective Study.	Neurol Med Chir (Tokyo) 2016 Nov 15;56(11):698-703. Epub 2016 Sep 23.	Original Article
270	松田 真秀	脳神経(外)診療グループ	Hemifacial Spasm Associated with Contralateral Foramen Magnum Meningioma.	World Neurosurg 2016 May;89:729.e11-3. doi: 10.1016/j.wneu.2016.01.039. Epub 2016 Jan 27	Original Article
271	阿久津 博義	脳神経(外)診療グループ	Endoscopic endonasal surgery for craniopharyngiomas.	Journal of Neurological Surgery, Part B, 77, S 01.p.-.2016	Original Article
272	柴田 靖	脳神経(外)診療グループ	True accessory anterior cerebral artery: a newly reported anterior cerebral arterial anomaly and a proposal for its classification	J Stroke Cerebrovasc Dis 2016 Aug;25(8):e118-9. doi: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2016.04.015. Epub 2016	Original Article
273	柴田 靖	脳神経(外)診療グループ	The evaluation of cerebral blood flow in patients with traumatic head injury: A comparison of MRI ASL and Tc ECD SPECT	BRAIN INJURY, 30, 5-6, p.509-510, 2016	Original Article
274	益子 良太	脳神経(外)診療グループ	Intracranial infection caused by minor skin contusion associated with previous craniotomy	BMJ Case Reports 2017 Jan 12;2017. pii: bcr2016127833. doi: 10.1136/bcr-2016-217833.	Original Article
275	益子 良太	脳神経(外)診療グループ	Glioblastoma in the limbic system presenting as sustained central hypopnea	Interdisciplinary Neurosurgery Volume 7, March 2017, Pages 62-63	Original Article
276	鶴嶋 英夫	脳神経(外)診療グループ	Hybrid Assistive Limb enhances the gait functions in sub-acute stroke stage: A multi single-case study.	Physiotherapy Practice Research Yoshikawa K, Mizukami M, Kawamoto H, Sano A, Koseki K, Hashizume Y, Asakawa Y, Iwamoto K, Kohno Y, Nagata H, Nakai K, Tsurushima H, 37, p.91-100, 2016	Original Article
277	松田 真秀	脳神経(外)診療グループ	Endoscopic endonasal surgery for craniopharyngiomas.	Journal of Neurological Surgery, Part B, 77, S 01.p.-.2016	Original Article

278	松田 真秀	脳神経(外)診療グループ	Sodium Bicarbonate Facilitates Hemostasis in the Presence of Cerebrospinal Fluid Through Amplification of Platelet Aggregation.	Neurosurgery .2016.Feb;78(2):274-84. doi: 10.1227/NEU.0000000000001058.	Original Article
279	松田 真秀	脳神経(外)診療グループ	The anti-angiogenic role of soluble-form VEGF receptor in malignant gliomas.	Int J Oncol 2017 Feb;50(2):515-524. doi: 10.3892/ijo.2016.3810. Epub 2016 Dec 19.	Original Article
280	松田 真秀	脳神経(外)診療グループ	Early Postoperative Expansion of Parenchymal High-intensity Areas on T2-weighted Imaging Predicts Delayed Cerebral Edema Caused by Carmustine Wafer Implantation in Patients with High-grade Glioma.	Magn Reson Med Sci 2016 Jul 11;15(3):299-307. doi: 10.2463/mrms.mp.2015-0054. Epub 2015 Dec 28.	Original Article
281	松村 明	脳神経(外)診療グループ	Long-term results of cabergoline therapy for macroprolactinomas and analyses of factors associated with remission after withdrawal.	Clin Endocrinol (Oxf). [Epub ahead of print] 2017 Feb;86(2):207-213. doi: 10.1111/cen.13240. Epub 2016 Oct 11.	Original Article
282	松村 明	脳神経(外)診療グループ	Desmoplastic Fibroma of the Pediatric Cranium: An Aggressive Skull Tumor with Local Recurrence.	Neurol Med Chir (Tokyo) 2016;56(2):85-8. doi: 10.2176/nmc.cr.2015-0167. Epub 2016 Jan 22.	Original Article
283	松丸 祐司	脳卒中診療グループ	Use of a Flow Re-direction Endoluminal Device (FRED) for Wide-neck Large/Giant Cerebral Aneurysms.	Journal of Neuroendovascular Therapy. Advance Published Date...p-	Original Article
284	早川 幹人	脳卒中診療グループ	脳卒中診療グループ中速報 脳卒中診療グループ中治療医必読の海外論文 Comparison of warfarin and aspirin for symptomatic intracranial arterial stenosis. Stenting versus aggressive medical therapy for intracranial arterial stenosis.	脳神経外科速報 2016.26.p.1087-1088,2016	Original Article
285	早川 幹人	脳卒中診療グループ	脳卒中診療グループ中速報 脳卒中診療グループ中治療医必読の海外論文 Aspirin and clopidogrel compared with clopidogrel alone after recent ischaemic stroke or transient ischaemic attack in high-risk patients (MATCH): randomised, double-blind, placebo-controlled trial. Clopidogrel with aspirin in acute minor stroke	脳神経外科速報 2016.26.p.1310-1311,2016	Original Article
286	早川 幹人	脳卒中診療グループ	脳卒中診療グループ中速報 脳卒中診療グループ中治療医必読の海外論文 Endovascular therapy after intravenous t-PA versus t-PA alone for stroke A randomized trial of intraarterial treatment for acute ischemic stroke	脳神経外科速報 2016/26/pp.626-627, 2016	Original Article
287	松丸 祐司	脳卒中診療グループ	The significant impact of framing coils on long-term outcomes in endovascular coiling for intracranial aneurysms: how to select an appropriate framing coil.	J Neurosurg. 2016 Sep;125(3):705-12. doi: 10.3171/2015.7.JNS15238. Epub 2016 Jan 8	Original Article
288	松丸 祐司	脳卒中診療グループ	Reconstructive endovascular treatment of ruptured vertebral artery dissection involving the posterior inferior cerebellar artery.	Acta Neurochir (Wien). 2016 Jun;158(6):1089-93. doi: 10.1007/s00701-016-2788-2. Epub 2016 Apr 1.	Original Article
289	松丸 祐司	脳卒中診療グループ	Door-to-Needle Time Under 60 Minutes and Picture-to-Puncture Under 90 Minutes: Initiatives and Outcomes in Reducing Time to Recanalization for Cerebral Major Artery Occlusion.	Neurol Med Chir 2016 Dec 15;56(12):725-730. Epub 2016 Jul 5.	Original Article
290	早川 幹人	脳卒中診療グループ	Histopathologic analysis of retrieved thrombi associated with successful reperfusion after acute stroke thrombectomy.	Stroke. 2016 Dec;47(12):3035-3037. Epub 2016 Oct 25.	Original Article
291	早川 幹人	脳卒中診療グループ	脳卒中診療グループ中速報 脳卒中診療グループ中治療医必読の海外論文 Aspirin and clopidogrel compared with clopidogrel alone after recent ischaemic stroke or transient ischaemic attack in high-risk patients (MATCH): randomised, double-blind, placebo-controlled trial. Clopidogrel with aspirin in acute minor stroke	脳神経外科速報 2016.26.p.1310-1311,2016	Original Article
292	小川 健	整形診療グループ	Isolated squamous cell lung cancer metastasis to the scalp	EUROPEAN GERIATRIC MEDICINE. 7.2.p.166-167,2016-04	Original Article
293	鎌田 浩史	整形診療グループ	The use of a novel in-bed active Leg Exercise Apparatus (LEX) for increasing venous blood flow	Journal of rural medicine : JRM 2016;11(1):11-6. doi: 10.2185/jrm.2906. Epub 2016 Jun 16.	Original Article
294	吉岡 友和	整形診療グループ	Knee-Extension Training with a Single-Joint Hybrid Assistive Limb during the Early Postoperative Period after Total Knee Arthroplasty in a Patient with Osteoarthritis	Case reports in orthopedics 2016;2016:9610745. Epub 2016 Sep 28.	Original Article
295	三島 初	整形診療グループ	2. The Effect of Combined Therapy, Percutaneous Autologous Concentrated Bone Marrow Grafting and Low-Intensity Pulsed Ultrasound (LIPUS), on the Treatment	Journal of orthopaedic trauma 2016 Aug;30(8):S2. doi: 10.1097/01.bot.0000489987.43355.1d	Original Article
296	三島 初	整形診療グループ	The safety and efficacy of combined autologous concentrated bone marrow grafting and low-intensity pulsed ultrasound in the treatment of osteonecrosis of the	European journal of orthopaedic surgery & traumatology : orthopedie traumatologie 2016 Apr;26(3):293-8. doi: 10.1007/s00590-016-1752-4. Epub 2016 Feb 27.	Original Article
297	船山 徹	整形診療グループ	Solitary bone cyst of a lumbar vertebra treated with percutaneous steroid injection: a case report and review of literature.	European Spine Journal 2017 May;26(Suppl 1):58-62. doi: 10.1007/s00586-016-4736-5. Epub 2016 Aug 23.	Original Article
298	清水 如代	整形診療グループ	A novel apparatus for active leg exercise improves venous flow in the lower extremity	The Journal of sports medicine and physical fitness 2016 Dec;56(12):1592-1597. Epub 2015 Nov 26	Original Article
299	和田 大志	整形診療グループ	Initial Results of an Acetabular Center Axis Registration Technique in Navigated Hip Arthroplasty with Deformed Acetabular Rims	The open orthopaedics journal 2016 Mar 22;10:26-35. doi: 10.2174/1874325001610010026. eCollection 2016	Original Article
300	兵頭 康次郎	整形診療グループ	Location of fractures and the characteristics of patients with atypical femoral fractures: analyses of 38 Japanese cases	Journal of bone and mineral metabolism 2017 Mar;35(2):209-214. doi: 10.1007/s00774-016-0747-x. Epub 2016 Mar 29.	Original Article
301	和田 大志	整形診療グループ	Three-Dimensional Analysis of the Contact Pattern between the Cortical Bone and Femoral Prosthesis after Cementless Total Hip Arthroplasty	ADVANCES IN ORTHOPEDICS 2016;2016:8052380. doi: 10.1155/2016/8052380. Epub 2016 Jan 10.	Original Article
302	原 友紀	整形診療グループ	The relationship between preoperative needle electromyography findings and muscle power restoration after surgery in severe carpal tunnel syndrome patients	Journal of orthopaedic science : official journal of the Japanese Orthopaedic Association	Original Article
303	清水 如代	整形診療グループ	Hip prosthesis in sitting posture for bilateral transfemoral amputee after burn injury: a case report	Prosthetics and orthotics international 2017 Oct;41(5):522-526. doi: 10.1177/0309364616682384. Epub 2016 Dec 20.	Original Article
304	Sachiko Ito	形成診療グループ	p62 modulates the intrinsic signaling of UVB-induced apoptosis	Journal of Dermatological science, 83(3), 226-233, Sep 2016 2016 Sep;83(3):226-33. doi: 10.1016/j.jidmsci.2016.05.005. Epub 2016 May 10.	Original Article
305	Akio Nishijima	形成診療グループ	The Effect of Smoking on Necrosis Rate in Digital Replantation and Revascularization with Prostaglandin E Therapy: A Retrospective Study	Plastic and Reconstructive Surgery, 138(4), 848-853, October 2016 2016 Oct;138(4):848-53. doi: 10.1097/PRS.00000000000002600.	Original Article

306	Akio Nishijima	形成診療グループ	Clinical utility of laser Doppler flowmetry for monitoring digital circulation after replantation: differentiation between tissue ischemia and congestion	J Reconstr Microsurg Open, 02 (01): e69-e71, 2017 2017; 02(01): e69-e71	Original Article
307	平岡 孝浩	眼診療グループ	Differences of Longitudinal Chromatic Aberration (LCA) between Eyes with Intraocular Lenses from Different Manufacturers	PLOS ONE 2016 Sep;26(5):334-40. doi: 10.1053/ijrn.2016.02.010. Epub 2016 Apr 13.	Original Article
308	平岡 孝浩	眼診療グループ	Influence of cosmetically tinted contact lenses on contrast sensitivity, light scattering, and higher-order aberrations	INVESTIGATIVE OPHTHALMOLOGY & VISUAL SCIENCE_57,12,p.-.2016-09	Original Article
309	岡本 史樹	眼診療グループ	Fast-forming hydrogels with ultralow polymeric component as an artificial vitreous body	Nature Biomedical Engineering2017-03	Original Article
310	岡本 史樹	眼診療グループ	Polyethylene Glycol-Based Synthetic Hydrogel Sealant for Closing Vitrectomy Wounds: An In Vivo and Histological Study.	Transl Vis Sci Technol. 2016 May 17;5(3):7. eCollection 2016 May. 2016 May 17;5(3):7. eCollection 2016 May.	Original Article
311	福田 慎一	眼診療グループ	Quantitative Evaluation of Phase Retardation in Filtering Blebs Using Polarization-Sensitive Optical Coherence Tomography	INVESTIGATIVE OPHTHALMOLOGY & VISUAL SCIENCE 2016 Nov 1;57(14):5919-5925. doi: 10.1167/iov.16-19548.	Original Article
312	福田 慎一	眼診療グループ	In vivo retinal and choroidal hypoxia imaging using a novel activatable hypoxia-selective near-infrared fluorescent probe	GRAEFES ARCHIVE FOR CLINICAL AND EXPERIMENTAL OPHTHALMOLOGY 2016 Dec;254(12):2373-2385. Epub 2016 Aug 29	Original Article
313	加治 優一	眼診療グループ	Understanding the Maillard reaction for the prevention of blindness.	IMARS highlights...p.5-15.2016-04	Original Article
314	平岡 孝浩	眼診療グループ	Apparent accommodation in pseudophakic eyes with refractive against-the-rule, with-the-rule and minimum astigmatism	Br J Ophthalmol 2016 Apr;100(4):565-71. doi: 10.1136/bjophthalmol-2015-307032. Epub 2015 Aug	Original Article
315	岡本 史樹	眼診療グループ	Aniseikonia and Foveal Microstructure in Patients with Idiopathic Macular Hole	OPHTHALMOLOGY 2016 Sep;123(9):1926-32. doi: 10.1016/j.ophtha.2016.05.051. Epub 2016 Jul 9	Original Article
316	星 崇仁	眼診療グループ	Functional visual acuity in patients with successfully treated amblyopia: a pilot study	Graefes archive for clinical and experimental ophthalmology = Albrecht von Graefes Archiv fur klinische und experimentelle Ophthalmologie 2017 Jun;255(6):1245-1250. doi: 10.1007/s00417-017-3623-z. Epub 2017 Feb 24.	Original Article
317	岡本 史樹	眼診療グループ	Aniseikonia in various retinal disorders	Graefes archive for clinical and experimental ophthalmology = Albrecht von Graefes Archiv fur klinische und experimentelle Ophthalmologie 2017 Jun;255(6):1063-1071. doi: 10.1007/s00417-017-3597-x. Epub 2017 Jan 25.	Original Article
318	杉浦 好美	眼診療グループ	RELATIONSHIP BETWEEN METAMORPHOSIA AND INTRARETINAL CYSTS WITHIN THE FLUID CUFF AFTER SURGERY FOR IDIOPATHIC MACULAR HOLE.	RETINA-THE JOURNAL OF RETINAL AND VITREOUS DISEASES 2017 Jan;37(1):70-75. doi: 10.1097/IAE.0000000000001136.	Original Article
319	杉浦 好美	眼診療グループ	Visual function in patients with idiopathic macular telangiectasia type 1.	Acta Ophthalmol. 2016 May 26. doi: 10.1111/aos.13127. [Epub ahead of print] 2016 Nov;94(7):e672-e673. doi: 10.1111/aos.13127. Epub 2016 May 26	Original Article
320	岡本 芳史	眼診療グループ	The effect of intraoperative application of chemically defined bioadhesive powder for trabeculectomy in rabbit eyes	INVESTIGATIVE OPHTHALMOLOGY & VISUAL SCIENCE_57,12,p.-.2016-09	Original Article
321	星 崇仁	眼診療グループ	In vivo feasibility study of a novel critical hydrogel as an artificial vitreous body using rabbit eyes	INVESTIGATIVE OPHTHALMOLOGY & VISUAL SCIENCE_57,12,p.-.2016-09	Original Article
322	岡本 史樹	眼診療グループ	Novel critical hydrogel tamponade for experimental rhegmatogenous retinal detachment in rabbit eyes	INVESTIGATIVE OPHTHALMOLOGY & VISUAL SCIENCE_57,12,p.-.2016-09	Original Article
323	長谷川 優実	眼診療グループ	Risk factors for corneal endothelial cell loss by cataract surgery in eyes with pseudoexfoliation syndrome	CLINICAL OPHTHALMOLOGY 2016 Aug 30;10:1685-9. doi: 10.2147/OPHT.S106661. eCollection 2016.	Original Article
324	村上 智哉	眼診療グループ	Relationship between metamorphopsia and foveal microstructure in patients with branch retinal vein occlusion and cystoid macular edema	GRAEFES ARCHIVE FOR CLINICAL AND EXPERIMENTAL OPHTHALMOLOGY 2016 Nov;254(11):2191-2196. Epub 2016 May 12.	Original Article
325	村上 智哉	眼診療グループ	Time course of changes in metamorphopsia and retinal microstructure after successful rhegmatogenous retinal detachment surgery	INVESTIGATIVE OPHTHALMOLOGY & VISUAL SCIENCE_57,12,p.-.2016-09	Original Article
326	村上 智哉	眼診療グループ	CHANGES IN METAMORPHOSIA AND OPTICAL COHERENCE TOMOGRAPHY FINDINGS AFTER SUCCESSFUL RETINAL DETACHMENT SURGERY	Retina (Philadelphia, Pa.) 2017 Mar 22. doi: 10.1097/IAE.0000000000001588. [Epub ahead of print]	Original Article
327	Okada, Masahiro	耳鼻咽喉診療グループ	The effect of initial treatment on hearing prognosis in idiopathic sudden sensorineural hearing loss: a nationwide survey in Japan	Acta oto-laryngologica 2017;137(sup565):S30-S33. doi: 10.1080/00016489.2017.1296970. Epub 2017 Mar	Original Article
328	田淵 経司	耳鼻咽喉診療グループ	The role of peroxiredoxin 1 in cisplatin-induced ototoxicity.	Auris Nasus Larynx 2017 Apr;44(2):205-212. doi: 10.1016/j.ianl.2016.06.001. Epub 2016 Jun 16.	Original Article
329	和田 哲郎	耳鼻咽喉診療グループ	Impacts of Surgically Performed Renal Denervation on the Cardiovascular and Electrophysiological Variables in the Chronic Atrioventricular Block Dogs - Comparison With Those of Amiodarone Treatment.	CIRCULATION JOURNAL 2016 Jun 24;80(7):1556-63. doi: 10.1253/circ.CJ-16-0198. Epub 2016 May 31.	Original Article
330	Endo-Kawamura N	婦人・周産期診療グループ	Higher D-dimer level in the early third trimester predicts the occurrence of postpartum hemorrhage.	J Perinat Med 2016 Jul 1;44(5):551-6. doi: 10.1515/jpm-2015-028	Original Article
331	水口 剛雄	婦人・周産期診療グループ	Proposal for selection criteria of secondary cytoreductive surgery in recurrent epithelial ovarian, tubal, and peritoneal cancers.	Int J Clin Oncol. 2016 Jun;21(3):573-9. doi: 10.1007/s10147-015-0910-8. Epub 2015 Oct 16.	Original Article
332	中尾 砂理	婦人・周産期診療グループ	Paraneoplastic thrombocytosis as a prognostic marker in ovarian cancer	INTERNATIONAL JOURNAL OF GYNECOLOGICAL CANCER_26,3,p.791-791,2016-10	Original Article
333	櫻井 学	婦人・周産期診療グループ	Expression of Tissue Factor in Epithelial Ovarian Carcinoma Is Involved in the Development of Venous Thromboembolism	INTERNATIONAL JOURNAL OF GYNECOLOGICAL CANCER 2017 Jan;27(1):37-43. doi: 10.1097/IGC.0000000000000848.	Original Article
334	佐藤 豊実	婦人・周産期診療グループ	Fertility-sparing surgery for early stage epithelial ovarian cancer	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY 2016 Aug;46(8):703-10. doi: 10.1093/jco/hyw069. Epub 2016 Jun 9.	Original Article
335	猪股 伸一	麻酔診療グループ	The minimum alveolar concentration (MAC) of sevoflurane for maintaining the bispectral index below 50 during noxious stimulation.	Eur J Anaesth. 33.e-Supplement 54.p.-.2016-6	Original Article
336	猪股 伸一	麻酔診療グループ	The MAC-BIS50 of desflurane during tetanic stimulation.	Eur J Anaesth. 33.e-Supplement 54.p.-.2016-6	Original Article
337	猪股 伸一	麻酔診療グループ	The effects of A118G gene mutation on the fentanyl dose needed for postoperative analgesia in the patients undergoing gynecological malignant tumor	Eur J Anaesth. 33.e-Supplement 54.p.-.2016-6	Original Article
338	清水 雄	麻酔診療グループ	Extended therapeutic window of a novel peptide inhibitor of TRPM2 channels following focal cerebral ischemia.	Exp Neurol 2016 Sep;283(Pt A):151-6. doi: 10.1016/j.expneurol.2016.06.015. Epub 2016 Jun 15.	Original Article
339	Ueda H,	麻酔診療グループ	Functional residual capacity increase during laparoscopic surgery with abdominal wall lift	Rev Bras Anesthesiol. 2017 May - Jun; 67(3): 284-287. 2017 May - Jun;67(3):284-287. doi: 10.1016/j.bjan.2015.12.011. Epub 2017 Feb 27	Original Article

340	Yamada K.	麻酔診療グループ	The Ropivacaine Concentration Required for Ultrasound-Guided Iliioinguinal/Iliohypogastric Nerve Block in Pediatric Patients.	Anesth Analg. 2016 Jul; 123(1) : 175-178 2016 Jul;123(1):175-8. doi: 10.1213/ANE.0000000000001329.	Original Article
341	Yamashita S.	麻酔診療グループ	Effects of intraoperative high-dose vs low-dose remifentanyl for postoperative epidural analgesia after gynecological abdominal surgery: a randomized clinical trial.	J Clin Anesth. 2016 Aug; 32 :153-158. 2016 Aug;32:153-8. doi: 10.1016/j.jclinane.2016.02.024. Epub 2016 Apr 22	Original Article
342	田口 典子	麻酔診療グループ	Single administration of soluble epoxide hydrolase inhibitor suppresses neuroinflammation and improves neuronal damage after cardiac arrest in mice.	Neurosci Res 2016 Oct;111:56-63. doi: 10.1016/j.neures.2016.05.002. Epub 2016 May 13.	Original Article
343	Yamagata K	歯・口腔診療グループ	A Case of Primary Combined Squamous Cell Carcinoma with Neuroendocrine (Atypical Carcinoid) Tumor in the Floor of the Mouth.	Case Rep Dent. 2016;2016:7532805. doi: 10.1155/2016/7532805. Epub 2016 Dec 27.	Original Article
344	Yamagata K.	歯・口腔診療グループ	A Rare Primary Neuroendocrine Tumor (Typical Carcinoid) of the Sublingual Gland.	Case Rep Dent. 2016;2016:7462690. Epub 2016 Oct 20.	Original Article
345	伊藤 寛之	歯・口腔診療グループ	Non-small-cell lung cancer metastasis to the oral cavity: A case report	Molecular and clinical oncology 2017 Mar;6(3):422-424. doi: 10.3892/mco.2017.1141. Epub 2017 Jan 31	Original Article
346	Yamagata K.	歯・口腔診療グループ	A Case of Brain Abscess Caused by Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw.	Case Rep Dent. 2016;2016:7038618. doi: 10.1155/2016/7038618. Epub 2016 Feb 2.	Original Article
347	道喜 将太郎	保健衛生外来診療グループ	Absenteeism due to mental health problems and systems for return to work: an internet-based unmatched case-control study.	International Archives of Occupational and Environmental Health 2016 Nov;89(8):1279-1287. Epub 2016 Aug 22.	Original Article
348	道喜 将太郎	保健衛生外来診療グループ	Risk Factors for Suicidal Ideation Among Telephone Crisis Hotline Callers in Japan	Crisis-The Journal of Crisis Intervention and Suicide Prevention 2016 Nov;37(6):438-444. doi: 10.1027/0227-5910/a000384. Epub 2016 Jun 1.	Original Article
349	道喜 将太郎	保健衛生外来診療グループ	A survey of support systems for return to work in Japanese companies: a cross-sectional study	Industrial Health 2016 Dec 7;54(6):564-572. Epub 2016 May 1	Original Article
350	Enomoto Y	救急・集中治療診療グループ	Enteral nutrient gel causes formation of a huge gastric bezoar	Acute Medicine & Surgery 31 May 2016 10.1002/ams2.223	Original Article
351	Matsuishi Y	救急・集中治療診療グループ	Landiolol hydrochloride ameliorates acute lung injury in a rat model of early sepsis through the suppression of elevated levels of pulmonary endothelin-1.	LIFE SCIENCES 2016 Dec 1;166:27-33. doi: 10.1016/j.lfs.2016.10.010. Epub 2016 Oct 11.	Original Article
352	Watabe H	救急・集中治療診療グループ	Enhancement patterns detected by multidetector computed tomography are associated with microvascular obstruction and left ventricular remodeling in patients with acute myocardial infarction.	Eur Heart J. 2016;37:684-92 2016 Feb 21;37(8):684-92. doi: 10.1093/eurheartj/ehv467. Epub 2015 Sep 17.	Original Article
353	寺島 秀夫	救急・集中治療診療グループ	What is the manner of gastric emptying after ingestion of liquids with differences in the volume under uniform glucose-based energy content?	Clinical nutrition (Edinburgh, Scotland) 2017 Oct;36(5):1283-1287. doi: 10.1016/j.clnu.2016.08.014. Epub 2016 Aug 24.	Original Article
354	寺島 秀夫	救急・集中治療診療グループ	Is single incisional laparoscopic appendectomy feasible for surgical residents? - Our experiences	Eur Surg Res_57,suppl 1.p.70-2016-05	Original Article
355	太刀川 弘和	救急・集中治療診療グループ	Primary and secondary prevention of suicide in college and university students in Symposium 10, 'Protecting youth from suicide!	The 7th Asia Pacific Regional Conference of the Int'l Association for Suicide Prevention Program & Abstracts ,p.140-140,2016-04	Original Article
356	太刀川 弘和	救急・集中治療診療グループ	Scapegoating effect to suicide in Japan. In Plenary Session7, 'Media and suicide: Is there only Werther's effect?	The 7th Asia Pacific Regional Conference of the Int'l Association for Suicide Prevention Program & Abstracts ,p.91-91,2016-04	Original Article
357	Iyama S	病理診断診療グループ	Drebrin: A new oncofetal biomarker associated with prognosis of lung adenocarcinoma.	Lung Cancer;102: 74-81. 2016 Dec;102:74-81. doi: 10.1016/j.lungcan.2016.10.013. Epub 2016 Oct 27.	Original Article
358	Sato T	病理診断診療グループ	miR-3941: A novel microRNA that controls IGBP1 expression and is associated with malignant progression of lung adenocarcinoma.	Cancer Sci. 108(3):536-542. 2017 Mar;108(3):536-542. doi: 10.1111/cas.13148.	Original Article
359	Husni RE	病理診断診療グループ	DNMT3a expression pattern and its prognostic value in lung adenocarcinoma.	Lung Cancer , 97:59-65. 2016 Jul;97:59-65. doi: 10.1016/j.lungcan.2016.04.018. Epub 2016 Apr 27.	Original Article
360	山縣 邦弘	病理診断診療グループ	Evaluation of the Validity of a Novel CKD Assessment Checklist Used in the Frontier of Renal Outcome Modifications in Japan Study.	J Ren Nutr. 2016 Sep;26(5):334-40. doi: 10.1053/j.jrn.2016.02.010. Epub 2016 Apr 13.	Original Article
361	山縣 邦弘	病理診断診療グループ	Significance of the decreased risk of dialysis-related amyloidosis now proven by results from Japanese nationwide surveys in 1998 and 2010.	Nephrol Dial Transplant. 2016 Apr;31(4):595-602. doi: 10.1093/ndt/gfv276. Epub 2015 Jul 22.	Original Article
362	上杉 憲子	病理診断診療グループ	WHAT GLOMERULAR MORPHOLOGY CAUSES INTEROBSERVER DISAGREEMENT?	RHEUMATOLOGY 56.3.p.38-38,2017-03	Original Article
363	上杉 憲子	病理診断診療グループ	Age-Related Renal Microvascular Changes: Evaluation by Three-Dimensional Digital Imaging of the Human Renal Microcirculation Using Virtual Microscopy	INTERNATIONAL JOURNAL OF MOLECULAR SCIENCES 2016 Nov 2;17(11). pii: E1831	Original Article
364	長田 道夫	病理診断診療グループ	Podocyte injury and its consequences	KIDNEY INTERNATIONAL 2016 Jun;89(6):1221-30. doi: 10.1016/j.kint.2016.01.012. Epub 2016 Mar 19.	Original Article
365	Hayashi Y	放射線腫瘍科診療グループ	Hyperfractionated high-dose proton beam radiotherapy for clival chordomas after surgical removal.	Br J Radiol. 2016;89(1063):20151051. 2016 Jul;89(1063):20151051. doi: 10.1259/bjr.20151051. Epub 2016 Apr 21.	Original Article
366	Mizumoto M	放射線腫瘍科診療グループ	Proton beam therapy for pediatric malignancies: a retrospective observational multicenter study in Japan.	Cancer Med. 2016;5(7):1519-25. 2016 Jul;5(7):1519-25. doi: 10.1002/cam4.743. Epub 2016 May 11.	Original Article
367	Mori Y	放射線腫瘍科診療グループ	Development of simple high-precision two-dimensional dose-distribution measurement method for proton beam therapy using imaging plate and EBT3.	Australas Phys Eng Sci Med. 2016;39(3):687-96. .2016 May;62(5):275-8	Original Article
368	Unoki T	放射線腫瘍科診療グループ	Methylmercury, an environmental electrophile capable of activation and disruption of the Akt/CREB/Bcl-2 signal transduction pathway in SH-SY5Y cells	Sci Rep. 2016 Jun 30;6:28944 2016 Jun 30;6:28944. doi: 10.1038/srep28944.	Original Article
369	Mizumoto M	放射線腫瘍科診療グループ	Proton beam therapy with concurrent chemotherapy for glioblastoma multiforme: comparison of nimustine hydrochloride and temozolomide.	J Neurooncol. 2016;130(1):165-70. 2016 Oct;130(1):165-170. Epub 2016 Aug 17.	Original Article
370	Ishikawa H	放射線腫瘍科診療グループ	Concurrent Chemo-Proton Therapy for Esophageal Cancer.	Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2016;96(2S):E192.	Original Article
371	Ohnishi K	放射線腫瘍科診療グループ	Proton Beam Therapy for High-risk Patients with Stage I Non-Small Cell Lung	Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2016;96(2S):E457-E8.	Original Article
372	Takada K	放射線腫瘍科診療グループ	Development of Monte Carlo based real-time treatment planning system with fast calculation algorithm for boron neutron capture therapy.	Phys Med. 2016;32:1846-51. 2016 Dec;32(12):1846-1851. doi: 10.1016/j.ejmp.2016.11.007. Epub 2016 Nov 23.	Original Article
373	Fukumitsu N	放射線腫瘍科診療グループ	Proton beam therapy for liver metastases from gastric cancer.	J Radiat Res. 2016;1-6. 2017 May 1;58(3):357-362. doi: 10.1093/jrr/rrw102	Original Article
374	Mizumoto M	放射線腫瘍科診療グループ	Long-term follow-up after proton beam therapy for pediatric tumors: a Japanese national survey.	Cancer Sci. 2017;108(3):444-7. 2017 Mar;108(3):444-447. doi: 10.1111/cas.13140.	Original Article

375	Takizawa D	放射線腫瘍科診療グループ	A comparative study of dose distribution of PBT, 3D-CRT and IMRT for pediatric brain tumors.	Radiat Oncol. 2017;12(1):40. 2017 Feb 22;12(1):40. doi: 10.1186/s13014-017-0775-2.	Original Article
376	Feliciano CP	放射線腫瘍科診療グループ	Long-term bioavailability of redox nanoparticles effectively reduces organ dysfunctions and death in whole-body irradiated mice.	Biomaterials. 2017;129:68-82. 2017 Jun;129:68-82. doi: 10.1016/j.biomaterials.2017.03.011. Epub 2017 Mar 14.	Original Article
377	Oshiro Y	放射線腫瘍科診療グループ	Analysis of repeated proton beam therapy for patients with hepatocellular carcinoma.	Radiother Oncol. 2017;123(2):240-5. 2017 May;123(2):240-245. doi: 10.1016/j.radonc.2017.03.004. Epub 2017 Mar 30	Original Article
378	Takaoka E	放射線腫瘍科診療グループ	Long-term single-institute experience with trimodal bladder-preserving therapy with proton beam therapy for muscle-invasive bladder cancer.	Jpn J Clin Oncol. 2017;47(1):67-73. 2017 Aug 25;81(9):1360-1367. doi: 10.1253/circj.CJ-16-1348. Epub 2017 Apr 18.	Original Article
379	Isobe T	放射線腫瘍科診療グループ	Essentials of Brain MRS: Fundamentals and Clinical Applications.	Igaku Butsuri. 2016;36(2):85-91. 2016;36(2):85-91. doi: 10.11323/jimp.36.2.85.	Original Article
380	Sato E	放射線腫瘍科診療グループ	Basic Principle and Image Analysis in the Diffusion Tensor Image.	Igaku Butsuri. 2016;36(2):97-102. 2016;36(2):97-102. doi: 10.11323/jimp.36.2.97.	Original Article
381	Takada K	放射線腫瘍科診療グループ	Notes on the Ingenuity of the Monte Carlo Code PHITS.	Igaku Butsuri. 2016;35(4):292-6. 2016;35(4):292-296. doi: 10.11323/jimp.35.4.292.	Original Article
382	Tadano K	放射線腫瘍科診療グループ	Basics of Monte-Carlo Simulation: Focusing on Dose-to-medium and Dose-to-water.	Igaku Butsuri. 2016;36(3):148-50. 2016;36(3):148-150. doi: 10.11323/jimp.36.3.148.	Original Article
383	Isobe T	放射線腫瘍科診療グループ	Handling Density Conversion in TPS.	Igaku Butsuri. 2016;36(3):156-60. 2016;36(3):156-160. doi: 10.11323/jimp.36.3.156.	Original Article
384	Fukumitsu N	放射線腫瘍科診療グループ	Registration error of the liver CT using deformable image registration of MIM Maestro and Velocity AI. BMC Med Imaging.	BMC Med Imaging. 2017;17(1):30. 2017 May 4;17(1):30. doi: 10.1186/s12880-017-0202-z	Original Article
385	Mizumoto M	放射線腫瘍科診療グループ	Preparation of pediatric patients for treatment with proton beam therapy.	LAP LAMBERT Academic Publishing; 2016 2016.07.2015 Feb;114(2):245-8. doi: 10.1016/j.radonc.2015.01.007. Epub 2015	Original Article
386	磯辺 智範	放射線腫瘍科診療グループ	Effect of biological factors on successful measurements with skeletal-muscle H-1-MRS	THERAPEUTICS AND CLINICAL RISK MANAGEMENT 2016 Jul 20;12:1133-7. doi: 10.2147/TCRM.S84371. eCollection 2016	Original Article
387	石川 仁	放射線腫瘍科診療グループ	Concurrent Chemo-Proton Therapy for Esophageal Cancer	INTERNATIONAL JOURNAL OF RADIATION ONCOLOGY BIOLOGY PHYSICS 96.2:S.p.E192-E192.2016-10	Original Article
388	大西 かよ子	放射線腫瘍科診療グループ	Proton Beam Therapy for High-risk Patients with Stage I Non-Small Cell Lung Cancer	INTERNATIONAL JOURNAL OF RADIATION ONCOLOGY BIOLOGY PHYSICS 96.2:S.p.E457-E458.2016-10	Original Article
389	櫻井 英幸	放射線腫瘍科診療グループ	Proton beam therapy in Japan: current and future status	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY 2016 Oct;46(10):885-892. Epub 2016 Aug 17.	Original Article
390	石川 仁	放射線腫瘍科診療グループ	Significant impact of biochemical recurrence on overall mortality in patients with high-risk prostate cancer after carbon-ion radiotherapy combined with androgen deprivation therapy.	Cancer 2016 Oct 15;122(20):3225-3231. doi: 10.1002/cncr.30050. Epub 2016 Jun 28.	Original Article
391	玉木 義雄	放射線腫瘍科診療グループ	Chemoradiation therapy with docetaxel in elderly patients with stage II/III esophageal cancer: A phase 2 trial	Advances in Radiation Oncology 2016 Jul 15;1(4):230-236. doi: 10.1016/j.adro.2016.07.002. eCollection 2016 Oct-	Original Article
392	関本 道治	放射線腫瘍科診療グループ	Derivation of total filtration thickness for diagnostic x-ray source assembly	Physics in Medicine and Biology 2016 Aug 21;61(16):6011-24. doi: 10.1088/0031-9155/61/16/6011. Epub 2016 Jul	Original Article
393	Hoshiai S	放射線診断・IVR診療グループ	Balloon-Assisted Chemoembolization Using a Micro-Balloon Catheter Alongside a Microcatheter for a Hepatocellular Carcinoma with a Prominent Arterioportal Shunt: A Case Report.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2017 Apr;40(4):625-628. doi: 10.1007/s00270-016-1530-z. Epub 2016 Dec 16.	Original Article
394	Mori k	放射線診断・IVR診療グループ	Endoleak detection after endovascular aneurysm repair using unenhanced MRI with flow suppression technique: Feasibility study in comparison with contrast-enhanced	Eur Radiol. 2017 Jan;27(1):336-344. Epub 2016 Mar 24.	Original Article
395	Okamoto Y	放射線診断・IVR診療グループ	Incidence of elbow injuries in adolescent baseball players: screening by a low field magnetic resonance imaging system specialized for small joints.	Jpn J Radiol. 2016 Apr;34(4):300-6. doi: 10.1007/s11604-016-0526-6. Epub 2016 Feb 8.	Original Article
396	Saida T	放射線診断・IVR診療グループ	Revised FIGO staging system for cancer of the ovary, fallopian tube, and peritoneum: important implications for radiologists.	Jpn J Radiol 2016 Feb;34(2):117-24. doi: 10.1007/s11604-015-0513-3. Epub 2015 Dec 22.	Original Article
397	Hiyama T	放射線診断・IVR診療グループ	Enlargement of the brachial plexus on magnetic resonance imaging: a novel finding in adult-onset Krabbe disease	BJR case reports Published Online: April 04, 2016	Original Article
398	Hoshiai S	放射線診断・IVR診療グループ	Radiation-induced angiosarcoma of the brain.	BJR case reports Published Online: December 01, 2015	Original Article
399	Saida T	放射線診断・IVR診療グループ	Steady-State Free-Precession Sequence for Differentiating Bronchogenic Carcinoma from Adjacent Atelectasis.	OMICS Journal of Radiology 2016, 5:1	Original Article
400	Takahashi H	放射線診断・IVR診療グループ	Adult-Onset Hyperplasia of An Ectopic Cervical Thymus Associated with Uncontrolled Hyperthyroidism	Iranian Journal of Radiology 14.1.p.e39523-2016-08	Original Article
401	Takahashi H	放射線診断・IVR診療グループ	Organ Atrophy Induced by Sorafenib and Sunitinib - Quantitative Computed Tomography (CT) Evaluation of the Pancreas, Thyroid Gland and Spleen	Pol J Radiol 2016 Nov 22;81:557-565. eCollection 2016.	Original Article
402	星合 壮大	放射線診断・IVR診療グループ	Radiation-induced angiosarcoma of the brain	BJR case reports Published Online: December 01, 2015	Original Article
403	矢野 晴美	放射線診断・IVR診療グループ	Bacteremic renal stone-associated urinary tract infection caused by nontypable Haemophilus influenzae: A rare invasive disease in an immunocompetent patient.	IDCases 2016 Nov 22;7:11-13. eCollection 2017	Original Article
404	矢野 晴美	放射線診断・IVR診療グループ	Tetanus in the Elderly: The Management of Intensive Care and Prolonged Hospitalization.	Internal medicine 2016;55(22):3399-3402. Epub 2016 Nov 15.	Original Article
405	入江 敏之	放射線診断・IVR診療グループ	Diameter of main tumor feeding artery of a hepatocellular carcinoma: measurement at the entry site into the nodule	Hepatology Research 2016 Mar;46(3):E100-4. doi: 10.1111/hepr.12534. Epub 2015 Jun 6.	Original Article
406	入江 敏之	放射線診断・IVR診療グループ	Selective balloon-occluded transarterial chemoembolization for patients with one or two hepatocellular carcinoma nodules: retrospective comparison with conventional super-selective TACE	Hepatology Research 2016 Feb;46(2):209-14. doi: 10.1111/hepr.12564. Epub 2015 Sep 2.	Original Article
407	渡邊 慎	放射線診断・IVR診療グループ	Prediction of Contrast-induced Nephropathy by the Serum Creatinine Level on the Day Following Cardiac Catheterization.	Journal of Cardiology 2016 Nov;68(5):412-418. doi: 10.1016/j.jicc.2015.10.016. Epub 2015 Dec 18.	Original Article

408	Haruta, J.	総合診療グループ	Development of an interprofessional competency framework in Japan. Journal of Interprofessional Care.	Journal of Interprofessional Care 30(5):675-7, 2016 2016 Sep;30(5):675-7. doi: 10.1080/13561820.2016.1192588. Epub 2016 Jun 28.	Original Article
-----	------------	----------	---	--	------------------

409	横谷 省治	総合診療グループ	The effect of stress-related factors on depressive state among medical residents	Medical Research Archives_4,6,p.-77,2016-10	Original Article
410	吉本 尚	総合診療グループ	Effectiveness of various alcohol screening instruments for detecting alcohol use disorder in the Japanese primary care setting	ISBRA/ESBRA Congress final programme...p.33-33,2016-08	Original Article
411	小林 裕幸	総合診療グループ	Effect of post-exercise class mailing program on long-term exercise adherence among community-dwelling older adults: A study design for a randomized controlled	健康支援_18,2,p.43-53,2016-09	Original Article
412	小林 裕幸	総合診療グループ	Heat stress induced phosphorylation of FoxO3a signaling in rat skeletal muscle	Acta Physiol. 2016 Nov;218(3):178-187. doi: 10.1111/apha.12735. Epub 2016 Jul 1.	Original Article
413	濃野 淳	総合診療グループ	Multicenter cohort study on the survival time of cancer patients dying at home or in a hospital: Does place matter?	Cancer 2016 May 1;122(9):1453-60. doi: 10.1002/cncr.29844. Epub 2016 Mar 28	Original Article
414	濃野 淳	総合診療グループ	Changes in vital signs as predictors of bacterial infection in home care: a multicenter prospective cohort study	Postgraduate Medicine 2017 Mar;129(2):283-287. doi: 10.1080/00325481.2017.1251819. Epub 2016 Nov 3.	Original Article
415	濃野 淳	総合診療グループ	Prognostic predictors required for end-of-life discussions	ANNALS OF ONCOLOGY_27,7,p.-,2016-07	Original Article
416	濃野 淳	総合診療グループ	Adding items that assess changes in activities of daily living does not improve the predictive accuracy of the Palliative Prognostic Index	Palliative medicine 017 Mar;31(3):258-266. doi: 10.1177/0269216316650788. Epub 2016 Jul 19	Original Article
417	小曾根 早知子	総合診療グループ	Comparison of blood pressure measurements on the bare arm, over a sleeve and over a rolled-up sleeve in the elderly	FAMILY PRACTICE 2016 Oct;33(5):517-22. doi: 10.1093/fampra/cmw053. Epub 2016 Jul 8.	Original Article
418	柳 久子	遺伝診療グループ	The effect of respiratory rehabilitation for the frail elderly: a pilot study	Journal of General and Family Medicine_17,4,p.289-298,2016-12	Original Article
419	関根 郁夫	腫瘍内科診療グループ	Are there any differences in genomic characterization of non-small cell lung cancer between African Americans and Whites?	JOURNAL OF THORACIC DISEASE. 2016 Nov;8(11):E1517-E1519. doi: 10.21037/jtd.2016.11.65.	Original Article
420	関根 郁夫	腫瘍内科診療グループ	Case reports of adverse drug reactions associated with nivolumab administration	Japanese journal of clinical oncology 2017 Mar 1;47(3):193. doi: 10.1093/jjco/hyx014.	Original Article
421	山内 一由	臨床病理診断診療グループ	Redox status of serum apolipoprotein E and its impact on HDL cholesterol levels	Clinical biochemistry 2017 Sep;50(13-14):777-783. doi: 10.1016/j.clinbiochem.2017.03.021. Epub 2017	Original Article
422	Ogata T	細菌学的診断診療グループ	Thoracic empyema caused by Campylobacter rectus.	J Infect Chemother 23(3): 185-188, 2017 2017 Mar;23(3):185-188. doi: 10.1016/j.jiac.2016.08.013. Epub 2016 Sep 25.	Original Article
423	小泉 仁美	看護部	Low gestational weight gain, desire to be slender and quality of life in pregnant Japanese women	International Journal of Nursing and Midwifery _8,8,p.61-66,2016-08	Original Article
424	満水 理恵	リハビリテーション部	Difficulties in daily life and associated factors, and QoL of children with inherited metabolic disease and their parents in Japan: a literature review	Journal of Inherited Metabolic Disease Report 2017;33:1-10. doi: 10.1007/8904_2016_573. Epub 2016 Jun 26	Original Article
425	満水 理恵	リハビリテーション部	Family empowerment and quality of life of parents raising children with Developmental Disabilities in 78 Japanese families	International Journal of Nursing Sciences_4,1,p.38-45,2017-03	Original Article
426	満水 理恵	リハビリテーション部	Roles and Hopes of Family Members Living with SMID Children in Japan	Health_8,p.787-799,2016-06	Original Article
427	磯部 和正	検査部	Free testosterone and growth hormone levels and association with depression in apparently healthy men and women	体力・栄養・免疫学雑誌_26,2,p.90-93,2017-02	Original Article
428	Doki K	薬剤部	$\beta$ 1-Adrenergic receptor Arg389Gly polymorphism affects the antiarrhythmic efficacy of flecainide in patients with coadministration of $\beta$ -blockers	Pharmacogenet Genomics 2016 Dec 20;6:38684. doi: 10.1038/srep38684.	Original Article
429	土岐 浩介	薬剤部	Virtual bioequivalence for Japanese elderly population: The use of PBPK and IVIVE modelling to assess the formulation-dependent effect of high achlorhydria	PKUK Conference Programme and Abstract Book...p.-,2016-11	Original Article
430	土岐 浩介	薬剤部	Effects of kidney function on anticoagulant effect of dabigatran in patients with co-administration of P-glycoprotein inhibitors	第10回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム 要旨集...p.-,2016-11	Original Article

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名	雑誌名	論文種別
1	田尻 和子	循環器(内)診療グループ	がん患者のマネジメントでの循環器内科医の役割	腫瘍内科 19巻1号 Page131-140(2017.01)	腫瘍内科	Original Article
2	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	Rigid Left Ventricle With Attenuated Torsion as the Integrally Deteriorated Form of Dilated Cardiomyopathy	Circulation Journal 81巻4号 Page440-441(2017.03)	Circulation Journal	Original Article
3	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	An Ideal Time to Solve a Clinical Dilemma in the Golden Age of Aortic Stenosis Therapy	Circulation Journal 80巻8号 Page1712-1714(2016.07)	Circulation Journal	Original Article
4	酒井 俊	循環器(内)診療グループ	歯科医院のための内科学講座 全身管理・全身疾患を見据えた補綴治療のススメ(第10回)「心筋梗塞?狭心症??の後ですか……」これでハッキリ??歯科医師国家試験「心電図問題」完全対応!	補綴臨床 49巻5号 Page544-565(2016.09)	補綴臨床	Original Article
5	酒井 俊	循環器(内)診療グループ	歯科医院のための内科学講座 全身管理・全身疾患を見据えた補綴治療のススメ(第9回)「女房と量は新しければ……?それでもいいのか?」	補綴臨床 49巻4号 Page396-413(2016.07)	補綴臨床	Original Article
6	渡邊 重行	循環器(内)診療グループ	左前下行枝への経皮的冠動脈形成術中に左右の冠動脈同時に冠攣縮を生じショックに陥った症例	茨城循環器研究会雑誌 23巻 Page1-6(2016.10)	茨城循環器研究会雑誌	Original Article
7	久賀 圭祐	循環器(内)診療グループ	特集<保健管理業務のIT化>大学保健管理におけるIT化について	CAMPUS HEALTH 53巻2号,p3-8	CAMPUS HEALTH	Original Article
8	村越 伸行	循環器(内)診療グループ	本邦における不整脈コホート研究 住民健診における上室期外収縮の診断的意義:茨城県健康研究	心電図/36(3)/pp.236-244, 2016-10	心電図	Original Article
9	青沼 和隆	循環器(内)診療グループ	第63回日本不整脈心電学会学術大会を終えて	心電図36(3)/pp.232-234, 2016	心電図	Original Article
10	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	心不全におけるドブラ法を用いた腎血行動態解析の臨床的有用性	日本循環器学会循環器専門医誌 24/pp.75-80, 2016-09	日本循環器学会循環器専門医誌	Original Article
11	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	左室同期不全の治療	Heart View 20巻6号 Page561-567(2016.06)	Heart View	Original Article
12	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	忘れられない症例と心エコーの真髄 拡張型心筋症	心エコー /17/pp.1074-1077, 2016-10	心エコー	Original Article
13	石津 智子	循環器(内)診療グループ	ORTの適応となる患者はどのような患者か	Heart View21(2) 152-157 2017	Heart View	Original Article
14	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	さまざまな左室拡張機能指標の臨床的意義と限界	心エコー 18/pp.22-33, 2017-01	心エコー	Original Article
15	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	左室駆出率に影響する因子	心エコー 17巻10号 Page859-866(2016.10)	心エコー	Original Article
16	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	腎ドブラ法を用いたうつ血性心不全における腎実質内血行動態評価	Fluid Management Renaissance 6巻1号 Page42-47(2016.02)	Fluid Management Renaissance	Original Article
17	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	心房細動合併心不全において洞調律化は治療のオプションとなるか	Heart View 20巻7号 Page674-676(2016.07)	Heart View	Original Article
18	瀬尾 由広	循環器(内)診療グループ	新たなチャレンジ LV からRVまでvolumeで診る	INNERVISION/31/pp.100-102, 2016-09	INNERVISION	Original Article
19	石津 智子	循環器(内)診療グループ	久馬論文に対するEditorial Comment	心臓 48巻2号 Page158(2016.02)	心臓	Original Article
20	中務 智文	循環器(内)診療グループ	複数回の検査で腎血管性高血圧症と診断した2症例	心臓 48巻10号 Page1176-1184(2016.10)	心臓	Original Article
21	安達 亨	循環器(内)診療グループ	両側の心室中隔に起源を有した、陳旧性心筋梗塞に合併した心室期外収縮の1例	心臓 48巻Suppl.2 Page142-147(2016.12)	心臓	Original Article
22	五十嵐 都	循環器(内)診療グループ	心室頻拍・心室細動 器質的心疾患に伴う心室頻拍に対するカテーテルアブレーションとアミオダロンハイブリッド療法	Progress in Medicine 36巻Suppl.1 Page454-456(2016.04)	Progress in Medicine	Original Article
23	井川 昌幸	循環器(内)診療グループ	Paclitaxel溶出ステント留置6年後にbevacizumabを含む癌化学療法を施行され、超遅発性ステント血栓症をきたした1例	心臓 48巻5号 Page555-560(2016.05)	心臓	Original Article
24	中務 智文	循環器(内)診療グループ	複数回の検査で腎血管性高血圧症と診断した2症例	心臓 48巻10号 Page1176-1184(2016.10)	心臓	Original Article
25	大坂 基男	循環器(外)診療グループ	両大血管右室起始症に対する大血管スイッチ手術後8年目に行った大動脈弁置換術および両心室流出路狭窄解除術の1例	胸部外科 69巻9号 Page787-791(2016.08)	胸部外科	Original Article
26	重田 治	循環器(外)診療グループ	感染性心内膜炎に起因した左室右房交通症の1例	胸部外科 69巻9号 Page792-795(2016.08)	胸部外科	Original Article
27	谷中 昭典	消化器(内)診療グループ	強力な酸分泌抑制は胃内アルカリ化を介してHelicobacter pyloriによる胃粘膜傷害を悪化させる	潰瘍 = Ulcer research 43巻 Page6-12(2016.05)	潰瘍 = Ulcer research	Original Article
28	正田 純一	消化器(内)診療グループ	肥満の治療 2.運動療法の重要性	肥満と消化器疾患 瘦せれば治るこんな病気巻p10-12	肥満と消化器疾患 瘦せれば治るこんな病気	Original Article
29	安部井 誠人	消化器(内)診療グループ	血液診療グループ透析療法中慢性腎不全合併C型肝炎ウイルス感染症に対するOmbitasvir/Paritaprevir/Ritonavir療法の効果	肝臓 57巻10号 Page565-567(2016.10)	肝臓	Original Article
30	鈴木 英雄	消化器(内)診療グループ	当院におけるダビガトラン起因性食道粘膜障害の検討	潰瘍 = Ulcer research 43巻 Page108-111(2016.05)	潰瘍 = Ulcer research	Original Article
31	溝上 裕士	消化器(内)診療グループ	消化管出血に対する診療 - JGESガイドラインをふまえて -	臨床消化器内科32巻3号 (2017年2月)	臨床消化器内科	Original Article
32	溝上 裕士	消化器(内)診療グループ	NSAIDs・LDAIによる消化管粘膜傷害—NSAIDs(LDAを含む)起因性上部消化管粘膜傷害の診断と予防	胃と腸 51巻4号 Page432-441(2016.04)	胃と腸	Original Article

33	鹿志村 純也	消化器(内)診療グループ	長期胆管ドレーナージにより総胆管結石を来した閉塞性黄疸の1例	Progress of Digestive Endoscopy, 89巻 1号 Page160-161(2016.12)	Progress of Digestive Endoscopy, 89巻	Original Article
34	鹿志村 純也	消化器(内)診療グループ	上腸間膜動脈症候群を疑う画像所見を呈した空腸癌の1例	Progress of Digestive Endoscopy, 89巻 1号 Page118-119(2016.12)	Progress of Digestive Endoscopy, 89巻	Original Article
35	鈴木 英雄	消化器(内)診療グループ	Genotyping NUDT15 can predict the dose reduction of 6-MP for children with acute lymphoblastic leukemia especially at a preschool	Journal of Human Genetics 61巻9号 Page797-801(2016.09)	Journal of Human Genetics	Original Article
36	大城 幸雄	消化器(外)診療グループ	フルハイビジョン裸眼立体ディスプレイを利用した手術シミュレーション	第21回日本バーチャルリアリティー学会大会論文集 p.141	第21回日本バーチャルリアリティー学会大会論文集	Original Article
37	小田 竜也	消化器(外)診療グループ	Four cases of surgical resection of the isolated lung metastasis from pancreatic cancer	Pancreatology 31巻3号 Page529(2016.07)	Pancreatology	Original Article
38	大城 幸雄	消化器(外)診療グループ	A Case of a Resected Ileosigmoid Knot in an Older Schizophrenic Patient	THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL (1343-2826)66巻4号 Page289-292(2016.11)	THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL	Original Article
39	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	免疫抑制薬の後発医薬品使用の実態:アンケート調査報告	第43回日本臓器保存生物医学学会学術集会	第43回日本臓器保存生物医学学会学術集会	Original Article
40	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	コンピュータ手術支援の取り組み～肝胆膵外科から消化管外科まで	第41回日本肝臓学会東部会講演要旨 p.A744, 2016-12	第41回日本肝臓学会東部会講演要旨	Original Article
41	大城 幸雄	消化器(外)診療グループ	Treatment with ribavirin for chronic hepatitis E following living donor liver transplantation:A case report	Hepatology Research 46巻10号,p.1058-1059	Hepatology Research	Original Article
42	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	Trophoblastic differentiation を伴う十二指腸乳頭部腺扁平上皮癌の1例	日臨外会誌 77巻6号 Page1440-1445(2016.06)	日臨外会誌	Original Article
43	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	高密度レクチンマイクロアレイを用いた癌腫幹細胞の糖鎖発現解析、未分化IPS細胞との偶然一致	第75回日本癌学会学術総会プログラム 75回 Page P-3181(2016.10)	第75回日本癌学会学術総会プログラム	Original Article
44	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	ポスト抗体医薬品としてのがん糖鎖標的レクチンキシン:癌腫の播種性転移治療を実用化する新規治療戦略	第75回日本癌学会学術総会プログラムp.154, 2016-10	第75回日本癌学会学術総会プログラム	Original Article
45	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	肝臓X受容体作動薬に着目した新規NASHモデル動物の開発	日本消化器病学会雑誌 第102回日本消化器病学会総会抄録集 113巻臨増総会 Page A292(2016.03)	日本消化器病学会雑誌 第102回日本消化器病学会総会抄録集	Original Article
46	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	コンピュータ手術支援による肝胆膵外科手術の推進と未来	肝臓 第52回肝臓学会総会講演要旨 p.106(2016.05)	肝臓 第52回肝臓学会総会講演要旨	Original Article
47	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	生体腎移植後に外腸骨静脈血栓症を発症し血栓除去を施行した1例	第32回腎移植・血管外科研究会プログラム・抄録集/p.105, 2016-05	第32回腎移植・血管外科研究会プログラム・抄録集	Original Article
48	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	経口TPO受容体作動薬エルロンボバグの肝細胞癌細胞に対する抗腫瘍効果とソラフェニブ併用効果	第52回日本肝臓学会プログラム・抄録集2016-07-01--2016-07-02	第52回日本肝臓学会プログラム・抄録集	Original Article
49	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	肝細胞間クレストークにおける肝腫瘍内皮細胞の存在意義	第23回肝細胞研究会プログラム・抄録集2016-07-07--2016-07-08	第23回肝細胞研究会プログラム・抄録集	Original Article
50	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	肝臓3Dプリントフレームモデルでシミュレーションする肝切除	第11回肝臓治療シミュレーション研究会抄録集/p.31, 2016-09	第11回肝臓治療シミュレーション研究会抄録集	Original Article
51	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	わが国の心・腎移植患者におけるE型肝炎ウイルス感染の全国実態調査 ～全国スクリーニング中間報告～	移植51/p.277, 2016-09	移植	Original Article
52	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	茨城県における臓器移植に関する意識調査 ～ソーシャルマーケティングを活用した啓発活動を目指して～	移植/51/p.404, 2016-09	移植	Original Article
53	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	大腸形質穿孔に対する開腹洗浄ドレーナージ術後の創部感染に続発した恥骨骨髓炎の1例	日本大腸肛門病学会雑誌/69/p.A296, 2016-10	日本大腸肛門病学会雑誌	Original Article
54	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	当科における横行結腸癌に対する腹腔鏡手術の治療成績	日本大腸肛門病学会雑誌 69巻抄録集 Page A254(2016.10)	日本大腸肛門病学会雑誌	Original Article
55	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	Pagetoid spread を伴う肛門管癌に対して腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術を施行した1例	日本大腸肛門病学会雑誌/69/p.A268, 2016-11	日本大腸肛門病学会雑誌	Original Article
56	松村 英樹	消化器(外)診療グループ	常染色体優性多発性嚢胞腎に伴う巨大肝嚢胞を合併する盲腸癌に対して腹腔鏡下回盲部切除を施行した1例	日本内視鏡外科学会雑誌 21巻7号 Page DP29-12(2016.12)	日本内視鏡外科学会雑誌	Original Article
57	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	食道癌に対する根治術後のリンパ漏:自験例に基づく検討と対策	静脈学/2016-06-23--2016-06-24	静脈学	Original Article
58	大城 幸雄	消化器(外)診療グループ	肝切除術支援ツール「3D肝臓プリントフレームモデル」の開発と手術での運用	月刊新医療 43巻8号 Page136-139(2016.08)	月刊新医療	Original Article
59	大城 幸雄	消化器(外)診療グループ	肝切除における3D手術シミュレーションの実験	消化器外科 39巻1号 Page67-74(2016.01)	消化器外科	Original Article
60	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	いのちの学習会による小・中・高校生および保護者への移植医療の普及啓発活動	移植 51巻総会臨時 Page403(2016.09)	移植	Original Article
61	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	高齢者胃癌ではR0手術が肝要である	第46回胃外科・術後障害研究会プログラム・抄録集/p.41, 2016-10	第46回胃外科・術後障害研究会プログラム・抄録集	Original Article
62	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	Blumgart型膵吻合の長所を活かしたQuarter-by-four膵管空調吻合	日本臨床外科学会雑誌第78回総会日程・抄録/77/p.605, 2016-11	日本臨床外科学会雑誌第78回総会日程・抄録	Original Article
63	大城 幸雄	消化器(外)診療グループ	肝臓-肝腫瘍のプロセスをシミュレートするコンピュータ手術支援	日本外科学会雑誌118(1)/pp.46-50, 2017-01	日本外科学会雑誌	Original Article
64	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	Pagetoid spread を伴う肛門管癌に対して腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術を施行した1例	日本大腸肛門病学会雑誌/69/p.A268, 2016-11	日本外科学会連合学会誌	Original Article

65	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	術前診断が困難であった成人結腸重複症に対して腹腔鏡補助下に摘出した1例	日本外科系連合会雑誌 41巻4号 Page652-657(2016.08)	日本外科系連合会雑誌	Original Article
66	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	術前S-1単独療法で組織学的Complete Responseが得られた後期高齢者進行胃癌の1例	癌と化学療法 43巻1号 Page115-119(2016.01)	癌と化学療法	Original Article
67	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	初回治療17年後に発症した頭蓋内血管周皮細胞腫の蘇転移の1節除例	臨床外科pp. 775-780 2015/6/20	臨床外科	Original Article
68	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	腹腔鏡下肝切除術の手術室セッティング～筑波大学附属病院における機器の配置・機械士の現状と問題点～	手術医学 37(4), 287-292, 2016-11	手術医学	Original Article
69	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	わが国の腎移植患者におけるE型肝炎ウイルス感染の全国実態調査～全国スクリーニング中間報告～	第32回腎移植・血管外科研究会プログラム・抄録集O—230	第32回腎移植・血管外科研究会プログラム・抄録集	Original Article
70	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	生体蛍光顕微鏡を用いた肝微小循環観察システムによる虚血再灌流障害における類洞内Kupffer細胞の動脈研究	第23回肝細胞研究会プログラム・抄録集/p.33, 2016-07	第23回肝細胞研究会プログラム・抄録集	Original Article
71	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	腹腔鏡下肝切除におけるコンピュータ手術支援	日本臨床外科学会雑誌第78回総会日程・抄録 77巻増刊 Page408(2016.10)	日本臨床外科学会雑誌第78回総会日程・抄録	Original Article
72	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	可変3D-CT画像と鏡視下アノテーションを用いた腹腔鏡下胃切除ナビゲーション	日本臨床外科学会雑誌第78回総会日程・抄録 77巻増刊 Page407(2016.10)	日本臨床外科学会雑誌第78回総会日程・抄録	Original Article
73	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	フアーター乳頭部癌に対する膵頭十二指腸切除術後、胆管・空腸吻合部狭窄を繰り返している1例	日本臨床外科学会雑誌第78回総会日程・抄録 77巻増刊 Page1020(2016.10)	日本臨床外科学会雑誌第78回総会日程・抄録	Original Article
74	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	生体肝移植後早期におけるグラフト再生疎外因子についての検討	第43回日本臓器保存生物医学学会学術集会p.98, 2016-11	第43回日本臓器保存生物医学学会学術集会	Original Article
75	大河内 信弘	消化器(外)診療グループ	ヒトNASHに類似した病理組織像を呈する新規モデル動物の開発とその問題点～MCD食給餌モデルとの比較～	第41回日本肝臓学会東部会講演要旨/p.A638, 2016-12	第41回日本肝臓学会東部会講演要旨	Original Article
76	大城 幸雄	消化器(外)診療グループ	肝切除支援ツール3D肝臓アノテーションモジュールの開発と手術での活用	月刊新医療(500)/pp.136-139, 2016-08	月刊新医療	Original Article
77	小田 竜也	消化器(外)診療グループ	Blumgart型膵一腸吻合は膵液漏を根絶できるか?	日本外科学会雑誌/118(2)/pp.197-197, 2017-02	日本外科学会雑誌	Original Article
78	小田 竜也	消化器(外)診療グループ	膵空腸吻合～Blumgart変法	手術/70(7)/pp.963-971, 2016-07	手術	Original Article
79	大城 幸雄	消化器(外)診療グループ	膵臓の3D画像構築と手術	手術 70巻2号 Page177-182(2016.02)	手術	Original Article
80	大城 幸雄	消化器(外)診療グループ	VR・AR・シミュレーション	日本コンピュータ外科学会誌 18巻3号 Page145-147(2016.10)	日本コンピュータ外科学会誌	Original Article
81	大原 佑介	消化器(外)診療グループ	術前診断が困難であった成人結腸重複症に対して腹腔鏡補助下に摘出した1例	日本外科系連合会雑誌 41巻4号 Page652-657(2016.08)	日本外科連合学会誌	Original Article
82	大原 佑介	消化器(外)診療グループ	Pagetoid spreadを伴う肛門管癌に対して腹腔鏡下腹会陰直腸切断術を施行した1例	日本外科連合学会誌 41巻5号 Page803-807(2016.10)	日本外科連合学会誌	Original Article
83	岡本 紀子	呼吸器(内)診療グループ	肺炎に罹患した地域在住高齢者の概日リズムに着目したセルフケアの課題	高齢者ケアリング学研究会誌 7巻1号 Page23-28(2016.10)	高齢者ケアリング学研究会誌	Original Article
84	佐藤 浩昭	呼吸器(内)診療グループ	肺がん検診時の胸部X線写真で検出された気腫化所見	日本胸部臨床 75巻12号 Page1413-1419(2016.12)	日本胸部臨床	Original Article
85	檜澤 伸之	呼吸器(内)診療グループ	Asthma-COPD Overlap Syndrome	アレルギー 30巻6号 Page525-528(2016.12)	アレルギー	Original Article
86	山田 英恵	呼吸器(内)診療グループ	喘息患者におけるサルメテロールとモンテルカストの有用性の差に影響するロイコトリエン関連遺伝子因子の検討	アレルギー 2016年11月22日. p. 1201-1208	アレルギー	Original Article
87	小林 尚寛	呼吸器(外)診療グループ	Bird-Hogg-Dube 症候群に伴う気胸に対して再発予防のために Total Pleural Coveringを施した1例	日本呼吸器外科学会雑誌 30巻(2016)6号 p. 726-730	日本呼吸器外科学会雑誌	Original Article
88	市村 秀夫	呼吸器(外)診療グループ	Duration and degree of weight change and risk of incident diabetes: Japan Epidemiology Collaboration on Occupational Health Study.	Prev Med. 2017 Mar;96:118-123	Prev Med.	Original Article
89	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	半月体形成性腎炎、RPGNの診断と治療	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集] 58巻3号 Page217(2016.05)	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集]	Original Article
90	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	薬剤性腎障害GLオーバービュー	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集]2016-06-17—2016-06-19	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集]	Original Article
91	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	CKD患者に対する生活食事指導マニュアルの有用性について	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集] 58巻3号 Page301(2016.05)	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集]	Original Article
92	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	抗GBM抗体疾患の病態と治療	リウマチ科 55巻3号 Page330-333(2016.03)	リウマチ科	Original Article
93	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	急速進行性糸球体腎炎Update わが国のRPGN診療の現状と課題	医学のあゆみ257(2)129-135 2016	医学のあゆみ	Original Article
94	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	診断に苦慮した間質性腎炎主体のANCA関連腎炎の一例	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集] 58巻6号 Page798(2016.08)	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集]	Original Article
95	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	慢性腎臓病(CKD)進行例の実態把握と透析導入回避のための有効な指針の作成に関する研究	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集] 58巻3号 Page251(2016.05).59巻3号 Page224(2017.04)	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集]	Original Article
96	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	溶連菌感染後急性糸球体腎炎	腎と透析 81(4)/pp.513-518, 2016-10	腎と透析	Original Article

97	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	本邦の成人腎代替療法の概要	日本透析医学会雑誌 = Journal of Japanese Society for Dialysis Therapy 49巻Suppl.1 Page364(2016.05)	日本透析医学会雑誌 = Journal of Japanese Society for Dialysis Therapy	Original Article
98	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	指定難病最前線:急速進行性糸球体腎炎(RPGN)の診断と治療	新薬と臨床 65巻12号 Page1644-1650(2016.12)	新薬と臨床	Original Article
99	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	薬剤性腎障害の疫学・予防・治療	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集] 58巻7号 Page1055-1058(2016.10)	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集]	Original Article
100	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	老化に伴う腎機能低下のメカニズム	腎臓内科・泌尿器科 3巻4号 Page308-314(2016.04)	腎臓内科・泌尿器科	Original Article
101	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	臨床各科差分解説 内科:腎臓 腎臓病健診の医療経済分析	日本医事新報(4797). 2016-04	日本医事新報	Original Article
102	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	我が国の慢性腎臓病(CKD)の現状	微研ジャーナル友39(2)/pp.3-9. 2016-05	微研ジャーナル友	Original Article
103	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	知って防ごう慢性腎臓病(CKD) 3. CKDの予防と治療について	地方公務員安全と健康フォーラム26(2)/pp.22-25. 2016-04	地方公務員安全と健康フォーラム	Original Article
104	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	CKDステージG3b以降の糖尿病性腎症ならびに糖尿病合併CKDの管理について	Medical View Point37(6)/pp.6-7. 2016-06	Medical View Point	Original Article
105	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	生活習慣病からの新規透析導入患者の減少に向けた提言 CKD(慢性腎臓病)の発症予防・早期発見・重症化予防	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集] 58巻4号 Page429-475(2016.05)	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集]	Original Article
106	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	診断に苦慮した間質障害主体のANCA関連腎炎の一例	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集] 58巻6号 Page798(2016.08)	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集]	Original Article
107	山縣 邦弘	腎泌尿器(内)診療グループ	薬剤性腎障害診療ガイドライン2016	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集] 58巻4号 Page477-555(2016.05)	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集]	Original Article
108	臼井 文一	腎泌尿器(内)診療グループ	急速進行性糸球体腎炎:最近の話題	日本腎臓学会誌58(5)/pp.129-135. 2016-07	日本腎臓学会誌	Original Article
109	臼井 文一	腎泌尿器(内)診療グループ	急速進行性糸球体腎炎:最近の話題	日本腎臓学会誌58(5)/pp.129-135. 2016-07	日本腎臓学会誌	Original Article
110	金子 修三	腎泌尿器(内)診療グループ	CKDの診断と病因	臨床と研究 (0021-4965)93巻7号 Page927-933(2016.07)	CKDの診断と病因	Original Article
111	臼井 文一	腎泌尿器(内)診療グループ	ANCA関連腎炎とアフェレンス(LCAP GCAP)	日本アフェレンス学会雑誌 58巻3号 Page243(2016.05)	日本アフェレンス学会雑誌	Original Article
112	齋藤 知栄	腎泌尿器(内)診療グループ	つくば市におけるICT健康サポート事業	臨床栄養 128巻5号 Page585-589(2016.05)	臨床栄養	Original Article
113	植田 敦志	腎泌尿器(内)診療グループ	よくわかるPD-HDハイブリッド療法	日本透析医学会雑誌 = Journal of Japanese Society for Dialysis Therapy 49巻Suppl.1 Page323(2016.05)	日本透析医学会雑誌 = Journal of Japanese Society for Dialysis Therapy	Original Article
114	齋藤 知栄	腎泌尿器(内)診療グループ	CKDステージが進行した患者と高齢者のCKD対策と今後の課題	内科 118巻1号 Page19-24(2016.07)	内科	Original Article
115	齋藤 知栄	腎泌尿器(内)診療グループ	我が国における慢性腎臓病患者の現状と対策 -PRCによる研究から-	ニュートリションケア9(12)/pp.10-15. 2016-12	ニュートリションケア	Original Article
116	齋藤 知栄	腎泌尿器(内)診療グループ	PDカテーテル抜去時期の検討	日本透析医学会雑誌 49巻Suppl.1 Page466(2016.05)	日本透析医学会雑誌	Original Article
117	臼井 文一	腎泌尿器(内)診療グループ	The detection of urinary podocytes from drug-induced glomerular thrombotic microangiopathy in advanced cancer patients	Clin Lab62巻12号,p2413-2417	Clin Lab	Original Article
118	森戸 直記	腎泌尿器(内)診療グループ	転写因子Mafbによる副甲状腺ホルモン制御	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集] 58巻3号 Page293(2016.05)	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集]	Original Article
119	齋藤 知栄	腎泌尿器(内)診療グループ	腎臓専門医と透析専門医の連携	臨床透析33巻1号 pp.23-29 (2017年1月)	臨床透析	Original Article
120	金子 修三	腎泌尿器(内)診療グループ	わが国のRPGN診療の現状と課題	医学のあゆみ 257巻2号 Page129-135(2016.04)	医学のあゆみ	Original Article
121	臼井 文一	腎泌尿器(内)診療グループ	腎臓発生研究成果を臨床医療に応用するための基礎研究 -臓器再生モデルと腎疾患モデル	Bio Clinica 31(11)/pp.62-65. 2016-10	Bio Clinica	Original Article
122	今井 恵理	腎泌尿器(内)診療グループ	抗GBM抗体疾患の病態と治療	リウマチ科 55巻3号 Page330-333(2016.03)	リウマチ科	Original Article
123	植田 敦志	腎泌尿器(内)診療グループ	腎代替療法開始早期からのPD+HD併用療法	腎と透析81巻別冊 腹膜透析2016 Page22-23(2016.09)	腎と透析81巻別冊 腹膜透析2016	Original Article
124	植田 敦志	腎泌尿器(内)診療グループ	腹膜透析看護の指導の指導看護師育成に向けた教育体制整備	腎と透析81巻別冊 腹膜透析2016/81/pp.293-294. 2016	腎と透析81巻別冊 腹膜透析2016	Original Article
125	植田 敦志	腎泌尿器(内)診療グループ	PD継続の自信を喪失した患者と家族への支援	腎と透析81巻別冊 腹膜透析2016 Page293-294(2016.09)	腎と透析81巻別冊 腹膜透析2016	Original Article
126	金子 修三	腎泌尿器(内)診療グループ	CKDの診断と病因	臨床と研究 (0021-4965)93巻7号 Page927-933(2016.07)	臨床と研究	Original Article
127	河村 哲也	腎泌尿器(内)診療グループ	ANCA関連腎炎に合併する貧血への治療介入に関する検討	日本透析医学会雑誌 49巻Suppl.1 Page686(2016.05)	日本透析医学会雑誌	Original Article
128	金子 修三	腎泌尿器(内)診療グループ	薬剤性腎障害の疫学・予防・治療	The Japanese journal of nephrology = / 日本腎臓学会 [編集] 58巻7号 Page1055-1058(2016.10)	日本腎臓学会誌	Original Article
129	加瀬田 幸司	腎泌尿器(内)診療グループ	当院で施行したカフ型カテーテルを用いた維持透析患者の予後調査	日本透析医学会雑誌 = Journal of Japanese Society for Dialysis Therapy 49巻Suppl.1 Page546(2016.05)	日本透析医学会雑誌 = Journal of Japanese Society for Dialysis Therapy	Original Article
130	金子 修三	腎泌尿器(内)診療グループ	我が国のRPGN診療の現状と課題	医学のあゆみ 257(2)/pp.129-135. 2016-04	医学のあゆみ	Original Article
131	島居 徹	腎泌尿器(外)診療グループ	ロボット支援前立腺全摘術はどこまで普及するか?	癌と化学療法 44巻1号 Page33-36(2017.01)	癌と化学療法	Original Article
132	星 昭夫	腎泌尿器(外)診療グループ	腎摘か部分切除か? -判断のポイント(腎手術) 腹腔鏡下腎部分切除術の適応基準とその限界	臨床泌尿器科 70巻11号 Page832-839(2016.10)	臨床泌尿器科	Original Article
133	星 昭夫	腎泌尿器(外)診療グループ	単孔式腹腔鏡下尿管摘除術	泌尿器外科 29巻11号 Page1641-1645(2016.11)	泌尿器外科	Original Article
134	河原 貴史	腎泌尿器(外)診療グループ	The clinical presentation and favorable prognosis of patients with isolated metachronous brain metastasis from germ cell tumors	JJCO46巻11号,p1047-1052	JJCO	Original Article

135	石塚 竜太郎	腎泌尿器(外)診療グループ	Impact of acute kidney injury defined by CTCAE v4.0 during first course of cisplatin-based chemotherapy on treatment outcomes in advanced urothelial cancer patients	Clin Exp Nephrol 21巻4号 Page732-740(2017.08)	Clin Exp Nephrol	Original Article
136	田中 建	腎泌尿器(外)診療グループ	[A Case of Inflammatory Myofibroblastic Tumor of Urinary Bladder]	Hinyokika kiyo. Acta urologica Japonica62巻4号,p201-204	Hinyokika kiyo. Acta urologica Japonica	Original Article
137	岩崎 仁	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	OREB3L3 controls fatty acid oxidation and ketogenesis in synergy with PPAR $\alpha$	Sci Rep. 16巻6号,p39182-	Sci Rep.	Original Article
138	島野 仁	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	糖尿病性腎臓病の病態と治療	臨床泌尿器科 巻:70 号:4 ページ:294-297	臨床泌尿器科	Original Article
139	島野 仁	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	Association of eating three meals irregularly with changes in BMI and weight among young Japanese men and women: A 2-year follow-up.	Physiol Behav. 163巻号,p81-87	Physiol Behav.	Original Article
140	柴山 大賀	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	糖尿病腎症患者への療養指導状況と糖尿病透析予防指導管理料の算定がそれに及ぼす影響 糖尿病看護認定看護師・慢性疾患看護専門看護師の横断的調査から	日本糖尿病教育・看護学会誌 20巻2号 Page167-174(2016.09)	日本糖尿病教育・看護学会誌	Original Article
141	柴山 大賀	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	診療報酬「糖尿病透析予防指導管理料」の算定に関する実態と課題—糖尿病看護認定看護師・慢性疾患看護専門看護師への横断的実態調査から— 第2報	日本糖尿病教育・看護学会誌 /21(1)/pp.56-62, 2017-03	日本糖尿病教育・看護学会誌	Original Article
142	野牛 宏晃	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	Fulminant Type 1 Diabetes Mellitus Presenting 11 Days after Delivery in a Patient of Mixed Genetic Background	Internal Medicine 55巻14号 Page1881-1885(2016.07)	Internal Medicine	Original Article
143	島野 仁	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	特集にあたって(PPAR $\alpha$ revisit)	The LipidVol27 No4 2016.10	The Lipid	Original Article
144	島野 仁	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	飽和脂肪酸・コレステロール摂取制限の科学的根拠	動脈硬化予防 16巻1号 Page21-27(2017.03)	動脈硬化予防	Original Article
145	柴山 大賀	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	【看護研究のイロハを学ぼう】看護研究の進め方	循環器ナーシング 6巻12号 Page48-54(2016.12)	循環器ナーシング	Original Article
146	菅野 洋子	内分泌代謝・糖尿病(内)診療グループ	飽和脂肪酸・コレステロール摂取制限の科学的根拠	動脈硬化予防 16巻1号 Page21-27(2017.03)	動脈硬化予防	Original Article
147	都島 由希子	乳腺・甲状腺・内分泌(外)診療グループ	当院における甲状腺細胞診結果の評価と取り組み	日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 33巻Suppl.2 PageS277(2016.09)	日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌	Original Article
148	原 尚人	乳腺・甲状腺・内分泌(外)診療グループ	茨城県における小児甲状腺超音波検診	乳腺甲状腺超音波医学 第36回日本乳腺甲状腺超音波医学学会学術集会プログラム・予稿集 5巻2号 Page216(2016.04)	乳腺甲状腺超音波医学 第36回日本乳腺甲状腺超音波医学学会学術集会プログラム・予稿集	Original Article
149	原 尚人	乳腺・甲状腺・内分泌(外)診療グループ	他に代替治療のない放射線ヨウ素治療(RAI)不適応の分化型甲状腺癌患者を対象としたソラフェニブの有効性・安全性に関する臨床研究(RAI-skip study)	日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 Apr. 30, 2016 S59	日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌	Original Article
150	坂東 裕子	乳腺・甲状腺・内分泌(外)診療グループ	進行・再発乳癌診療におけるチームアプローチ	第24回日本乳癌学会学術総会 プログラム抄録集 24回 Page210(2016.06)	第24回日本乳癌学会学術総会 プログラム抄録集	Original Article
151	原 尚人	乳腺・甲状腺・内分泌(外)診療グループ	甲状腺内視鏡手術・今後の展望における問題点と課題	日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 33巻4号 Page205-209(2016.12)	日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌	Original Article
152	原 尚人	乳腺・甲状腺・内分泌(外)診療グループ	甲状腺内視鏡手術・今後の展望における問題点と課題	日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 33巻4号 Page205-209(2016.12)	日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌	Original Article
153	坂東 裕子	乳腺・甲状腺・内分泌(外)診療グループ	Oncotype DX <sup>®</sup> に関する最新知見: 前向き検証試験と各種ガイドライン上での位置づけ	腫瘍内科 18巻3号 Page196-201(2016.09)	腫瘍内科	Original Article
154	市岡 恵美香	乳腺・甲状腺・内分泌(外)診療グループ	当院乳癌患者における相談支援センター利用の現状	第24回日本乳癌学会学術総会 プログラム抄録集 Page283(2016.06)	第24回日本乳癌学会学術総会 プログラム抄録集	Original Article
155	池田 達彦	乳腺・甲状腺・内分泌(外)診療グループ	甲状腺MALTリンパ腫治療後DLBCLに転化し、甲状腺全摘を施行した1例	日本超音波医学会 第28回関東甲信越地方学術集会 抄録集 /2016-10-22-2016-10-23	日本超音波医学会 第28回関東甲信越地方学術集会 抄録集	Original Article
156	市岡 恵美香	乳腺・甲状腺・内分泌(外)診療グループ	当院におけるレンパチニブ8例の使用経験	第14回日本臨床腫瘍学会学術集会プログラム	第14回日本臨床腫瘍学会学術集会プログラム	Original Article
157	松本 功	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	関節リウマチにおける単球・マクロファージとTNF $\alpha$ -induced adipose related (TIARP)	Japanese Journal of Clinical Immunology 39巻5号 Page455-459(2016.10)	Japanese Journal of Clinical Immunology	Original Article
158	松本 功	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	臓器障害を有する症例における治療	診断と治療 104巻12号 Page1577-1580(2016.12)	診断と治療	Original Article
159	松本 功	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	関節リウマチの免疫病態—治療へのインパクト—	Medical Practice 33巻10号 Page1543-1546(2016.10)	Medical Practice	Original Article
160	坪井 洋人	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	アナログペプチド発現を用いたGPI誘導関節炎の抑制	Jpn.J.Clin.Immunol. 40巻1号 Page28-34(2017.02)	Jpn.J.Clin.Immunol.	Original Article
161	坪井 洋人	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	弛緩性四肢麻痺で発症したI型尿管管性アシドーシス合併	内科117(4)/pp.887-889, 2016-04	内科	Original Article
162	坪井 洋人	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	シェーグレン症候群	分子リウマチ治療 10巻3号 Page153-157(2017.07)	分子リウマチ治療	Original Article
163	近藤 裕也	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	関節リウマチとサイトカイン	日本臨牀 74巻6号 Page913-918(2016.06)	日本臨牀	Original Article
164	坪井 洋人	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	関節リウマチ合併二次性シェーグレン症候群に対するアバタセプトによる新規治療戦略	臨床リウマチ 28巻4号 Page284-298(2016.12)	臨床リウマチ	Original Article
165	松本 功	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	関節リウマチにおける単球・マクロファージとTNF $\alpha$ -induced adipose related protein (TIARP)	日本臨床免疫学会誌 39巻5号 Page455-459(2016.10)	日本臨床免疫学会誌	Original Article
166	坪井 洋人	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	シェーグレン症候群の筋・関節病変	リウマチ科 56巻5号 Page472-481(2016.11)	リウマチ科	Original Article

167	坪井 洋人	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	シェーグレン症候群 (Sjögren's Syndrome:SS):abataceptの可能性	Mebio 28 / 33(10)/pp.47-82, 2016-05	Mebio	Original Article
168	住田 孝之	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	シェーグレン症候群	分子リウマチ治療 10巻3号 Page153-157(2017.07)	医学のあゆみ 自己免疫疾患	Original Article
169	住田 孝之	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	シェーグレン症候群の病因:T細胞を中心に	リウマチ科 56巻5号 Page439-444(2016.11)	リウマチ科	Original Article
170	住田 孝之	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	シェーグレン症候群と病原性CD4+T細胞	医学のあゆみ 自己免疫疾患 259巻2号 Page187-191(2016.10)	医学のあゆみ 自己免疫疾患	Original Article
171	住田 孝之	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	関節リウマチ	健康日本 / 579/pp.16-17, 2016-06	健康日本	Original Article
172	住田 孝之	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	シェーグレン症候群	分子リウマチ治療 10巻3号 Page153-157(2017.07)	健康日本	Original Article
173	住田 孝之	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	口腔咽頭臨床 第3版(書評)	medicina53(3)/p.726, 2016-04	medicina	Original Article
174	住田 孝之	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	疾患活動性・重症度	全身性エリテマトーデス 最新医学別冊 診断と治療ABC/118/pp.116-129, 2016-12	全身性エリテマトーデス 最新医学別冊 診断と治療ABC	Original Article
175	住田 孝之	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	シェーグレン症候群	分子リウマチ治療 10巻3号 Page153-157(2017.07)	薬局増刊号 病氣とくすり2017	Original Article
176	林 太智	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	Left Ventricular Global Strain for Estimating Relaxation and Filling Pressure - A Multicenter Study -	Circulation Journal 80巻5号 Page1163-1170(2016.04)	Circulation Journal	Original Article
177	廣田 智哉	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	Altered Peptide Ligand発現を用いたGPIペプチド誘導関節炎の抑制効果の検討	日本臨床免疫学会誌 39巻4号 Page380(2016.08)	日本臨床免疫学会誌	Original Article
178	横澤 将宏	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ	T-bet過剰発現によるAHR抑制を介したTh17細胞分化制御	日本臨床免疫学会誌 39巻4号 Page427(2016.08)	日本臨床免疫学会誌	Original Article
179	二宮 治彦	血液内科診療グループ	PNHの臨床病態総論・最新の治療法とその問題点	血液フロンティア26巻6号 (2016年5月)	血液診療グループフロンティア	Original Article
180	千葉 滋	血液内科診療グループ	悪性リンパ腫の遺伝子変異	臨床血液 57巻12号 Page2554-2563(2016.12)	臨床血液診療グループ	Original Article
181	千葉 滋	血液内科診療グループ	骨髄系腫瘍とリンパ系腫瘍におけるTET2変異の意義	臨床血液 57巻6号 Page715-722(2016.06)	臨床血液診療グループ	Original Article
182	石井 映美	精神神経診療グループ	精神科通院学生の学業転帰について—より合理的な支援のために—	CUMPUS HEALTH 2017; 54(1): 358-359.	CUMPUS HEALTH	Original Article
183	松崎 朝樹	精神神経診療グループ	歯科医院のための内科学講座 全身管理・全身疾患を見据えた補綴治療のススメ(第13回)「うつ病で治療中なのですが、歯科治療は普通に受けていいですか?」	補綴臨床 50巻2号 Page208-225(2017.03)	補綴臨床	Original Article
184	根本 清貴	精神神経診療グループ	脳構造画像による統合失調症の判別	日本生物学的精神医学会誌 27巻4号 Page197-201(2016.12)	日本生物学的精神医学会誌	Original Article
185	佐藤 晋爾	精神神経診療グループ	東日本大震災後に茨城県北茨城市に避難した福島県民のうつ、心的外傷、アルコール依存について 震災2年後のアンケート調査の結果	臨床精神医学 45巻11号 Page1457-1464(2016.11)	臨床精神医学	Original Article
186	佐藤 晋爾	精神神経診療グループ	東日本大震災における現地非専門職スタッフのメンタル・ヘルスについて: post traumatic stress symptomsとの関連から	日本社会精神医学雑誌25(4)305-312 2016	日本社会精神医学雑誌	Original Article
187	東 晋二	精神神経診療グループ	原発性進行性失語症をとりま(現状と課題 家族会活動を通じて)	精神医学 58巻10号 Page847-854(2016.10)	精神医学	Original Article
188	東 晋二	精神神経診療グループ	シヌクレイノパチー、TDP-43プロテインパチー、およびポリグルタミン病(特集 認知症の生物学的研究: Update)	老年精神医学雑誌 28巻2号 Page123-128(2017.02)	老年精神医学雑誌	Original Article
189	新井 哲明	精神神経診療グループ	認知症の生物学的研究—Update シヌクレイノパチー、TDP-43プロテインパチー、およびポリグルタミン病	老年精神医学雑誌, 28巻2号 Page123-128(2017.02)	老年精神医学雑誌,	Original Article
190	新井 哲明	精神神経診療グループ	嗜癖に着目することで治療が進化した過食性障害とアルコール使用障害の合併例	精神医学 58巻5号 Page447-449(2016.05)	精神医学	Original Article
191	根本 清貴	精神神経診療グループ	嗜癖に着目することで治療が進化した過食性障害とアルコール使用障害の合併例	精神医学 58巻5号 Page447-449(2016.05)	精神医学	Original Article
192	根本 清貴	精神神経診療グループ	脳構造画像による統合失調症の判別	日本生物学的精神医学会誌 27巻4号 Page197-201(2016.12)	日本生物学的精神医学会誌	Original Article
193	佐藤 晋爾	精神神経診療グループ	東日本大震災後に茨城県北茨城市に避難した福島県民のうつ、心的外傷、アルコール依存について	臨床精神医学 45巻11号 Page1457-1464(2016.11)	臨床精神医学	Original Article
194	佐藤 晋爾	精神神経診療グループ	内因反応性気分変動概念とその批判— $\alpha$ 気分変動症候群とその内因性/反応性の二面性> (Weitbrecht) (部分訳)および<Weitbrechtの「内因反応性気分変動」批判> (Volkel) (全訳)—	臨床精神病理37(1)/pp.9-19, 2016-4	臨床精神病理	Original Article
195	佐藤 晋爾	精神神経診療グループ	発達障害成人例(自閉症スペクトラム障害)を疑う時—対話における特性から—	精神科治療学31(5)/p.674, 2016-5	精神科治療学	Original Article
196	高橋 晶	精神神経診療グループ	避難所における抑うつ・不安および睡眠障害とその対策	Depression Strategy 6巻4号 Page13-16(2016.12)	Depression Strategy	Original Article
197	松崎 朝樹	精神神経診療グループ	歯科医院のための内科学講座(13)「うつ病で治療中なのですが、歯科治療は普通に受けていいですか?」	補綴臨床 50巻2号 Page208-225(2017.03)	補綴臨床	Original Article
198	松崎 朝樹	精神神経診療グループ	臨床的関与の対象となることのある他の状態	日本精神科病院協会雑誌/35(6)/pp.41-46, 2016-06	日本精神科病院協会雑誌	Original Article
199	藤澤 康弘	皮膚診療グループ	がん治療と分子標的薬	西日本皮膚科 78巻3号 Page221-228(2016.06)	西日本皮膚科	Original Article

200	沖山 奈緒子	皮膚診療グループ	特集 膠原病はどこまでわかったか？ 皮膚筋炎・多発性筋炎の発症メカニズム	皮膚アレルギーフロンティア 15巻1号 Page23-26(2017.03)	皮膚アレルギーフロンティア	Original Article
201	沖山 奈緒子	皮膚診療グループ	免疫チェックポイント阻害剤によって誘発される多彩な自己免疫反応性副作用～皮膚から神経まで～	日本臨床免疫学会誌 39巻4号 Page350(2016.08)	日本臨床免疫学会誌	Original Article
202	渡辺 玲	皮膚診療グループ	マウスとヒトにおけるresident memory T細胞	日本臨床免疫学会誌 39巻6号 Page505-512(2016.12)	日本臨床免疫学会誌	Original Article
203	田川 学	小児(内)診療グループ	腹痛および低栄養に対して腸瘻を用いた経腸栄養が有用であったアレルギー性慢性腸炎の一例	日本静脈経腸栄養学会雑誌 31巻3号 Page855-858(2016.05)	日本静脈経腸栄養学会雑誌	Original Article
204	高橋 実穂	小児(内)診療グループ	【一歩進んだ胎児超音波検査-具体的な描出法/測定方法を教えます-】超音波ドブラ法 高心拍出性心不全をきたす胎児疾患の超音波による動脈血流の評価	周産期医学 46巻5号 Page637-645(2016.05)	周産期医学	Original Article
205	加藤 愛章	小児(内)診療グループ	これだけは知っておきたい！ 胎児心磁図	心電図 = Electrocardiology 36巻3号 Page212-215(2016.10)	心電図 = Electrocardiology	Original Article
206	高橋 実穂	小児(内)診療グループ	胎児心エコー所見をもとに早期娩出し救命できたハイリスク仙尾部奇形腫の胎児例	日本小児循環器学会雑誌 = Acta cardiologica paediatrica Japonica 32巻4号 Page328-334(2016.07)	日本小児循環器学会雑誌 = Acta cardiologica paediatrica Japonica	Original Article
207	堀米 仁志	小児(内)診療グループ	【小児循環器治療の最新線-クスリとデバイス】薬剤の使いかたを知るβ遮断薬の使いかた	小児科診療 79巻7号 Page905-913(2016.07)	小児科診療	Original Article
208	宮園 弥生	小児(内)診療グループ	未熟児網膜症患者におけるベナズマブ注射後の早期眼圧変化	眼科臨床紀要 9巻6号 Page543(2016.06)	眼科臨床紀要	Original Article
209	大戸 達之	小児(内)診療グループ	なぜ早期の支援が必要なのだろうか	小児内科 48巻5号 Page664-668(2016.05)	小児内科	Original Article
210	岩淵 敦	小児(内)診療グループ	筑波大学小児集中治療センターの2014年の診療実績	茨城県救急医学会雑誌 39号 Page46-47(2016.04)	茨城県救急医学会雑誌	Original Article
211	榎園 崇	小児(内)診療グループ	茨城県の東北県央・県南西部における小児てんかん外科の現状	てんかん研究 34巻2号 Page581(2016.09)	てんかん研究	Original Article
212	増本 幸二	小児(外)診療グループ	Branchio-otic症候群に伴う側顔面瘻の1例	日本小児外科学会雑誌 (0288-609X)53巻1号 Page105-109(2017.02)	日本小児外科学会雑誌	Original Article
213	新開 統子	小児(外)診療グループ	小児外科における大建中湯の応用	小児外科 48巻7号 Page676-680(2016.07)	小児外科	Original Article
214	新開 統子	小児(外)診療グループ	当院における胃内異物の治療経験	小児科臨床/69(5)/pp.839-846, 2016	小児科臨床	Original Article
215	瓜田 泰久	小児(外)診療グループ	【小児救急セミナーシリーズ:外因性疾患への初期対応】腎外傷	小児外科 48巻2号 Page169-173(2016.02)	小児外科	Original Article
216	増本 幸二	小児(外)診療グループ	小児における微量元素欠乏症 - 特に栄養管理時における -	日本臨床 74巻7号 Page1214-1219(2016.07)	日本臨床	Original Article
217	増本 幸二	小児(外)診療グループ	用語解説 セレン(Selenium)	外科と代謝・栄養 50巻6号 Page377-380(2016.12)	外科と代謝・栄養	Original Article
218	増本 幸二	小児(外)診療グループ	新生児編 停留精巣・陰萎水腫	周産期医学 必修知識第8版 46巻増刊 Page797-799(2016.12)	周産期医学 必修知識第8版	Original Article
219	高安 肇	小児(外)診療グループ	新生児先天性横隔膜ヘルニア研究グループ:術後の胸郭・脊椎変形	小児外科 48巻5号 Page504-508(2016.05)	小児外科	Original Article
220	小野 健太郎	小児(外)診療グループ	外傷性遊発性小腸狭窄に対し腹腔鏡補助下手術を施行した1例 単孔式腹腔鏡補助下イレウス手術における術中消化管減圧の工夫	日本小児外科学会雑誌 52巻7号 Page1337-1341(2016.12)	日本小児外科学会雑誌	Original Article
221	千葉 史子	小児(外)診療グループ	新生児肛門部脂肪腫の1例	日本小児外科学会雑誌 52巻5号 Page1056-1060(2016.08)	日本小児外科学会雑誌	Original Article
222	小野 健太郎	小児(外)診療グループ	外傷性遊発性小腸狭窄に対し腹腔鏡補助下手術を施行した1例	日本小児外科学会雑誌 52巻7号 Page1337-1341(2016.12)	日本小児外科学会雑誌	Original Article
223	羽田 康司	整形診療グループ	平成27年9月関東・東北豪雨災害における茨城JRATの活動について	Journal of Clinical Rehabilitation 25巻5号 Page446-452(2016.05)	Journal of Clinical Rehabilitation	Original Article
224	西浦 康正	整形診療グループ	陳旧性手指MP関節部伸筋腱脱臼の手術療法の経験	日本手外科学会誌 32巻6号 Page869-873(2016.04)	日本手外科学会誌	Original Article
225	西浦 康正	整形診療グループ	MP関節での伸筋腱脱臼の治療	Monthlybook Orthopaedics 29巻1号 Page53-58(2016.01)	Monthlybook Orthopaedics	Original Article
226	西浦 康正	整形診療グループ	ヒンジ型創外固定器を工夫し二段階手術で治療した陳旧性小指PIP関節掌側脱臼骨折の1例	日本創外固定・骨延長学会雑誌 27巻 Page7-12(2016.02)	日本創外固定・骨延長学会雑誌	Original Article
227	西浦 康正	整形診療グループ	陳旧性手指MP関節部伸筋腱脱臼の手術療法の経験	日本手外科学会雑誌 = The Journal of Japanese Society for Surgery of the Hand 32巻6号 Page869-873(2016.04)	日本手外科学会雑誌 = The Journal of Japanese Society for Surgery of the Hand	Original Article
228	西浦 康正	整形診療グループ	ヒンジ型創外固定器を用いたPIP関節屈曲拘縮に対する間歇的授動術	整形外科最少侵襲手術ジャーナル 78号 Page71-77(2016.02)	整形外科最少侵襲手術ジャーナル	Original Article
229	西浦 康正	整形診療グループ	MP関節部での伸筋腱脱臼の治療	Monthly Book Orthopaedics/29 /pp.53 -58 , 2016	Monthly Book Orthopaedics	Original Article
230	船山 徹	整形診療グループ	Primary Extradural Peripheral Primitive Neuroectodermal Tumor (Extraskelatal Ewing's Sarcoma) Arising from the Sacral Spinal Nerve Root: A Case Report and Review of the Literature	Journal of Spine and Neurosurgery 2017-03	Journal of Spine and Neurosurgery	Original Article
231	田中 健太	整形診療グループ	The use of a novel in-bed active Leg Exercise Apparatus (LEX) for increasing venous blood flow	Journal of Rural Medicine 11巻1号 Page11-16(2016.06)	Journal of Rural Medicine	Original Article

232	田中 健太	整形診療グループ	The use of a novel in-bed active Leg Exercise Apparatus (LEX) for increasing venous blood flow	Journal of Rural Medicine 11巻1号 Page11-16(2016.06)	Journal of Rural Medicine	Original Article
233	田中 健太	整形診療グループ	The use of a novel in-bed active Leg Exercise Apparatus (LEX) for increasing venous blood flow	Journal of Rural Medicine 11巻1号 Page11-16(2016.06)	Journal of Rural Medicine	Original Article
234	田中 健太	整形診療グループ	The use of a novel in-bed active Leg Exercise Apparatus (LEX) for increasing venous blood flow	Journal of Rural Medicine 11巻1号 Page11-16(2016.06)	Journal of Rural Medicine	Original Article
235	田中 健太	整形診療グループ	Muscle activity in the lower limbs during push-down movement with a new active-exercise apparatus for the leg	Journal of Physical Therapy Science 28巻3号 Page1050-1054(2016.03)	Journal of Physical Therapy Science	Original Article
236	田中 健太	整形診療グループ	Muscle activity in the lower limbs during push-down movement with a new active-exercise apparatus for the leg	Journal of Physical Therapy Science 28巻3号 Page1050-1054(2016.03)	Journal of Physical Therapy Science	Original Article
237	田中 健太	整形診療グループ	Muscle activity in the lower limbs during push-down movement with a new active-exercise apparatus for the leg	Journal of Physical Therapy Science 28巻3号 Page1050-1054(2016.03)	Journal of Physical Therapy Science	Original Article
238	平岡 孝浩	眼診療グループ	実用視力検査の意義と臨床応用	視覚の科学 37巻3号 Page75-82(2016.10)	視覚の科学	Original Article
239	平岡 孝浩	眼診療グループ	【子どもの近視進行予防】オルソケラトロジーによる予防	眼科グラフィック 5巻2号 Page170-174(2016.04)	眼科グラフィック	Original Article
240	平岡 孝浩	眼診療グループ	【小児眼科Q&A】学童近視・近視検査・屈折異常など 近視進行に対する光学的治療について教えてください	あたらしい眼科 33巻増増 Page65-71(2016.11)	あたらしい眼科	Original Article
241	平岡 孝浩	眼診療グループ	【学童の近視進行予防アップデート】コンタクトレンズによる近視進行予防	あたらしい眼科 33巻10号 Page1435-1441(2016.10)	あたらしい眼科	Original Article
242	平岡 孝浩	眼診療グループ	【屈折矯正を見直す！】オルソケラトロジーによる近視抑制	あたらしい眼科 33巻6号 Page795-800(2016.06)	あたらしい眼科	Original Article
243	平岡 孝浩	眼診療グループ	ドライアイと関連疾患 コンタクトレンズとドライアイ	Frontiers in Dry Eye: 涙液から見たオキュラーサーフェス 11巻1号 Page48-52(2016.04)	Frontiers in Dry Eye: 涙液から見たオキュラーサーフェス	Original Article
244	平岡 孝浩	眼診療グループ	実用視力検査の意義と臨床応用	視覚の科学 37巻3号 Page75-82(2016.10)	視覚の科学	Original Article
245	加治 優一	眼診療グループ	加齢と眼疾患	Medical View Point37(9)/pp.1-2, 2016-09	Medical View Point	Original Article
246	加治 優一	眼診療グループ	ヒアルロン酸ナトリウムPF点眼液0.1%「日点」の使用経験	NANO OPHTHALMOLOGY50(2)/pp.17-19, 2016-10	NANO OPHTHALMOLOGY	Original Article
247	岡本 史樹	眼診療グループ	自然閉鎖した特異性黄斑円孔患者の視機能と日常生活での物の見え方	臨床眼科 70巻10号 Page1603-1608(2016.10)	臨床眼科	Original Article
248	岡本 史樹	眼診療グループ	IgG4関連疾患に合併した原田病の1例	眼科臨床紀要 9巻6号 Page544(2016.06)	眼科臨床紀要	Original Article
249	和田 哲郎	耳鼻咽喉診療グループ	騒音性難聴の最近の知見(疫学、基礎など)	日本耳鼻咽喉科学会会報 120巻 (2017) 3号	日本耳鼻咽喉科学会会報	Original Article
250	西村 文吾	耳鼻咽喉診療グループ	扁桃腺腫瘍樹状細胞肉腫例	耳鼻咽喉科臨床 109巻8号 Page563-569(2016.08)	耳鼻咽喉科臨床	Original Article
251	和田 哲郎	耳鼻咽喉診療グループ	聴神経腫瘍の治療方針の選択	頭頸部外科 26巻2号 Page175-181(2016.10)	頭頸部外科	Original Article
252	和田 哲郎	耳鼻咽喉診療グループ	耳鼻咽喉科医と産業保健総合支援センターの連携について	日本耳鼻咽喉科学会会報 119巻12号 Page1511-1515(2016.12)	日本耳鼻咽喉科学会会報	Original Article
253	原 晃	耳鼻咽喉診療グループ	診療所医療における新たな取り組み—近未来の開業医像とは—	日本耳鼻咽喉科学会会報 119(9)/pp.1247-1247, 2016	日本耳鼻咽喉科学会会報	Original Article
254	田淵 経司	耳鼻咽喉診療グループ	The role of peroxiredoxin 1 in cisplatin-induced ototoxicity.	Auris-Nasus-Larynx (Tokyo) 44巻2号 Page205-212(2017.04)	Auris-Nasus-Larynx (Tokyo)	Original Article
255	佐々木 薫	形成診療グループ	血流不全が疑われた指に対しインドシアニングリーン蛍光造影法による	日本マイクロ会誌 30巻2号 Page69-74(2017.06)	日本マイクロ会誌	Original Article
256	関堂 充	形成診療グループ	微小血管吻合を用いた乳房再建における内胸動脈の問題点	第24回日本乳癌学会学術総会 プログラム抄録集 24回 Page293(2016.06)	第24回日本乳癌学会学術総会 プログラム抄録集	Original Article
257	関堂 充	形成診療グループ	前外側大腿皮弁の挙上—解剖と挙上時の注意—	PEPARS 118号 2016年10月	PEPARS	Original Article
258	佐々木 薫	形成診療グループ	内側足底皮弁の基本とその応用	PEPARS 118号 Page81-88(2016.10)	PEPARS	Original Article
259	佐々木 薫	形成診療グループ	特集●研修医のための当直マニュアル 病院当直医の急変時の対応皮弁の血流障害	JOHNS33巻3号(3月号) 2017年3月	JOHNS	Original Article
260	相原 有希子	形成診療グループ	複数回の血管内治療により救肢に成功した重傷虚血肢の1例	日本下肢救済・足病学会誌 8巻 (2016) 1号 p. 67-72	日本下肢救済・足病学会誌	Original Article
261	玉岡 晃	脳神経(内)診療グループ	Hereditary diffuse leukoencephalopathy with spheroids (HDLS)(スフェロイドを伴う遺伝性びまん性白質脳症)	精神科 28巻5号 Page411-417(2016.05)	精神科	Original Article
262	玉岡 晃	脳神経(内)診療グループ	アルツハイマー病の疫学と危険因子	医学のあゆみ 257巻5号 Page444-448(2016.04)	医学のあゆみ	Original Article
263	玉岡 晃	脳神経(内)診療グループ	見逃し症例から学ぶ神経症状の診察め方	脳神経外科44(4)/pp.329-329, 2016-04	脳神経外科	Original Article
264	玉岡 晃	脳神経(内)診療グループ	認知症の鑑別診断と治療はここまで進んだ	神経治療学 33巻2号 Page125-130(2016.03)	神経治療学	Original Article
265	玉岡 晃	脳神経(内)診療グループ	[Hereditary Diffuse Leukoencephalopathy with Spheroids (HDLS): Clinical Characteristics and Pathomechanistic Insights]	Brain and nerve = Shinkei kenkyu no shinpo69巻1号,p17-23	Brain and nerve = Shinkei kenkyu no shinpo	Original Article
266	玉岡 晃	脳神経(内)診療グループ	[Dyslipidemia and Dementia]	Brain and nerve = Shinkei kenkyu no shinpo68巻7号,p737-742	Brain and nerve = Shinkei kenkyu no shinpo	Original Article
267	渡邊 雅彦	脳神経(内)診療グループ	Peptidergic phenotypes of pheochromocytoma	Medical Research Archives 5, 2017-2	Medical Research Archives	Original Article

268	辻 浩史	脳神経(内)診療グループ	レボドパが著効した開眼困難の69歳女性例	日本運動障害研究会機関誌 26巻2号 Page85-90(2016.12)	日本運動障害研究会機関誌	Original Article
269	保坂 愛	脳神経(内)診療グループ	Body Lateropulsion and Cerebellar Tremor in a Patient with Pontine Infarction	Internal Medicine 56巻5号 Page563-565(2017.03)	Internal Medicine	Original Article
270	石川 栄一	脳神経(外)診療グループ	悪性神経膠腫に対する術中BCNU Wafer留置 本邦の臨床医は本剤をどのようにみているか。	癌と化学療法 43巻5号 Page603-607(2016.05)	癌と化学療法	Original Article
271	石川 栄一	脳神経(外)診療グループ	キリアデル—脳内留置における副作用マネージメント—	GLI1040ASG/pp.1-3, 2016	GLI1040ASG	Original Article
272	阿久津 博義	脳神経(外)診療グループ	脳腫瘍の手術のための術前・術中支援 2. 側脳室腫瘍に対する開頭術・内視鏡手術	脳神経外科 44巻12号 Page1069-1079(2016.12)	脳神経外科	Original Article
273	阿久津 博義	脳神経(外)診療グループ	視床下部機能温存を意図した頭蓋咽頭腫摘出術後の肥満・認知機能障害の検討	第26回脳下垂体腫瘍学会Proceeding 日本内分泌学会雑誌 92巻 Suppl.HPT Page17-18(2016.07)	第26回脳下垂体腫瘍学会Proceeding 日本内分泌学会雑誌	Original Article
274	鶴淵 隆夫	脳神経(外)診療グループ	椎弓糸剥離の急速な増大を認めた二脊椎損傷疾患の一例	小児の脳神経、(投稿中) 41巻1号 Page152(2016.05)	小児の脳神経、(投稿中)	Original Article
275	柴田 靖	脳神経(外)診療グループ	見逃されやすい無症候の髄膜腫 いまさら聞けない画像診断の基本 頭部CT編	日経メディカル 09/pp.72-73, 2016-9	日経メディカル	Original Article
276	柴田 靖	脳神経(外)診療グループ	CTでは見逃しやすいう下垂体腺腫と神経鞘腫 いまさら聞けない画像診断の基本 頭部CT編	日経メディカル 10/pp.98-100, 2016-10	日経メディカル	Original Article
277	柴田 靖	脳神経(外)診療グループ	予後不良の神経鞘腫 転移性とどう見分ける いまさら聞けない画像診断の基本 頭部CT編	日経メディカル 11/pp.90-91, 2016-11	日経メディカル	Original Article
278	柴田 靖	脳神経(外)診療グループ	小児の頭部外傷では虐待を見逃さない いまさら聞けない画像診断の基本 頭部CT編	日経メディカル (6)/pp.104-105, 2016-6	日経メディカル	Original Article
279	柴田 靖	脳神経(外)診療グループ	頭部外傷の急性期 生命に関わるCT診断 いまさら聞けない画像診断の基本 頭部CT編	日経メディカル (4)/pp.86-87, 2016-4	日経メディカル	Original Article
280	柴田 靖	脳神経(外)診療グループ	脳に悪影響及ぼす頭部外傷の局所病変 いまさら聞けない画像診断の基本 頭部CT編	日経メディカル (5)/pp.72-74, 2016-5	日経メディカル	Original Article
281	柴田 靖	脳神経(外)診療グループ	無症状のくも膜嚢胞を見つけたら? いまさら聞けない画像診断の基本 頭部CT編	日経メディカル (7)/pp.92-93, 2016-7	日経メディカル	Original Article
282	柴田 靖	脳神経(外)診療グループ	高齢者に多い正常圧水頭症 いまさら聞けない画像診断の基本 頭部CT編	日経メディカル (8)/pp.98-99, 2016-8	日経メディカル	Original Article
283	柴田 靖	脳神経(外)診療グループ	Tc-MIBI SPECTの臨床的有用性 脳腫瘍SPECT⑤ 専門医に求められる最新の知識:脳腫瘍	脳神経外科速報 26巻8号 Page820-825(2016.08)	脳神経外科速報	Original Article
284	柴田 靖	脳神経(外)診療グループ	IMP SPECTによる悪性リンパ腫の診断 脳腫瘍SPECT⑥ 専門医に求められる最新の知識:画像	脳神経外科速報 26巻12号 Page1272-1277(2016.12)	脳神経外科速報	Original Article
285	鶴嶋 英夫	脳神経(外)診療グループ	研究者を研究不正から守る ~筑波大学附属病院の取り組み~	薬剤学 76巻4号 Page247-250(2016.07)	薬剤学	Original Article
286	石川 栄一	脳神経(外)診療グループ	悪性神経膠腫に対する術中BCNU Wafer留置~本邦の臨床医は本剤をどのようにみているか?~	癌と化学療法 43巻5号 2016年5月号 43巻5号 Page603-607(2016.05)	癌と化学療法 43巻5号 2016年5月号	Original Article
287	小松 洋治	脳神経(外)診療グループ	頭部CT はなしはよく聴きましょう	日立医学会誌 54巻1号 Page45-47(2016.07)	日立医学会誌	Original Article
288	阿久津 博義	脳神経(外)診療グループ	[Pre- and Intra-Operative Supporting Technology for Brain Tumors(2)Transcranial and Endoscopic Surgery for Lateral Ventricle Tumors]	No shinkei geka. Neurological surgery44巻12号,p1069-1079	No shinkei geka. Neurological surgery	Original Article
289	松田 真秀	脳神経(外)診療グループ	IgG4関連眼窩内腫瘍性病変に対する内視鏡下経鼻的経篩骨洞的生検術の1例	Neurological Surgery 44巻1号 Page47-52(2016.01)	Neurological Surgery	Original Article
290	松田 真秀	脳神経(外)診療グループ	グリオーマの免疫染色定量評価	Neuro-Oncologyの進歩 23巻1号 Page14-20(2016.04)	Neuro-Oncologyの進歩	Original Article
291	松田 真秀	脳神経(外)診療グループ	悪性脳腫瘍に対する光線力学的療法(PDT)の基礎	脳神経外科ジャーナル 25巻11号 Page905-911(2016.11)	脳神経外科ジャーナル	Original Article
292	室井 愛	脳神経(外)診療グループ	小児疾患診療のための病態生理3	改訂5版 III 神経疾患 16 脳腫瘍、硬膜下膿瘍、小児内科2016年 /48/pp.305-310, 2016	改訂5版 III 神経疾患 16 脳腫瘍、硬膜下膿瘍、小児内科2016年	Original Article
293	渡邊 大貴	脳神経(外)診療グループ	回復期脳卒中患者におけるロボトスーツHAL® (Hybrid Assistive Limb®) 福祉用を用いた歩行練習の適応症例およびQOLと気分や感情に対する効果の検討 —ランダム化比較試験の結果から—	理学療法科学 31巻5号 Page733-742(2016.10)	理学療法科学	Original Article
294	松村 明	脳神経(外)診療グループ	MRSの基礎から臨床まで	医学物理 36巻2号 Page85-91(2016.08)	医学物理	Original Article
295	高橋 利英	脳神経(外)診療グループ	IgG4関連眼窩内腫瘍性病変に対する内視鏡下経鼻的経篩骨洞的生検術の1例	脳神経外科pp.47-52 2016年1月10日	脳神経外科	Original Article

296	高野 晋吾	脳神経(外)診療グループ	グリオーマの免疫染色定量評価	Neuro-Oncologyの進歩 23巻1号 Page14-20(2016.04)	Neuro-Oncologyの進歩	Original Article
297	松村 明	脳神経(外)診療グループ	悪性脳腫瘍に対する光線力学的療法(PDT)の基礎	脳神経外科ジャーナル 25巻11号 Page905-911(2016.11)	脳神経外科ジャーナル	Original Article
298	松村 明	脳神経(外)診療グループ	IgG4関連眼窩内腫瘍性病変に対する内視鏡下経鼻経篩骨洞的生検術の1例	Neurological Surgery 44巻1号 Page47-52(2016.01)	Neurological Surgery	Original Article
299	松村 明	脳神経(外)診療グループ	グリオーマの免疫染色定量評価	Neuro-Oncologyの進歩 23巻1号 Page14-20(2016.04)	Neuro-Oncologyの進歩	Original Article
300	松村 明	脳神経(外)診療グループ	巨大下垂体腺腫に対する手術治療戦略	第25回間脳下垂体腫瘍学会Proceeding 日本内分泌学会雑誌 91巻 Suppl.HPT Page41-42(2016.02)	第25回間脳下垂体腫瘍学会Proceeding 日本内分泌学会雑誌	Original Article
301	松村 明	脳神経(外)診療グループ	高度屈曲内頸動脈に浮動性血栓を認めた心原性脳塞栓症の1例	脳卒中2016	脳卒中診療グループ中	Original Article
302	松丸 祐司	脳卒中診療グループ中診療グループ	【出血性脳血管障害】脳動脈瘤に対する血管内治療の戦略と手技	脳神経外科ジャーナル 25巻1号 Page27-32(2016.01)	脳神経外科ジャーナル	Original Article
303	早川 幹人	脳卒中診療グループ中診療グループ	Stent retrieverによる血栓回収術後の血管傷害性合併症についての検討	The Mt. Fuji Workshop on CVD 2016(急性期脳梗塞治療—現状と近未来—)34巻 Page96-100,132-133(2016.08)	The Mt. Fuji Workshop on CVD 2016(急性期脳梗塞治療—現状と近未来—)	Original Article
304	早川 幹人	脳卒中診療グループ中診療グループ	ミニレクチャー7.急性期脳梗塞の再開通治療に伴う頭蓋内出血—その病態と予防、治療	脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2016/pp.59-75, 2016	脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2016	Original Article
305	早川 幹人	脳卒中診療グループ中診療グループ	文献レビュー1:急性期再開通	第10回東京脳卒中の血管内治療セミナー /pp.19-32, 2016-9	第10回東京脳卒中診療グループ中の血管内治療セミナー	Original Article
306	早川 幹人	脳卒中診療グループ中診療グループ	脳卒中速報 Big Debate 内科系×外科系 File No. 3 多発性頭蓋動脈狭窄・閉塞による脳梗塞例—内科医の見解	脳神経外科速報 2016/26/pp.1076-1077, 2016	脳神経外科速報 2016	Original Article
307	早川 幹人	脳卒中診療グループ中診療グループ	脳卒中速報 脳卒中治療医必読の海外論文 Stenting versus endarterectomy for treatment of carotid-artery stenosis Randomized trial of stent versus surgery for asymptomatic carotid stenosis	脳神経外科速報 2016/26/pp.857-859, 2016	脳神経外科速報 2016	Original Article
308	早川 幹人	脳卒中診療グループ中診療グループ	CEP解剖・基礎-5 薬剤・周術期管理	第32回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会CEPテキスト/47(12)/pp.3035-3037, 2016-12	第32回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会CEPテキスト	Original Article
309	早川 幹人	脳卒中診療グループ中診療グループ	脳循環障害の画像診断 多剤併用抗血栓療法にもかかわらず閉塞部は遠の血栓化が進行したアテローム硬化性頭蓋内椎骨動脈閉塞の一例	脳と循環 2016 21巻2号 Page161-166(2016.06)	脳と循環 2016	Original Article
310	早川 幹人	脳卒中診療グループ中診療グループ	ADAPTを第一選択とした急性期再開通療法の検討	The Mt. Fuji Workshop on CVD 2016(急性期脳梗塞治療—現状と近未来—) 34巻 Page169-172(2016.08)	The Mt. Fuji Workshop on CVD 2016(急性期脳梗塞治療—現状と近未来—)	Original Article
311	早川 幹人	脳卒中診療グループ中診療グループ	脳循環障害の画像診断 一側の脳虚血で発症し、無症候性に行進した対側内頸動脈狭窄に対して頸動脈ステント留置術を施行した特異性両側頸部内頸動脈解離の一例	脳と循環 2016 21巻3号 Page269-274(2016.10)	脳と循環 2016	Original Article
312	小島 真奈	婦人・周産期診療グループ	妊娠中の感染症に関する情報源についての産婦人科医師の意識調査	産婦人科の実際 66巻2号 Page223-232(2017.02)	産婦人科の実際	Original Article
313	櫻井 学	婦人・周産期診療グループ	初回治療時より乳房転移を認めた卵巣漿液性癌IVB期の1例	日本婦人科腫瘍学会雑誌 34巻4号 Page683-687(2016.10)	日本婦人科腫瘍学会雑誌	Original Article
314	小島 真奈	婦人・周産期診療グループ	妊娠中の感染症に関する情報源についての産婦人科医師の意識調査	産婦人科の実際 66巻2号 Page223-232(2017.02)	産婦人科の実際	Original Article
315	濱田 洋実	婦人・周産期診療グループ	妊娠女性の感染症における治療の有益性と安全性の考え方	薬局 67巻5号 Page2061-2064(2016.04)	薬局	Original Article
316	濱田 洋実	婦人・周産期診療グループ	妊娠・産褥期に診断された脳腫瘍4例の臨床像	日本周産期・新生児医学会雑誌 52巻4号 Page1205-1209(2016.12)	日本周産期・新生児医学会雑誌	Original Article
317	猪股 伸一	麻酔診療グループ	Emergent Caesarean Section in a Patient with a Mediastinal Tumor and Von Recklinghausen Disease: A Case Report.	麻酔 2016 Jun;65(6):601-4	麻酔	Original Article
318	大坂 佳子	麻酔診療グループ	歯科医院のための内科学講座 全身管理・全身疾患を見据えた補綴治療のススメ(第11回)「アレルギー体質で、局麻アレルギーなんです……、と言われたら……」	補綴臨床 49巻6号 Page662-677(2016.11)	補綴臨床	Original Article
319	大坂 佳子	麻酔診療グループ	歯科医院のための内科学講座 全身管理・全身疾患を見据えた補綴治療のススメ(第12回)「なに、まだ検査データがわからない?」(検査データ総ざらい) 本連載これまでのおさらい	補綴臨床 50巻1号 Page68-88(2017.01)	補綴臨床	Original Article
320	山下 創一郎	麻酔診療グループ	気管腔室様の解剖学的異常が残存した先天性食道閉鎖症根治術後の患児の気道異物に対する硬性気管支鏡の麻酔経験	麻酔 65巻8号 Page824-827(2016.08)	麻酔	Original Article
321	山縣 憲司	歯・口腔診療グループ	連載 歯科医院のための内科学講座① 歯科医院に来院した患者さんが妊娠中……どうしたらいいの?」	補綴臨床49(3)/pp.270-283, 2016	補綴臨床	Original Article
322	武川 寛樹	歯・口腔診療グループ	閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置治療の有用性に関する検討	日本口腔外科学会雑誌 62巻8号 Page395-403(2016.08)	日本口腔外科学会雑誌	Original Article
323	武川 寛樹	歯・口腔診療グループ	歯肉出血を契機に診断された突発性血小板減少性紫斑病の1例	茨城県歯科医学会誌/(24)/pp.14-15, 2016-09	茨城県歯科医学会誌	Original Article

324	武川 寛樹	歯・口腔診療グループ	統合失調症患者に認められた下顎歯肉がんの1例	茨城県歯科医学会誌(24)/pp.16-17, 2016-09	茨城県歯科医学会誌	Original Article
325	大井 雄一	保健衛生外来診療グループ	Free testosterone and growth hormone levels and association with depression in apparently healthy men and women	Journal of Physical Fitness, Nutrition and Immunology 26巻3号 Page173-176(2016.12)	Journal of Physical Fitness, Nutrition and Immunology	Original Article
326	森田 展彰	保健衛生外来診療グループ	トラウマ関連問題を背景にもつ薬物依存症に対するプログラム、女性を中心とした支援	精神療法43巻1号,p104-116	精神療法	Original Article
327	森田 展彰	保健衛生外来診療グループ	官民協働刑務所における受刑者に対する生活上のスキルプログラムの開発:感情対処や対人関係のスキルへの働きかけを中心に	日本犯罪心理学第54回大会抄録集2016-05	日本犯罪心理学第54回大会抄録集	Original Article
328	森田 展彰	保健衛生外来診療グループ	依存症家族の精神健康・コミュニケーション問題の実態とその支援	日本アルコール関連問題学会雑誌	日本アルコール関連問題学会雑誌	Original Article
329	森田 展彰	保健衛生外来診療グループ	家庭内の暴力における関係性 心の科学特別企画 犯罪の心理 関係性の中の犯罪 65-72 2016(7)	心の科学/特別企画 犯罪の心理 関係性の中の犯罪 65-72 2016(7)	心の科学/特別企画 犯罪の心理 関係性の中の犯罪	Original Article
330	森田 展彰	保健衛生外来診療グループ	ドメスティック・バイオレンスの被害者のタイプ分類	アディクションと家族 31巻2号 Page129-140(2016.06)	アディクションと家族	Original Article
331	森田 展彰	保健衛生外来診療グループ	オキシトシンと絆・ストレス・メンタルヘルス	臨床心理学巻号 p368-374	臨床心理学	Original Article
332	笹原 信一郎	保健衛生外来診療グループ	健康生成論の成立とその分析	日本病跡学雑誌 92号 Page5-10(2016.12)	日本病跡学雑誌	Original Article
333	笹原 信一郎	保健衛生外来診療グループ	Parental Bonding during Childhood and Self-rated Health in Adulthood	Journal of Physical Fitness, Nutrition and Immunology 26巻3号 Page162-168(2016.12)	Journal of Physical Fitness, Nutrition and Immunology	Original Article
334	大井 雄一	保健衛生外来診療グループ	今時の若者とのコミュニケーションの取り方[前編] 従来型うつ病と現代型うつ病の捉え方	Trim 2015-12-17--2015-12-17	Trim	Original Article
335	平井 康仁	保健衛生外来診療グループ	職業性ストレス簡易調査票について~職業性ストレス簡易調査票の特徴、活用法、課題~	こころの健康:日本精神衛生学会誌 31巻2号 Page17-22(2016.12)	こころの健康:日本精神衛生学会誌	Original Article
336	寺島 秀夫	救急・集中治療診療グループ	誤飲した大型有鉤菌が頸部食道から胸部食道に嵌頓した2例-頸部アブローチの工夫	手術 70(5), 2016-04	手術	Original Article
337	寺島 秀夫	救急・集中治療診療グループ	周術期の栄養管理:術後栄養療法	レジデントノート18(5), 2016-05	レジデントノート	Original Article
338	寺島 秀夫	救急・集中治療診療グループ	周術期の栄養管理:術前栄養療法	レジデントノート18(5)/pp.790-798, 2016-05	レジデントノート	Original Article
339	寺島 秀夫	救急・集中治療診療グループ	侵襲早期の静脈栄養の是非:その論争の真相	外科と代謝・栄養 50巻(2016)2号 p.111-126	外科と代謝・栄養	Original Article
340	寺島 秀夫	救急・集中治療診療グループ	閉塞性大腸癌に対するbridging to surgeryとしての大腸セント留置の短期的な有用性の検討	日本消化器外科学会雑誌 49巻9号 Page834-841(2016.09)	日本消化器外科学会雑誌	Original Article
341	寺島 秀夫	救急・集中治療診療グループ	下大静脈背側に密接した巨大な後腹膜神経節神経腫に対するHALSの有用性	日鏡外会誌 21巻4号 Page427-434(2016.07)	日鏡外会誌	Original Article
342	寺島 秀夫	救急・集中治療診療グループ	化学療法中の栄養支持療法、逆転の発想 短期絶食は抗がん剤の副作用を軽減する	医学のあゆみ 259巻10号 Page1035-1044(2016.12)	医学のあゆみ	Original Article
343	寺島 秀夫	救急・集中治療診療グループ	頸部食道癌に対する外科治療 胸部食道癌と比較して	日本気管食道科学会会報 67巻2号 Page s96(2016.04)	日本気管食道科学会会報	Original Article
344	星 拓男	救急・集中治療診療グループ	neurological pupil indexおよび縮瞳速度に対するプロポフォールおよびレミフェンタニルの影響	麻酔 66巻2号 Page174-176(2017.02)	麻酔	Original Article
345	寺島 秀夫	救急・集中治療診療グループ	宅配食の喫食による生活習慣病の改善効果 エネルギー制限食が肥満を是正し血糖値を下げた	日本臨床検査自動化学会誌 42巻1号 Page26-30(2017.02)	日本臨床検査自動化学会誌	Original Article
346	寺島 秀夫	救急・集中治療診療グループ	ERAS®プロトコル:周術期管理の大変革	レジデントノート 18巻5号 Page832-841(2016.06)	レジデントノート	Original Article
347	井上 貴昭	救急・集中治療診療グループ	出血性ショックを伴う腹部刺創に対し、IABO併用下のDCS後に下腿コンパートメント症候群を呈した1例	日本救急医学会雑誌 26巻1号 Page19-24(2015.01)	日本救急医学会雑誌	Original Article
348	太刀川 弘和	救急・集中治療診療グループ	大学生を対象とした国内外の自殺予防研究に関する系統的レビュー	CAMPUS HEALTH 54回 Page93(2016.09)	CAMPUS HEALTH	Original Article
349	長谷川 隆一	救急・集中治療診療グループ	呼吸管理と医療安全:呼吸管理の質の評価	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 26巻1号 Page7-10(2016.04)	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌	Original Article
350	長谷川 隆一	救急・集中治療診療グループ	人工呼吸管理で使える!ケアにつながる!ポータブルX線・CT読影の黄金ルール (Theme 2)「引き」と「寄り」の繰り返しで見落としを防ごう	呼吸器ケア 15巻2号 Page129-141(2017.02)	呼吸器ケア	Original Article
351	長谷川 隆一	救急・集中治療診療グループ	ICUにおける早期リハビリテーションと医師の役割	重症集中ケア 15巻5号 Page122-126(2016.12)	重症集中ケア	Original Article
352	長谷川 隆一	救急・集中治療診療グループ	呼吸管理と医療安全 呼吸管理の質の評価	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 26巻1号 Page7-10(2016.04)	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌	Original Article
353	井上 貴昭	救急・集中治療診療グループ	脳・神経疾患診療におけるモニタリング 局所脳血流モニター	救急医学 40巻1号 Page49-56(2016.01)	救急医学	Original Article
354	井上 貴昭	救急・集中治療診療グループ	中毒救急講座:蘇生ガイドラインの改訂と中毒症例に関する対応	中毒研究 29巻3号 Page253-258(2016.09)	中毒研究	Original Article
355	井上 貴昭	救急・集中治療診療グループ	急性臓器障害のとらえ方 ベッドサイドにおけるアルゴリズム	救急医学 40巻8号 Page866-875(2016.08)	救急医学	Original Article
356	榎本 有希	救急・集中治療診療グループ	子どもにも適切な時に適切な場所で適切な医療を提供するために	茨城県救急医学会雑誌 39号 Page78-79(2016.04)	茨城県救急医学会雑誌	Original Article

357	磯辺 智範	放射線腫瘍科診療グループ	医療における課題解決型教育プログラムの提案 -診療放射線技師の教育を例に-	診療放射線学教育 4巻1号 Page7-11(2016.09)	診療放射線学教育	Original Article
358	櫻井 英幸	放射線腫瘍科診療グループ	本邦での陽子線治療の現状と統一治療方針	Rad Fan 放射線治療 14巻14号 Page64-66(2016.11)	Rad Fan 放射線治療	Original Article
359	磯辺 智範	放射線腫瘍科診療グループ	NAFLD診断における肝の脂肪量と線維化の評価	月間インナービジョン31巻6号,p102-103	月間インナービジョン	Original Article
360	熊田 博明	放射線腫瘍科診療グループ	加速器中性子源の利用 医療利用(ホウ素中性子捕捉療法)	加速器13(4)/pp.253-258, 2016-12	加速器	Original Article
361	栗飯原 輝人	放射線腫瘍科診療グループ	硼素中性子捕捉療法の照射野内眼球障害に対する考察	耳鼻咽喉科臨床 補冊146号 補冊146 Page149(2016.06)	耳鼻咽喉科臨床 補冊146号	Original Article
362	櫻井 英幸	放射線腫瘍科診療グループ	粒子線治療の適応疾患と世界動向	カレントセラピー 34巻5号 Page418-423(2016.05)	カレントセラピー	Original Article
363	磯辺 智範	放射線腫瘍科診療グループ	MRSの基礎から臨床まで	医学物理 36巻2号 Page85-91(2016.08)	医学物理	Original Article
364	大西 かよ子	放射線腫瘍科診療グループ	I 期非小細胞肺癌高リスク症例に対する陽子線治療	第25回日本定位放射線治療学会 P-3-71	第25回日本定位放射線治療学会	Original Article
365	福光 延吉	放射線腫瘍科診療グループ	胃癌肝転移の陽子線治療成績	第52回日本肝癌研究会プログラム・抄録集 7.303-313	第52回日本肝癌研究会プログラム・抄録集	Original Article
366	櫻井 英幸	放射線腫瘍科診療グループ	進行肝癌における放射線治療の役割	第52回日本肝癌研究会/2017-07-01-2017-07-02	第52回日本肝癌研究会	Original Article
367	栗飯原 輝人	放射線腫瘍科診療グループ	硼素中性子捕捉療法のFBPA-PET検査と治療効果の検討	頭頸部癌 = Head and neck cancer 2016.6.8	頭頸部癌 = Head and neck cancer	Original Article
368	水本 斉志	放射線腫瘍科診療グループ	粒子線治療の現状-保険適応を終るの実施体制- 小児腫瘍に対する陽子線治療	臨床放射線 61(10), 1193-1200, 2016-10	臨床放射線	Original Article
369	水本 斉志	放射線腫瘍科診療グループ	S3-3 脳腫瘍に対する陽子線治療	第19回日本臨床脳神経外科学会 vol.21 no.1 48-55, 2011	第19回日本臨床脳神経外科学会	Original Article
370	石川 仁	放射線腫瘍科診療グループ	日本放射線腫瘍学会第29回学術大会参加印象記	Rad Fan	Rad Fan	Original Article
371	石川 仁	放射線腫瘍科診療グループ	大動脈ステント内挿術施行後のsalvage食道癌手術の臨床経験	日本気管支食道会報 67巻6号 Page423-428(2016.12)	日本気管支食道会報	Original Article
372	石川 仁	放射線腫瘍科診療グループ	放射線治療の生物学的、物理学的基礎、日本泌尿器科学会卒後教育プログラム(第13章)	日本泌尿器科学会誌 2016-04	日本泌尿器科学会誌	Original Article
373	玉木 義雄	放射線腫瘍科診療グループ	頭部食道癌に対する同時化学放射線療法	臨床放射線 61巻8号 Page1013-1017(2016.08)	臨床放射線	Original Article
374	磯辺 智範	放射線腫瘍科診療グループ	定年を迎える看護師が語る野村看護で大切なこと 次の世代に伝えたいこと	日本精神科看護学術集誌 59巻1号 Page194-195(2016.06)	日本精神科看護学術集誌	Original Article
375	増本 智彦	放射線診断・IVR診療グループ	【症例から学ぶMRIの基礎-臨床に直結する知識-】脳腫瘍	画像診断 37巻1号 Page21-30(2016.12)	画像診断	Original Article
376	増本 智彦	放射線診断・IVR診療グループ	専門に求められる最新の知識 脳腫瘍 BCNUウエハー、ペバシズマブが使用可能になった現況での神経腫瘍に対する画像診断のポイント	脳神経外科速報 26巻7号 Page702-710(2016.07)	脳神経外科速報	Original Article
377	増本 智彦	放射線診断・IVR診療グループ	【放射線照射後の画像診断】正常臓器の照射後変化:脳	臨床放射線 61巻 4号 (2016年4月) pp.551-561.	臨床放射線	Original Article
378	増本 智彦	放射線診断・IVR診療グループ	【画像でみかける偶発的所見のマネジメント-あなたならどう書く?-】脳神経 low-grade glioma	画像診断 36巻9号 Page848-849(2016.07)	画像診断	Original Article
379	石黒 聡尚	放射線診断・IVR診療グループ	日常診療で放射線診断医が遭遇する代謝性骨疾患	臨床画像 32巻12号 Page1353-1363(2016.12)	臨床画像	Original Article
380	檜山 貴志	放射線診断・IVR診療グループ	Enlargement of the brachial plexus on magnetic resonance imaging: A novel finding in adult-onset Krabbe disease	BJR case reports May 25, 2015	BJR case reports	Original Article
381	吉本 尚	総合診療グループ	日本のプライマリケアにおけるアルコール問題の頻度	平成28年度 日本アルコール・アディクション医学会学術総会 プログラム・講演抄録集 51巻4号 Page180(2016.08)	平成28年度 日本アルコール・アディクション医学会学術総会プログラム・講演抄録集	Original Article
382	前野 貴美	総合診療グループ	時間外に軽症で救急外来を受診する患者の特性と受診理由の検討	日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 プログラム・抄録集/pp.230-230, 2016-06	日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 プログラム・抄録集	Original Article
383	細井 崇弘	総合診療グループ	【思い出のポートフォリオを紹介します】第16回 男性の健康問題~on goingで作成し、実臨床にフィードバック~	Gノート3(8) 1550-1554 2016	Gノート	Original Article
384	吉本 尚	総合診療グループ	我が国の高リスク飲酒者へのスクリーニングとフリーフ・インターベンションの実施に関する考察—実現可能性と費用対効果の観点から—	日本医療・病院管理学会誌 = Journal of the Japan Society for Healthcare administration/2016-09-17-2016-09-18	日本医療・病院管理学会誌 = Journal of the Japan Society for Healthcare administration	Original Article
385	前野 哲博	総合診療グループ	指導医養成講習会におけるワールドカフェを取り入れた共有の試み	医学教育 47巻Suppl. Page253(2018.07)	医学教育	Original Article
386	吉本 尚	総合診療グループ	日本の3大学における過剰なアルコール使用の現状とその自己認識との関連	第38回日本アルコール関連問題学会秋田大会 予稿集2016-09-09-2016-09-10	第38回日本アルコール関連問題学会秋田大会 予稿集	Original Article
387	高屋敷 明由美	総合診療グループ	全国の地域格差6年生の将来の進路希望と地域格差に関する考え	医学教育 47巻Suppl. Page163(2016.07)	医学教育	Original Article
388	片岡 義裕	総合診療グループ	地域格差学生が医師不足地域に定着しようとする意志の変化についての記述的研究	医学教育47(suppl. 2016)/pp.161-161, 2016-07	医学教育	Original Article
389	前野 哲博	総合診療グループ	人々の健康を支えるオールラウンダーを目指しての取り組み	月刊地域医学30(10) 833-837 2016	月刊地域医学	Original Article
390	前野 哲博	総合診療グループ	大小さまざまな医療機関で実習できるシステムを構築	NIKKEI MEDICAL 2016.5 別冊付録	NIKKEI MEDICAL 2016.5 別冊付録	Original Article
391	前野 哲博	総合診療グループ	【研修医のメンタルケアに携わって、心の中を自由に表現する】	医学教育/48(1)/pp.13-16, 2017-02	医学教育	Original Article
392	前野 哲博	総合診療グループ	臨床推論の基本的な考え方 臨床医の思考プロセスをたどる	医療社会福祉研究 25巻 Page1-11(2017.03)	医療社会福祉研究	Original Article

393	片岡 義裕	総合診療グループ	全国の地域医療教育プログラムの現状に関するアンケート調査結果-続報-	医学教育 47巻Suppl. Page152(2016.07)	医学教育	Original Article
394	小林 裕幸	総合診療グループ	【内科の視点で診る手術前後の入院患者管理】(第2章)内科的基礎疾患をもつ患者さんの術前評価・周術期管理 DVTのリスク評価と予防、そのエビデンス	レジデントノート増刊 内科の視点で診る 手術前後の入院患者管理 18巻5号 Page934-943(2016.06)	レジデントノート増刊 内科の視点で診る 手術前後の入院患者管理	Original Article
395	小林 裕幸	総合診療グループ	【内科の視点で診る手術前後の入院患者管理】(第2章)内科的基礎疾患をもつ患者さんの術前評価・周術期管理 抗凝固薬、抗血小板薬を処方中の患者の周術期管理	レジデントノート増刊 内科の視点で診る 手術前後の入院患者管理 18巻5号 Page897-905(2016.06)	レジデントノート増刊 内科の視点で診る 手術前後の入院患者管理	Original Article
396	小林 裕幸	総合診療グループ	【ポリファーマシー】総合病院にて～総合内科での実態とアプローチ～	治療/98(12)/pp.1890-0894, 2016-12	治療	Original Article
397	吉本 尚	総合診療グループ	アルコール健康障害基本法施行で変わるプライマリケアの現場	日本アルコール・薬物医学会雑誌 51巻4号 Page98(2016.08)	平成28年度 日本アルコール・アディクション医学会学術総会 プログラム・講演抄録集	Original Article
398	吉本 尚	総合診療グループ	外来でできる早期スクリーニング 専門治療につなげるために	日本医事新報 4812号 Page26-33(2016.07)	日本医事新報	Original Article
399	吉本 尚	総合診療グループ	周術期の患者管理、こんなときどうする? 3. アルコール多飲、依存症で気をつけることは?	レジデントノート増刊 内科の視点で診る 手術前後の入院患者管理 18巻5号 Page994-1000(2016.06)	レジデントノート増刊 内科の視点で診る 手術前後の入院患者管理	Original Article
400	吉本 尚	総合診療グループ	プライマリケアの現場におけるハーム・リダクション	日本アルコール・薬物医学会雑誌 51巻4号 Page114(2016.08)	平成28年度 日本アルコール・アディクション医学会学術総会 プログラム・講演抄録集	Original Article
401	吉本 尚	総合診療グループ	プライマリケアの現場におけるハーム・リダクション	総合診療のGノート3(3)/pp.547-547, 2016-04	総合診療のGノート	Original Article
402	伊藤 慎	総合診療グループ	指導医の労働状況・指導状況および燃えつき(バーンアウト)について	医学教育 47巻Suppl. Page165(2016.07)	医学教育	Original Article
403	長岡 広香	総合診療グループ	造血幹細胞移植後アデノウイルス出血性膀胱炎による難治性疼痛をきたした2例	Palliative Care Research 11巻Suppl. Page S368(2016.06)	Palliative Care Research	Original Article
404	春田 淳志	総合診療グループ	キャリアとしての医学教育 総合診療はおもしろい～若手医師・学生による活動レポート	レジデントノート 2016年8月号	レジデントノート	Original Article
405	山本 由布	総合診療グループ	家族内の意見がまとまらないご家族	総合診療のGノート 3巻6号 Page1079-1083(2016.09)	総合診療のGノート	Original Article
406	野口 雅之	病理診断診療グループ	HER2の発現染色の解釈は止むを得ないのか? -乳腺症での評価	乳癌の臨床/31(4), 2016	乳癌の臨床	Original Article
407	野口 雅之	病理診断診療グループ	オミックス解析研究のための病理検体の取り扱い標準手法1 凍結組織の採取・保管・移送	病理と臨床 臨時増刊号 癌の分子病理学 /34/pp.21-26, 2016	病理と臨床 臨時増刊号 癌の分子病理学	Original Article
408	竹内 朋代	病理診断診療グループ	ヒト試料バイオバンク-現状と将来性-	Organ Biology/pp.21-28, 2016-01	Organ Biology	Original Article
409	高屋敷 典生	病理診断診療グループ	一地域病院での病理解剖	病理と臨床 【病理解剖の現在-医療における相互検証文化を築くため-】社会との接点 34巻11号 Page1196-1199(2016.11)	病理と臨床 【病理解剖の現在-医療における相互検証文化を築くため-】社会との接点	Original Article
410	柳 久子	遺伝診療グループ	行動プランの有無および自己効力感が1年後の運動行動変容ステージに及ぼす影響	日本プライマリ・ケア連合学会誌 39巻4号 Page227-233(2016.12)	日本プライマリ・ケア連合学会誌	Original Article
411	関根 郁夫	腫瘍内科診療グループ	ASCO Perspective: Raising the Bar for Clinical Trials by Defining Clinically Meaningful Outcomes.	腫瘍内科 17巻4号 Page454-457(2016.04)	腫瘍内科	Original Article
412	関根 郁夫	腫瘍内科診療グループ	末梢神経障害	プロフェッショナルがんナーシング 6巻4号 Page284-289(2016.08)	がんナーシング	Original Article
413	関根 郁夫	腫瘍内科診療グループ	Patient-reported outcomes in the evaluation of toxicity of anticancer treatments.	腫瘍内科 19巻1号 Page107-111(2017.01)	腫瘍内科	Original Article
414	関根 郁夫	腫瘍内科診療グループ	医学教育における症例報告の意義	千葉医学雑誌 93巻1号 Page31-33(2017.02)	千葉医学雑誌	Original Article
415	涌水 理恵	リハビリテーション部	先天代謝異常症児の両親が抱く外来受診時のケアニーズおよび今後の課題～質問紙調査の結果から～	日本小児看護学会第 26 回学術集会 講演集。(一般演題 O-025).2016-11	日本小児看護学会第 26 回学術集会 講演集。(一般演題 O-025).	Original Article
416	涌水 理恵	リハビリテーション部	新生児集中治療室(NICU)看護師が抱く子どものEnd-of Lifeケアに対する困難感	小児保健研究 75巻2号 Page226-235(2016.03)	小児保健研究	Original Article
417	涌水 理恵	リハビリテーション部	先天代謝異常症児と家族の生活の医療社会面の実態	小児保健研究75 巻講演集.116.(一般演題 O2-027) 75巻講演集 Page175(2016.05)	小児保健研究75 巻講演集.116.(一般演題 O2-027)	Original Article
418	涌水 理恵	リハビリテーション部	在宅重症心身障がい児家族の支援ニーズと専門職による重要度および実践度評価—看護職および行政職を対象としたデルファイ法による調査より—	厚生 の指標 63巻4号 Page23-32(2016.04)	厚生 の指標	Original Article
419	涌水 理恵	リハビリテーション部	ペアレんティングプログラムが発達障がい外来に通院中の児・保護者・家族に与えた効果についての定量的・定性的考察	家族看護学研究 21巻2号 Page158-170(2016.03)	家族看護学研究	Original Article
420	磯部 和正	検査部	宅配食の喫色による生活習慣病の改善効果	日本臨床検査自動化学会誌42(1) 26-30 2017年 2月	日本臨床検査自動化学会誌	Original Article
421	本間 真人	薬剤部	抗凝固薬の投与医療品使用の実態	Organ Biology 24巻1号 Page76-80(2017.01)	Organ Biology	Original Article

422	本間 真人	薬剤部	タクロリムスとアゾール系抗真菌薬の薬物相互作用:アゾール系抗真菌薬の種類と投与ルートの影響	医薬品相互作用研究 40巻1-2号 Page9-12(2016.09)	医薬品相互作用研究	Original Article
423	土岐 浩介	薬剤部	ドキシソルピジン投与患者における左室駆出率(LVEF)の測定実態調査	第26回茨城がん学会 要旨集 p72	第26回茨城がん学会 要旨集	Original Article
424	土岐 浩介	薬剤部	薬剤師レジデント研修プログラム「抗がん剤師表の自然後について」	第6回日本薬剤師レジデントフォーラム 要旨集 p42	第6回日本薬剤師レジデントフォーラム 要旨集	Original Article
425	土岐 浩介	薬剤部	HPLCによる血中エルクトロンボグ濃度の測定(第2報)	日本薬学会第137年会 要旨集 137年会4号 Page122(2017.03)	日本薬学会第137年会 要旨集	Original Article
426	本間 真人	薬剤部	免疫抑制薬の後発医薬品使用に関する一考察	Organ Biology 23巻2号 Page150-153(2016.07)	Organ Biology	Original Article
427	本間 真人	薬剤部	タクロリムスとアゾール系抗真菌薬の薬物相互作用 アゾール系抗真菌薬の種類と投与ルートの影響(総説)	医薬品相互作用研究 40巻1-2号 Page9-12(2016.09)	医薬品相互作用研究	Original Article
428	土岐 浩介	薬剤部	日本循環器学会/日本TDM学会合同ガイドライン(2013-2014年度合同研究班報告【ダイジェスト版】 2015年版 循環器薬の薬物血中濃度モニタリングに関するガイドライン	TDM研究 33巻3号 Page123-157(2016.09)	TDM研究	Original Article
429	土岐 浩介	薬剤部	抗不整脈薬の個別適正化と定量的アプローチ	第26回日本医療薬学会年会 要旨集 p50	第26回日本医療薬学会年会 要旨集	Original Article
430	土岐 浩介	薬剤部	ペプリリルの投与量が副作用発現に及ぼす影響	日本病院薬剤師会関東ブロック第46回学術大会 講演要旨集2016-08	日本病院薬剤師会関東ブロック第46回学術大会 講演要旨集	Original Article
431	土岐 浩介	薬剤部	自動車運転等の禁止の記載がある医薬品に関する研究(第4報) 処方実態調査	日本病院薬剤師会関東ブロック第46回学術大会 要旨集2016-08	日本病院薬剤師会関東ブロック第46回学術大会 要旨集	Original Article
432	土岐 浩介	薬剤部	【薬物相互作用 適正なDDIマネジメントを実践するためのポイント】治療域が狭い副作用が出やすい薬剤におけるDDIマネジメントの実践例! メトレキサート	薬局 67巻8号 Page2564-2569(2016.07)	薬局	Original Article
433	土岐 浩介	薬剤部	茨城大学附属病院における薬剤師レジデント研修プログラム(第2報)	第6回日本薬剤師レジデントフォーラム 要旨集p38	第6回日本薬剤師レジデントフォーラム 要旨集	Original Article
434	中田 由夫	つくば臨床医学研究開発機構	身体活動量を測る・活動量計	体育の科学 /66(4)/pp.262-265. 2016-04	体育の科学	Original Article
435	中田 由夫	つくば臨床医学研究開発機構	ランダム化比較試験と運動疫学	体力科学 65巻1号 Page49(2016.02)	体力科学	Original Article
436	中田 由夫	つくば臨床医学研究開発機構	質問紙で評価した身体活動ガイドライン達成者の活動レベル	体力科学 65巻1号 Page156(2016.02)	体力科学	Original Article
437	中田 由夫	つくば臨床医学研究開発機構	信頼できる健康情報の見分け方・発信の仕方	中京大学体育研究所紀要/31/pp.59-64. 2017-03	中京大学体育研究所紀要	Original Article
438	中田 由夫	つくば臨床医学研究開発機構	未来のためにできること②運動編	糖尿病ケア 13巻11号 Page993-995(2016.11)	糖尿病ケア	Original Article
439	橋本 幸一	つくば臨床医学研究開発機構	表面加工玄米のヒト介入試験による機能性評価	JATAFF ジャーナル 55巻5号 Page345-350(2017.04)	JATAFF ジャーナル	Original Article
440	藤江 敬子	つくば臨床医学研究開発機構	自宅外心臓停止事例における市民によるAED使用状況 水戸市消防本部のデータから	茨城県救急医学会雑誌 39号 Page46-47(2016.04)	茨城県救急医学会雑誌	Original Article
441	柳 健一	つくば臨床医学研究開発機構	整形外科・歯科領域コンビネーション製品評価指標素案の作成ー革新的医薬品・医療機器・再生医療製品実用化促進事業による取組ー	レギュラトリーサイエンス学会誌2012-01	レギュラトリーサイエンス学会誌	Original Article
442	上野 悟	つくば臨床医学研究開発機構	臨床試験の品質向上を目指した統計学を用いたモニタリングの検証	第22回ヘルスリサーチフォーラム及び平成27年度研究助成金贈呈式講演録p70-76	第22回ヘルスリサーチフォーラム及び平成27年度研究助成金贈呈式 講演録	Original Article
443	中田 由夫	つくば臨床医学研究開発機構	質問紙法による定量的評価	体育の科学 66巻6号 Page397-401(2016.06)	体育の科学	Original Article

計443件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 目的と適用範囲，病院長の責務，研究者等の責務，研究計画書に関する手続き・記載事項，研究に関する登録・公表，倫理審査委員会の役割・責務等，重篤な有害事象への対応，モニタリング及び監査，審査の手順等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適切な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 マネジメントの原則，利益相反委員会，申告内容，申請手順 等	
③ 利益相反を審査し、適切な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年11回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年11回
・ 研修の主な内容 治験に係る規則・ガイドライン及び実施に必要な知識 臨床研究に係るガイドライン及び実施体制と信頼性の確保 プロトコルデザイン，インフォームドコンセント，有害事象報告， データ収集，モニタリング計画・実施・報告，生物統計，知財の取得 他	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

後期研修の内容 別紙 1 のとおり
-------------------

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	204人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
別紙 2 のとおり			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

## 総合診療コース：研修総合診療コース：研修プログラム プログラム

『つくば家庭医・病院総合医プログラム (筑波大学附属病院 総合医コース) ホームページ』  
より、下記に具体的な内容を載せております。どうぞご覧ください。

- つくば家庭医・病院総合医プログラム  
<http://soshin.pemed-tsukuba.jp/training/specialsite/program/>
- 『筑波総合診療グループ：研修で身につく4つの力』
- 『筑波総合診療グループ：一緒にありませんか？あなたのなりたい医師に。』

「ひとびとの健康を支えるオールラウンダー」をめざして



ホーム Programs [これが筑波流！後期研修](#) つくば家庭医・病院総合医プログラム

これが筑波流！後期研修
つくば家庭医・病院総合医プログラムとは
つくば家庭医・病院総合医プログラム
特長
目標
研修ローテーション
評価とサポート
研修施設
将来のキャリアパス
採用情報
先輩からのメッセージ
茨城・つくばの紹介
Q & A

つくば家庭医・病院総合医プログラム※は、シニア課程（卒後3,4年目）、チーフ課程（卒後5,6年目）から構成されており、専門医取得後のフェロースhipも用意されています。  
シニア課程はジェネラリストの基本を形作る共通コースです。チーフ課程はそれぞれの希望に合わせて選択する構成になっています。具体的には下記の家庭医コース、病院総合医コースを基本として、より多くの先生方のニーズに答えるために水戸協同病院重点 病院総合医コース、緩和ケア重点コース、ジェネラリスト転向コースを用意しています。

- | フェロースhip  | 指導医  | 大学院  |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 病院総合診療</li> <li>● 緩和医療</li> <li>● 多職種連携教育</li> <li>● プログラム責任者養成</li> <li>● 在宅医療</li> <li>● スポーツ医学</li> <li>● ヘルスプロモーション</li> <li>● Elective</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 大学院</li> <li>● 病院</li> <li>● 診療所</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域医療教育学</li> <li>● がんプロフェッショナルプラン</li> <li>● 公衆衛生修士(MPH)</li> </ul> |

つくば家庭医・病院総合医プログラム 修了(専門医受検資格)

▶ 家庭医コース		▶ 病院総合医重点コース	
チーフ2年	診療所(在宅含む)	チーフ2年	水戸協同病院 総合診療科
チーフ1年	小児+婦人+整形外科+緩和	チーフ1年	小児科+地域の中小病院+ Elective(異種別内科など)
▶ 共通コース			
シニア2年	筑波メディカルセンター病院 総合診療科	診療所(在宅含む)	
シニア1年	大学病院(内科+総合診療科)	水戸協同病院 総合診療科	

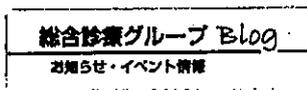
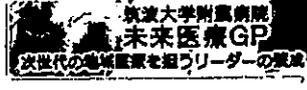
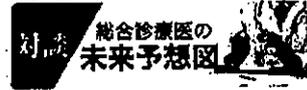
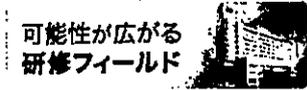
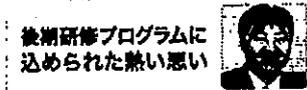
初期臨床研修 修了

※「つくば家庭医・病院総合医プログラム」の、筑波大学附属病院後期専門研修課程としての正式名称は「総合診療医コース」です。

研修ローテーションの概要

シニア課程

シニア課程は共通コースとして、大学病院（内科+総合診療科）、水戸協同病院総合診療科、筑波メディカルセンター病院総合診療科、診療所で半年ずつ研修します。内科・救急診療能力を向上させ、各診療分野での知識・技能をintegrateするとともに、総合診療の専門的な視点についてしっかりとした基盤を作る研修を行います。また、この期間に、日本内科学会認定内科医の資格を取得します。 > 詳細はこちら





なお、水戸協同病院での研修にウエイトを置きたい人は、シニア課程の最初の1年間をすべて水戸協同病院で研修する水戸協同病院重点コースを選択することも可能です。

なお、ジェネラリスト転向コースは、これまでのキャリアを勘案しつつ、個別に研修計画を組みます。ある程度の臨床経験をもつ医師は、シニア2年からの編入になります。

**チーフ課程**

チーフ課程ではレジデントの希望に合わせて以下の5つのコースに分かれ、それぞれに重点を置いた研修をします。

**家庭医コース**

将来は地域の診療所や中小病院で小児から高齢者、外来から在宅まで幅広く対応するだけでなく、介護・福祉資源との連携、健康教育、学校保健、保健行政などの地域保健にも積極的に関わり地域で活躍できる総合診療専門医を目指します> [詳細はこちら](#)

**病院総合医コース**

内科を中心とした幅広い知識と診断能力を修得し、将来は地域の基幹病院や中小病院で病棟、外来、救急と様々なフィールドで活躍できる総合診療専門医を目指します> [詳細はこちら](#)

**水戸協同病院重点 病院総合医コース**

豊富な症例、充実した指導医群、そして内科診療は原則すべて総合診療科という我が国唯一の「総合内科Department of Medicine」体制を採用している水戸協同病院での研修を重点的に行いながら総合診療専門医を目指します。

水戸協同病院重点 病院総合医コース		
つくば家庭医・病院総合医プログラム 修了(専門医受験資格)		
水戸協同病院重点 病院総合医コース		
チーフ2年	小児科	大学 総合診療科 Elective (臓器別内科など)
チーフ1年	水戸協同病院 総合診療科・救急診療科	
共通コース		
シニア2年	筑波メディカルセンター病院 総合診療科・救急診療科	診療所(在宅含む)
シニア1年	水戸協同病院 総合診療科	

**緩和ケア重点コース**

全国有数の緩和ケアの研修環境を持つメリットを最大限に活用して、緩和ケア研修を重点的に行いながら総合診療専門医を目指します。

緩和ケア重点コース		
つくば家庭医・病院総合医プログラム 修了(専門医受験資格)		
緩和ケア重点コース		
チーフ2年	在宅緩和ケアを行っている診療所	
チーフ1年	緩和ケア病棟/緩和ケアチーム	内科
共通コース		
シニア2年	筑波メディカルセンター病院 総合診療科・救急診療科	小児科
シニア1年	筑波メディカルセンター病院 緩和診療科	大学病院 (内科+総合診療科)

**ジェネラリスト転向コース**

すでに他科の専門研修を終えられている先生や、出産・育児休暇などで臨床にブランクのある先生が、これから家庭医療専門医(将来の総

ジェネラリスト転向コース	
つくば家庭医・病院総合医プログラム 修了(専門医受験資格)	
3年目	診療所(在宅含む)

学会発表または論文発表を2件以上行っていること。  
 内科認定医を取得していること。  
 全てのコースで日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医（新専門医制度スタート後は総合診療専門医）の受験要件を満たすこと。



研修ローテーション



評価とサポート



特長



目標

### 現役レジデントがつくばの研修を語る

座談会を記事にまとめました。総合診療、家庭医療を目指すきっかけについて語る「どうして総合診療なの?」。「つくば」を選んだ決め手について語る「つくばの研修の特徴は?」。どうぞご覧ください。



どうして総合診療なの?



つくばの研修の特徴は?

2020年度までのプログラムはこちらをご覧ください。

▶ 研修プログラム書2017

↑ ページの先頭に戻る

#### About Us

- ご挨拶
- 理念と目標
- わたしたちの目指すもの
- スタッフ紹介
- レジデント・大学院生紹介
- 書籍紹介
- メディア記事紹介
- 研究業績

#### Fields

- 附属病院総合診療科
- 水戸協同病院総合診療科
- 筑波メディカルセンター病院
- 総合診療科
- 地域医療
- 教育ステーション

#### Programs

- これが筑波流！後期研修
- フェロー&大学院プログラム

#### Education&Research

〒305-8576

茨城県つくば市天久保2-1-1  
 筑波大学附属病院総合診療グループ

「ひとびとの健康を支えるオールラウンダー」をめざして

## 消化器内科コース：研修プログラム

### 研修目標

消化器内科診療の全領域を経験し専門医を目指す。

### プログラム例

- ・ 後期研修1年目 (S1)

消化器内科診療の基本的事項を学びます。また、内科各科を2ヶ月毎にローテーションすることも可能です。

- ・ 後期研修2年目 (S2)

消化器内科の基礎や消化管内視鏡、腹部超音波検査等の検査手技をしっかりと習得します。

- ・ 後期研修3・4年目 (C1、C2)

病棟診療の統括、外来診療、内視鏡的腫瘍切除や内視鏡的胆管結石切除術吐血患者への止血処置等の治療手技を習得します。

S2 から C2 までの3年間に筑波大学附属病院と関連病院の両者での研修を行い、プライマリーケアから高度診療まで幅広い疾患への対応や、数多くの検査・治療の技術が習得できるプログラムです。

### 取得できる資格（認定医等）

日本内科学会認定内科医、認定内科専門医

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会専門医

日本肝臓学会専門医

### 経験できる疾患

食道癌、胃癌、大腸癌、膵臓癌、肝臓癌、胆嚢癌、胆管癌、食道静脈瘤、逆流性食道炎、胃・十二指腸潰瘍、胃炎、胃ポリープ、痔炎、胆道炎、胆石、ウイルス性肝炎、アルコール性肝炎、肝硬変、薬剤性肝障害、劇症肝炎、脂肪肝、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変、肝血管腫、門脈圧亢進症、体質性黄疸、虫垂炎、憩室炎、炎症性腸疾患、腸ポリープ、蛋白漏出性胃腸症、吸収不良症候群、過敏性腸症候群、血管閉塞性腸疾患、イレウス、消化管カルチノイドなど

## 経験できる手技・検査

上部消化管内視鏡 (S1)、下部消化管内視鏡 (S2)、ポリペクトミー (S2)、超音波内視鏡 (EUS) (S2)、内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP) (S2)、内視鏡的乳頭バルーン拡張術 (EPBD) (C1)、内視鏡的経鼻胆管ドレナージ (ENBD) (C1)、内視鏡的粘膜切除術 (EMR) (C1)、内視鏡的粘膜剥離術 (ESD) (C1)、内視鏡的静脈瘤結紮術 (EVL) (C1)、内視鏡的硬化療法 (EIS) (C1)、アルゴンプラズマ凝固法 (APC) (S2)、腹部エコー (S1)、肝生検 (S2)、経皮的エタノール注入療法 (PEIT) (S2)、ラジオ波焼灼療法 (RFA) (S2)、経皮経肝胆道ドレナージ (PTCD) (S2)、経皮経肝胆嚢ドレナージ (PTGBD) (S2)、上部消化管造影 (S2)、下部消化管造影 (S2)、イレウス管挿入 (S1)、腹部血管造影 (S2)、TAI/TAE (S2)、各種ステント挿入術 (S2)、消化器癌化学療法 (S2-C2)

## 経験できる手術 (術者)

\*

## 経験できる手術 (助手)

\*

## 循環器内科コース：研修プログラム

### 研修目標

1. 循環器内科医として必須の新しい各種診断、治療法の技術を身につける。
2. いずれかの臨床医学あるいは基礎医学研究班に所属して、将来の進路を自主的に選択する。
3. 自らの最も得意な循環器専門分野を開拓する。

### プログラム例

### 取得できる資格（認定医等）

卒後6-8年で内科認定医、内科専門医、循環器内科専門医

### 経験できる疾患

心不全（うっ血性心不全、右心不全、心臓再同期療法が必要となる重症心不全など）  
先天性心疾患（心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、Fallot 四徴症（術後）、  
動脈管開存症、冠動脈起始異常など）  
弁膜疾患（大動脈弁狭窄症・閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症・閉鎖不全症など）  
心膜疾患（急性心膜炎、収縮性心膜炎など）  
心筋疾患（心筋炎、肥大型心筋症、拡張型心筋症、心サルコイドーシス、  
心アミロイドーシス、二次性心筋症など）  
虚血性心疾患（急性心筋梗塞、労作狭心症、冠攣縮性狭心症、異型狭心症など）  
肺性心疾患（肺性心、肺動脈血栓塞栓症、原発性肺高血圧症など）  
大動脈疾患（大動脈炎症候群、心血管梅毒、解離性大動脈瘤、Marfan 症候群など）  
不整脈（心室頻拍、心房細動、心房粗動、上室性頻拍、心房頻拍、WPF 症候群、  
Brugada 症候群、特発性心室細動、房室ブロック、洞不全症候群など）

### 経験できる手技・検査

心臓超音波検査、経食道心臓超音波検査、負荷（運動、薬剤）心電図検査、  
24 時間（ホルター）心電図検査、心臓核医学検査、中心静脈カテーテル挿入、  
スワンガンツカテーテル挿入、観血的動脈モニターライン挿入、心嚢ドレナージ挿入、  
体外式ペースメーカー挿入、心臓カテーテル検査、心臓電気生理学的検査

### 経験できる手術（術者）

経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈内ステント留置術、経皮的冠動脈内血栓吸引術、  
 経皮的心筋焼灼術（アブレーション）、経皮的肺静脈隔離術、心臓同期療法、  
 大動脈内バルーン・パンピング挿入、経皮的心肺補助循環挿入、一時的ペースメーキング

**経験できる手術（助手）**

同上、経皮的冠動脈内粥腫切除術、ロータブレード、経皮的冠動脈内血栓吸引術、  
 経皮的僧帽弁切開術、経皮的動脈管コイル閉鎖術

**一般的な4年間の研修予定**

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1	茨城西南医療センター病院（内科2か月ずつ）					筑波記念病院（内科2か月ずつ）						
S2	なめがた地域総合病院循環器内科研修						日製ひたちなか総合病院循環器内科研修					
C1	日製ひたちなか総合病院循環器内科研修											
C2	大学附属病院循環器内科研修											

学 年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1	水戸医療センター内科研修（血液内科、神経内科、消化器内科）						筑波大学附属病院内科研修（膠原病内科、腎臓内科、内分泌代謝内科）					
S2	筑波大学附属病院循環器内科研修						筑波メディカルセンター病院循環器内科研修					
C1	日立製作所ひたちなか総合病院循環器内科研修											
C2	水戸協同病院循環器内科研修											

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1	茨城県立中央病院循環器内科研修											
S2	鹿ヶ崎済生会病院循環器内科研修											
C1	筑波大学附属病院循環器内科研修											
C2	日立製作所日立総合病院循環器内科研修											

## 呼吸器内科コース：研修プログラム

### 研修目標

筑波大学附属病院にて稀少疾患や高度先進医療を経験するほか、各関連病院で結核、HIVなどの感染症、肺癌、塵肺、高齢者特有の合併症を有する複合的疾患などを経験し、4年間の研修期間を通じて呼吸器疾患に対する診療技術を包括的に習得していきます。さらに、日本内科学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本アレルギー学会、がん治療認定医機構、日本臨床腫瘍学会の認定施設で研修することによって、各学会の認定医・専門医を取得する準備をします。

### プログラム例

1. 呼吸器専門医養成コース
2. 気管支鏡専門医養成コース

### 取得できる資格（認定医等）

日本内科学会認定内科医  
日本内科学会総合内科専門医  
日本呼吸器学会専門医  
日本呼吸器内視鏡学会専門医  
日本アレルギー学会専門医  
日本結核病学会結核抗酸菌認定医  
がん治療認定医機構認定医 等

### 経験できる疾患

肺癌、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、感染性肺疾患、間質性肺疾患（特発性間質性肺炎、好酸球性肺炎、過敏性肺炎、薬剤性肺炎、膠原病肺など）、塵肺症、気管支拡張症、気胸、睡眠時無呼吸症候群、肺血栓塞栓症、サルコイドーシス、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症、肺胞蛋白症、リンパ脈管筋腫症、好酸球性肉芽腫症、Goodpasture 症候群、Wegener 肉芽腫症、アレルギー性肉芽腫性血管炎

### 経験できる手技・検査

気管内挿管、気管支鏡検査、超音波気管支鏡ガイド下針生検、経皮肺生検、胸腔穿刺およびドレーン留置、局所麻酔科胸腔鏡、人工呼吸器の導入および管理

### 経験できる手術（術者）

\*

経験できる手術（助手）

\*

一般的な4年間の研修予定

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1	筑波大学附属病院 6か月/水戸協同病院（総合診療）6か月											
S2	西南医療センター病院											
C1	茨城東病院											
C2	鹿ヶ崎済生会病院/筑波大学附属病院											

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1	筑波メディカルセンター病院											
S2	筑波学園病院											
C1	筑波大学附属病院											
C2	日製日立総合病院											

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1	ひたちなか総合病院（総合内科）6か月/霞ヶ浦医療センター6か月											
S2	水戸医療センター											
C1	茨城県立中央病院											
C2	筑波メディカルセンター/筑波大学附属病院（アカデミックレジデント）											

## 腎泌尿器内科コース：研修プログラム

### 研修目標

たえず患者様を慮り、総合内科という広い視野に加えて腎臓内科という専門的な視点から包括的な医療を提供できる医師を育成する。

### プログラム例

後期研修 1、2年目

高血圧症、糖尿病など多くの総合内科疾患・腎臓病を経験しながら、腎臓内科医として不可欠な技術を習得する。

後期研修 3、4年目

引き続き総合内科・腎臓内科診療を経験しつつ、初期研修医の指導法やチーム医療における診療能力などを習得する。国内外の学会や論文発表を行う。

### 取得できる資格（認定医等）

日本内科学会認定内科医、同総合内科専門医

日本腎臓学会専門医

日本透析医学会専門医

日本アフエレーシス学会専門医

日本高血圧学会専門医

日本移植学会認定医

### 経験できる疾患

腎炎・ネフローゼ症候群、急性腎障害、慢性腎不全、糖尿病性腎症、膠原病に伴う腎障害、高血圧症、維持透析患者における種々の疾患、腎移植

### 経験できる手技・検査

腎泌尿器エコー、腎生検、シャントエコー、血液透析・血漿交換等の血液浄化療法、腹膜透析

経験できる手術（術者）

内シャント設置術

経験できる手術（助手）

グラフト設置術、シャント拡張術、腹膜透析カテーテル出口部形成術

一般的な4年間の研修予定

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
S1													大学病院 S1 レジデント	
S2													大学病院 S2 レジデント（半年）	腎臓内科医として院外研修（半年）
C1													腎臓内科医として院外研修	
C2													大学病院 C2 レジデント	

## 内分泌代謝・糖尿病内科コース：研修プログラム

### 研修目標

1. 糖尿病、高脂血症、高血圧、そしてそれらの合併症の評価および管理、および、種々の内分泌疾患の診療を中心に、内科医としての基本的な技術を身につける。
2. Problem Oriented System (POS) に従って病歴、身体所見、検査データからプロブレムを挙げ、系統立てて鑑別診断を進める、内科診療の基本を確立する。
3. 栄養管理（栄養士）、日常生活管理（看護師）をはじめ、虚血性心疾患、脳血管疾患、足壊疽、糖尿病性合併症を通じ、関連各部署・診療科との連携、チーム医療ができる内科総合医としての力量の獲得をめざす。
4. Evidence Based Medicine (EBM) を実践し、いかにして種々のエビデンスを実際の診療に活かしていくかを学ぶ。

### プログラム例

#### 代表的な研修例

3年目 筑波大学内科後期研修コース、シニアレジデント1年（S1）への編入

（日本内科学会認定医の取得要件を満たすように、不足している内科研修を行います。当科の研修も2～6ヶ月行います。）

4年目 内分泌代謝・糖尿病内科コース、S2研修（大学病院と関連病院を6ヶ月間ずつ）（注2）（注5）

（大学では、より専門性の高い入院症例を直接受け持つとともに、週2回、地域の糖尿病外来の外勤があります。関連病院では、病棟業務を中心に研修を行います。）

5年目 内分泌代謝・糖尿病内科コース、チーフレジデント1年（C1）研修

6年目 内分泌代謝・糖尿病内科コース、C2研修（半年交替）

（大学1年、関連病院1年が基本ですが、研修医の希望により変わります。大学では、副主治医として病棟での診療の中心となって、主治医と相談しながらですが、診療方針を決定していきます。また、初期研修医（受持医）の指導もします。いわゆる屋根瓦方式の教育システムの中核となります。関連病院では、病棟のみならず、外来診療もします。退院後の患者さんを外来で継続的に診療することは、貴重な経験になります。）

- ・注1：筑波大学内科後期研修コースとの密接なリンクによる日本内科学会認定医（すべての内科系専門医の基本資格）の取得支援になります。選択研修として内分泌代謝・糖尿病内科を加えることをお勧めいたします。
- ・注2：S2では、より専門性の高い入院症例を直接受け持つとともに、週2回、地域の糖尿病外来の外勤があります。市中病院では、病棟の実働能力として期待されるとともに、実力も大きく成長する一年になるでしょう。
- ・注3：大学病院のチーフレジデントは、直接患者を受け持ちませんが、病棟全体を把握し日々の細かなDecision makingの多くが任されます。勿論、困難な場合には指導医が強固にバックアップしていますので、不安を感じる必要はありません。市中病院では、実際の病棟運営の大半をまかされ、いよいよ、一人前の内科医として診療の中核に立つことになります。対診を通じ、総合内科専門医（日本内科学会）の必要症例を経験できます。
- ・注4：S2～C1、C1～C2において、可能な場合はなるべく人員交替が生じないように、学年を跨いで1年間大学病院研修となる場合があります。また、各学年で研修する市中病院は複数あるため、様々な病院の現場を体験することができます。
- ・注5：市中病院研修中の給与体系は、原則、研修先病院のものが適用されます。

### 取得できる資格（認定医等）

日本内科学会認定医（3年目以降）。

日本内科学会認定専門医、日本糖尿病学会糖尿病専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医（研修終了時～終了2年後）

### 経験できる疾患

糖尿病、高脂血症、痛風、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、下垂体疾患、副腎疾患、膵内分泌疾患、性腺疾患など

### 経験できる手技・検査

甲状腺および頸動脈超音波検査（専門医の指導を受けながら習得することが可能です）  
各種内分泌学的負荷試験

### 経験できる手術（術者）

\*

### 経験できる手術（助手）

# 膠原病リウマチアレルギー内科コース:研修プログラム

## 研修目標

\*

## プログラム例

### 専門医基礎研修（後期研修）

原則として後期研修の2年間に専門医の基礎を身につける研修を行っている。

この間に膠原病診療のいろはに加えて、症例報告や臨床研究、論文の手法を学ぶ。

他診療機関の膠原病リウマチ診療や膠原病と同様に全身疾患を診療する救急医療や総合診療の研修を希望する場合は専門医基礎研修の前後のいずれかに1年間の設定が可能である。

### 専門医研修

3年目以降の2~4年間で行う専門医としての診療技術を習得するための研修。

当院以外の膠原病・リウマチ性疾患を診療するさまざまな病院での研修により、膠原病・リウマチ性疾患の診療の奥行きを理解してもらうことが可能である。

また、博士課程への進学により膠原病・リウマチ性疾患の基盤となる臨床免疫学の研究に習熟することで、疾患の診断・治療に幅ができる。

## 取得できる資格（認定医等）

日本リウマチ学会認定リウマチ専門医・日本リウマチ財団登録医

日本アレルギー学会認定アレルギー専門医

日本内科学会認定総合内科専門医・日本内科学会認定内科医

## 経験できる疾患

関節リウマチ、悪性関節リウマチ、血清反応陰性脊椎関節症（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、反応性関節炎など）、ベーチェット病、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎/皮膚筋炎、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、IgG4関連疾患、抗リン脂質抗体症候群、成人発症スチル病、リウマチ性多発筋痛症、側頭動脈炎、結節性多発動脈炎、大動脈炎症候群、顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症（Wegener肉芽腫症）、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（アレルギー性肉芽腫性血管炎）、アレルギー性紫斑病、クリオグロブリン血症 など

## 経験できる手技・検査

全身性疾患を診察するため、臓器別の他の専門グループともタイアップのうえ、さまざまな検査をグループ内で行います。

関節穿刺、腰椎穿刺、胸腔穿刺、骨髄穿刺、中心静脈カテーテル挿入、心エコー、腹部エコー、上部消化管内視鏡、生物学的製剤の使用、関節エコー、手専用コンパクトMRI など

#### ■ 経験できる手術（術者）

特にありません。

#### ■ 経験できる手術（助手）

特にありません。

## 血液内科コース：研修プログラム

### 研修目標

\*

### プログラム例

一般内科学の基礎を身に付け総合的な視野も持ち合わせた上で、血液疾患の専門診療に携われる専門医の養成。

チーフレジデントの1年間において関東有数の骨髄移植件数を誇る都立駒込病院などにおいて移植医療を中心とした専門的な研修ができる。

ジュニアレジデント修了以降、大学院に入学し研究に従事した後に臨床研修を再開できるなど、自由度の高い研修プログラムを組むことが可能。

### 取得できる資格（認定医等）

内科認定医、内科専門医、血液専門医。

卒後7～10年でほぼ全員が内科専門医、血液内科専門医の資格を有する。

### 経験できる疾患

造血器腫瘍（白血病や悪性リンパ腫）、貧血をきたす各種疾患、出血性疾患、血栓性疾患、免疫異常症、免疫抑制にともなう重症感染症、造血幹細胞移植後に全身に起こる様々な合併症

### 経験できる手技・検査

骨髄穿刺、骨髄生検、ドナーリンパ球輸注、中心静脈カテーテル挿入、腰椎穿刺（髄液採取）、造血器腫瘍の化学療法、輸血、末梢血幹細胞採取、末梢血及び骨髄標本の染色および報告書作成、

造血抑制患者の無菌管理

### 経験できる手術（術者）

骨髄採取術（血縁）、自己末梢血幹細胞移植、同種末梢血幹細胞移植（血縁）、同種骨髄移植（血縁、非血縁）、臍帯血移植、骨髄非破壊的造血幹細胞移植

### 経験できる手術（助手）

骨髄採取術（血縁）、自己末梢血幹細胞移植、同種末梢血幹細胞移植（血縁）、同種骨髄移植（血縁、非血縁）、臍帯血移植、骨髄非破壊的造血幹細胞移植 CD34 純化造血幹細胞移植（自家）

## 神経内科コース：研修プログラム

### 研修目標

\*

### プログラム例

後期研修医1年目・・・内科各科を2ヶ月毎にローテーションします（神経内科のみでなく、

内科一般を幅広く研修し日本内科学会認定医取得に十分な疾患を経験できるようにします）。

2年目・・・大学病院または神経内科関連病院

3年目・・・大学病院または神経内科関連病院

### 取得できる資格（認定医等）

日本内科学会認定医（3年目修了後）・専門医（認定医取得後3年）

日本神経学会専門医（6年目）

日本老年病専門医（6年目）

### 経験できる疾患

- 脳血管障害  
脳梗塞、脳出血など
- 神経変性疾患  
パーキンソン病、アルツハイマー病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など
- 脱髄疾患  
多発性硬化症など
- 炎症性疾患  
脳炎、髄膜炎、脊髄炎など
- 脊椎疾患  
変形性脊椎症・椎間板ヘルニアによる脊髄症や神経根症など
- 末梢神経障害  
ギラン・バレー症候群、CIDP：慢性炎症性脱髄性多発神経根炎など

- 筋疾患  
筋炎、重症筋無力症、ミトコンドリア脳筋症、筋ジストロフィー症など
- 発作性疾患  
頭痛、てんかん、神経痛、めまい、失神など
- 全身疾患に伴う神経症状  
糖尿病性神経障害、パーキンソン病、膠原病、傍腫瘍症候群など
- 不随意運動  
振戦、ジストニア、ジスキネジア、ミオクローヌスなど
- その他  
身体各所の痛み、不快感、しびれ、脱力、意識・意欲・気分・感情の変化疲労感、  
睡眠障害などの神経症状や症候を呈する場合など

### 経験できる手技・検査

髄液検査、末梢神経・筋生検、脳・脊髄の神経病理学的所見、神経免疫学的検査、自律神経機能検査、筋電図（針筋電図、末梢神経神経伝導検査、誘発筋電図、表面筋電図）、脳波、誘発電位、磁気刺激による神経生理学的検査、眼振図、画像診断一般（CT、MRI、SPECT、PETなど）

### 経験できる手術（術者）

神経・筋生検

### 経験できる手術（助手）

神経・筋生検

### 一般的な4年間の研修予定

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1			筑波大学附属病院 脳神経内科		ないし 関連研修施設							
S2			筑波大学附属病院 脳神経内科									
C1			筑波大学附属病院 脳神経内科									
C2			筑波大学附属病院 脳神経内科									

## 感染症内科コース：研修プログラム

### 研修目標

感染症コンサルタントとして主治医をサポートできること、学生やローテーターの指導を行えること、また院内の感染管理の一翼を担えるようになることを目標としています。また、興味のある分野でのリサーチも積極的に支援していきます。

### プログラム例

一般病院、大学病院での研修をそれぞれの希望に応じて行います。大学病院で研修する際には基本的な細菌学的検査の手法を身につけて頂きます。

### 取得できる資格（認定医等）

内科認定医  
感染症専門医  
ICD（インфекションコントロールドクター）

### 経験できる疾患

一般感染症  
HIV感染症  
輸入感染症  
院内感染症など

### 経験できる手技・検査

細菌検査・寄生虫検査・ウイルス検査・希望により分子生物学的手法

## 小児科コース：研修プログラム

### 研修目標

日本小児科学会認定小児科専門医

### プログラム例

1. 小児科医入門 1年  
大学病院・こども病院において、指導医のもとで小児医療の基本的な考え方を身につけ、専門医試験で問われるさまざまな領域の臨床経験を積みます。
2. 新生児 6ヶ月～  
大学病院・こども病院など総合周産期医療センターNICUで新生児蘇生・搬送、低出生体重児や新生児疾患の治療などの経験を積みます。
3. 小児一般臨床 1年  
各市中病院で一次～二次の一般小児科診療に携わります。総合診療、救急、トリアージ、健診など市中病院小児科医としての臨床能力を養います。
4. チーフレジデント 1年  
大学病院で自らが初期研修医を指導します。教官の監督下で副主治医となり、重大な方針決定や患者家族への説明、長期フォローアップなどを学びます。病棟の実質的な代表者としての経験を積みます。
5. 選択研修 6ヶ月～  
各人の希望する領域に応じて、各種施設で選択研修を行います。

### 取得できる資格（認定医等）

日本小児科学会認定小児科専門医

日本小児循環器学会専門医

日本周産期・新生児医学会専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本小児神経学会認定小児神経科専門医

日本アレルギー学会認定アレルギー専門医

日本小児血液・がん学会専門医

## 経験できる疾患

### 1. (小児血液疾患)

小児造血器腫瘍・小児固形腫瘍・小児脳腫瘍(以上の小児がん患者は常時20人前後入院診療)、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、原発性免疫不全症候群、良性血液疾患

### 2. (小児神経疾患)

発達の遅れ(脳性麻痺、精神遅滞、自閉症など)や難治性てんかんといった疾患以外に、脳外科・小児外科と連携して、水頭症、くも膜嚢胞、脊髄髄膜瘤・キアリ奇形、ダンディークウォーカー症候群など先天性脳奇形児、重症心身障害児の診療に携わっています。このほか、筋疾患、代謝性疾患(ミトコンドリア病など)、変性疾患など小児神経分野全般に及び、他科と連携した幅広い診療を行っています。

### 3. (小児消化器疾患)

炎症性腸疾患、胆道閉鎖性、肝移植後症例、先天性小腸疾患など。肝移植が可能であるため門脈圧亢進症の極期や劇症肝炎の管理は肝移植チームとして連携して行い、他施設で得にくい管理のノウハウを学べます。ほか、C型慢性肝炎、B型慢性肝炎、自己免疫性肝炎、新生児肝炎、原発性硬化性胆管炎、進行性家族性肝内胆汁うっ滞症、先天性肝線維症、Caroli病、嚢胞性線維症、先天性門脈欠損症、血管腫による門脈体循環シャント例、また糖尿病など各種代謝異常にも遭遇します。

### 4. (小児循環器疾患)

全ての先天性心疾患、川崎病、冠動脈瘤、心筋症、肺高血圧症、小児期不整脈、胎児心臓病

### 5. (新生児)

新生児疾患全般(総合周産期母子医療センターとして新生児の三次医療を行っており、低出生体重児だけでなく、子宮内診断症例、胎児治療症例、その他循環器、小児外科疾患を含めた複雑な合併症を有する胎児・新生児症例が経験できます。)

### 6. (小児内分泌疾患)

成長ホルモン分泌不全症、SGA性低身長症、下垂体機能低下症、尿崩症、思春期早発症、ターナー症候群、クレチン症、バセドウ病、橋本病、ブラダーウィリー症候群、先天性軟骨無形成症、先天性副腎過形成症、先天性代謝異常症、糖尿病、肥満症、高脂血症、高インスリン血症性低血糖症、ネフローゼ症候群、IgA腎症

## 経験できる手技・検査

### 1. (小児血液)

集学的診療(小児外科、脳神経外科、放射線腫瘍科、放射線診断・IVRグループ、陽子線医学利用研究センター、遺伝子細胞治療グループ、輸血部、遺伝子検査室等との共同診療・臨床研究)、トータルヒューマンケア(総合周産期母子医療センター、精神医学、病態栄養部、総合がん診療センター、医療福祉支援センター、附属病院以外の障害科学、看護学、発達臨床心理学、教育学など各研究室との幅広い協力関係による実践)、自家造血幹細胞移植、同種造血幹細胞移植、遺伝子細胞療法、緩和医療、ターミナル・ケアその他、小児がん・血液疾患の診療に必要な手技、プロトコール治療、臨床試験、種々の行政手続等。

### 2. (小児神経)

ビデオ脳波同時記録、各種誘発電位、末梢神経伝導速度検査、針筋電図、筋生検

### 3. (新生児)

新生児蘇生術、NRP準拠、新生児集中治療に必要な手技(気管内挿管、中心静脈路確保、臍帯動脈路確保、胸腔穿刺、NO吸入療法、脳低温療法、症例に応じてECMO、腹膜透析、CHDFなど)

### 4. (小児消化器)

透視下十二指腸チューブ挿入、腹部超音波、注腸造影、消化管内視鏡、肝生検

### 5. (小児循環器)

心臓カテーテル検査、カテーテル・インターベンション(バルーン拡張術、コイル塞栓術、BASなど)、心臓電気生理学的検査、カテーテルアブレーション、体外ペーシング、心エコー検査、心電図、運動負荷心電図、ホルター心電図、胎児心エコー、胎児心磁図検査、窒素ガスによる低酸素換気療法

### 6. (小児内分泌)

下垂体機能検査(ホルモン分泌刺激試験)、水制限試験、ブドウ糖負荷試験、Rapid ACTHテスト、経皮的腎生検、DNA/RNA抽出、遺伝子解析

## 経験できる手術(術者)

## 経験できる手術(助手)

## 精神科神経科コース：研修プログラム

### 研修目標

\*

### プログラム例

あなたのご希望が第一と考えています。そのご希望に沿うよう、4年間の研修はできる限りフレキシブルなものとしします。

筑波大学精神神経科は、医学教育において定評ある本学の各診療科の中でも、ひとときわ教育・指導に熱心で工夫を凝らしていると自負しています。まずは附属病院精神神経科で基本をしっかり体得してください。その上で、児童、老人、嗜癖などご希望のジャンルに応じた研修病院派遣を考えます。多くの病院や研究機関と密接な交流がありますから、どのようなコースを歩まれても必ずご満足いただけるプランを作成します。

- 例1：  
筑波大学附属病院（3年目）→国立病院機構精神科（4年目）→私立病院精神科（5年目）→筑波大学附属病院（6年目）
- 例2：  
国立病院機構精神科（3年目）→筑波大学附属病院（4年目）→国立病院精神科（5年目）→筑波大学附属病院（6年目）
- 例3：  
筑波大学附属病院（3年目）→大学院（各種研究機関）→私立病院精神科（5年目）→筑波大学附属病院（6年目）

### 取得できる資格（認定医等）

精神保健指定医、日本精神神経学会専門医、日本老年精神医学会専門医、日本認知症学会専門医、日本東洋医学会専門医、臨床心理士など

### 経験できる疾患

小児精神領域の各種疾患、アルツハイマー病などの認知症疾患、器質・症状性精神障害、統合失調症、感情障害、神経症、心身症、摂食障害など精神疾患全般を広く経験できる。手技としては、支持的精神療法、認知行動療法、家族療法などの各種精神療法、薬物療法といった基本的な精神科診療技術が学べる。

新しいところでは暴露反応妨害法も体得できる。

また腰椎穿刺などの検査手技、修正型電気けいれん療法も経験できる。

新しい治療法、経頭蓋磁気刺激法も導入されている。

主な研究分野：精神疾患の予防疫学研究・分子遺伝学研究・プロテオミクス研究・神経病理学研究・精神薬理学研究・脳機能画像研究・臨床研究・ウェブ精神医療研究など

#### ■ 経験できる手技・検査

各種精神療法、心理検査、腰椎穿刺などの検査手技、MRI、SPECTなどの脳機能画像の読影

#### ■ 経験できる手術（術者）

修正型電気痙攣療法、経頭蓋磁気刺激療法

## 皮膚科コース：研修プログラム

### 研修目標

皮膚に関連する common disease の診療に精通するとともに稀少難治性疾患に関する知識も持った、皮膚に関する各分野すべてに基礎的力量を有する皮膚科専門医になる

### プログラム例

筑波大学附属病院皮膚科と関連病院皮膚科において、common disease から稀少難治性疾患までの幅広い疾患を経験し、その診断・検査・治療について研修する。

皮膚科の疾患は、アトピー性皮膚炎や乾癬、膠原病など内科的側面の強いものから扁平上皮癌や悪性黒色腫など外科的側面の強いものまで多岐に渡っており、また患者の年齢層も乳幼児から高齢者まで幅広い。

幅広い基礎的な実力を身につけることはもちろんのこと、興味と努力に基づくサブスペシャリティの習得も推奨している。

### 取得できる資格（認定医等）

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

博士（医学）（大学院卒業にて）

日本アレルギー学会認定専門医（皮膚科）

日本皮膚科学会認定皮膚悪性腫瘍指導専門医

### 経験できる疾患

アトピー性皮膚炎、湿疹皮膚炎群、紅皮症、蕁麻疹、痒疹、多形滲出性紅斑、結節性紅斑、ベーチェット病、スイート病、紫斑病、血管炎、血管・リンパ管の疾患、循環障害、網状皮斑、

褥瘡、皮膚潰瘍、熱傷、凍傷、放射線皮膚障害、光線過敏症、薬疹、

水疱症（自己免疫性、先天性）、膿疱症、にきび、遺伝性角化症、乾癬、扁平苔癬、

膠原病および類症、代謝異常症、糖尿病性皮膚疾患、皮膚形成異常症、皮膚萎縮症、

皮膚感染症（ウイルス、細菌、真菌）、皮膚腫瘍、有棘細胞癌、基底細胞癌、日光角化症、

ポーエン病、乳房外パジェット病、悪性黒色腫、悪性リンパ腫、血管肉腫

### 経験できる手技・検査

切開、排膿、穿刺、吸引、縫縮、デブリドマン、冷凍療法（液体窒素凍結、ドライアイス圧抵）、くりぬき法、腓胝・鶏眼削り法、ケミカルピーリング、ODT療法、包帯法、皮膚描記法、硝子圧診、ダーモスコピー検査、皮内テスト、プリックテスト、スクラッチテスト、パッチテスト、光線検査、皮膚生検、KOH 真菌検査、真菌培養同定法、スライドカルチャー

法、スポロトリキン反応、ツベルクリン検査、Tzanck テスト、蛍光抗体法、ループバンドテスト、電顕診断、PCR 等遺伝子検査

#### 経験できる手術（術者）

皮膚皮下腫瘍摘出術、皮膚悪性腫瘍切除術、植皮術（全層植皮、分層植皮）、皮弁形成術、センチネルリンパ節生検術、下肢静脈瘤手術、陥入爪フェノール法

#### 経験できる手術（助手）

鼠径リンパ節郭清、  
腋窩リンパ節郭清

#### 一般的な4年間の研修予定

例 1

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
S1													筑波大学附属病院
S2													筑波大学附属病院
C1													関連研修施設 1
C2													関連研修施設 1

例 2

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
S1													筑波大学附属病院
S2													関連研修施設 2
C1													筑波大学附属病院
C2													関連研修施設 3

例 3

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
S1													関連研修施設 4
S2													関連研修施設 4
C1													筑波大学附属病院
C2													関連研修施設 5

## 放射線腫瘍科コース：研修プログラム

### 研修目標

放射線腫瘍科は、がんに対する総合的診療科です。すなわち、腫瘍の総合的な臨床診断と放射線治療を中心とした集学的治療を行う臨床腫瘍医 Oncologist を育成する科です。筑波大学の放射線腫瘍科において研修を受ける皆さんには、高い倫理性を有し国際的に活躍できる一流の放射線腫瘍医 Radiation Oncologist になって欲しいと考えています。そのため、放射線生物学や物理学などの基礎医学の深い知識を身につけ、ベツトサイドでは患者の視点到立ち、他の医療者と協力し合えるバランスのとれた専門医となれるような環境を用意します。

### プログラム例

後期研修の4年間に筑波大学病院と関連病院の両方で研修を行い、緊急照射から高度な放射線治療までの治療適応や治療手技が習得できます。

後期研修3年目までには放射線治療のみならず手術適応や化学療法を含む癌治療全体についての治療戦略を理解し他の専門分野の医師と協力して最適な治療を実施できるようになります。

また、最先端医療である陽子線治療にも参加でき、国際的な研究活動も可能です。

### 取得できる資格（認定医等）

日本医学放射線学会放射線治療専門医（一次試験は卒後6年目の8月に受験）  
学位（アカデミックレジデントとなった場合は、卒後6年目）

### 経験できる疾患

脳腫瘍、頭頸部癌、肺癌、食道癌、乳癌、胸腺腫、肝臓癌、膵癌、胆管癌、胆嚢癌、大腸癌、直腸癌、前立腺癌、腎癌、睾丸腫瘍、膀胱癌、子宮癌、卵巣癌、皮膚癌、リンパ腫、白血病、脳動静脈奇形、ケロイド、甲状腺眼症、転移性骨腫瘍、転移性脳腫瘍、転移性肺癌、転移性肝癌、癌性リンパ管症、上大静脈症候群、悪液質、癌性疼痛など

後期研修の期間に国際学会での発表や短期留学など、国際的な研究活動を行うことを推奨しています。

大学での研修中は、

- 県内各地の放射線治療施設での非常勤勤務も週1日程度行います。
- S2 期間を中心として放射線診断・I V Rでのローテーションを3カ月程度行います。

地域枠・一般修学生など研修先に制限がある場合も個別に相談に応じます。

## 放射線診断・IVRコース：研修プログラム

### 研修目標

放射線診断・IVRの領域全般にわたり基本的知識・技術を修得し、放射線科医として自立することを目標とする。

### プログラム例

#### 後期研修1～2年目（シニアレジデント）

単純写真・CTを基本とし、3ヶ月ごとに①超音波検査、②消化管造影、③MRI、④血管造影・IVRの部門をローテーション。すべての画像診断について、スタッフの緊密な指導のもとに、検査計画を行い、実施し、レポートを作成します。この過程を通じて基本的な技術を学び、同時に知識としての診断学を学ぶことになります。

この期間には、単純X線撮影・CTの説影・レポートの基礎も学ぶことができ、全期間でほぼ全領域の単純X線写真・CTに接することができます。

毎日、夕刻には画像診断カンファレンスが開催されますが、カンファレンスや指導ではディスカッションを重視しています。

シニアレジデント2年目になる頃には、徐々に初期研修医の指導にも当たるようになります。

専門医制度の変更に伴い、2年目の前半6ヶ月には核医学、放射線治療を3ヶ月ごと研修します。

2年目後半には関連病院にて研修を行います（後述）。

#### 後期研修3～4年目（チーフレジデント）

最初の1年は小児病院を含めた関連病院で引き続き研修を行います。最後の1年間はチーフレジデントとして大学に戻り、若いレジデントに対しては指導的立場で各セクションで責任を任された仕事をするとともに、個人の好みに応じて subspecialty（副専門分野）をもち、より深く研修を進めます。

この期間には国際学会で発表したり、研究活動、論文作成も可能となります。

#### レジデント終了後（卒後7年目以降）

専門医試験を受けるまでの間には二年間、関連病院にてスタッフとして働く義務がありますが、その後の人生設計は本人の希望を重視し、各地への紹介も行っています。

関連病院では大学から派遣されたレジデントを教えながら診療を行い、研究日や土日には大学で研究を行う先生もいます。

すぐに大学院生となってより重点的に研究を進める人もいます。

### 取得できる資格（認定医等）

放射線科認定医（卒後6年目8月以降受験可能）  
放射線診断専門医（卒後8年目8月以降受験可能）

**経験できる疾患**

画像診断・IVRを必要とする全身の様々な疾患全て

**経験できる手技・検査**

単純X線撮影検査、消化管造影検査、超音波検査（乳腺・甲状腺などを含む）、  
CT検査（全身）、MRI検査（全身）、血管造影検査（心臓以外）およびIVR、  
核医学検査（PETを含む）、総合画像診断

**経験できる手術（術者）**

CTまたは超音波ガイド下生検、膿瘍ドレナージ、比較的容易な腹部・血管領域・救急疾患  
のIVR

**経験できる手術（助手）**

頭部・腹部・血管領域・救急疾患のIVR全般

**一般的な4年間の研修予定**

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1	大学附属病院 単純写真・CT											
S2	超音波検査		造影検査・内視鏡			MRI		血管造影・IVR				
	大学附属病院 単純写真・CT 核医学			放射線治療			関連病院 放射線診断全般・救急疾患					
C1	関連病院 放射線診断全般・救急疾患					小児病院 小児放射線診断						
	Neuroimaging					Body Imaging						
C2	大学附属病院											

## 診断病理コース：研修プログラム

### 研修目標

日本病理学会認定病理専門医および日本臨床細胞学会認定細胞診専門医に相当するレベルの病理診断学・細胞診断学の知識・技術を習得する。

また、病理診断学に関する研究も行い、その成果を論文として発表する。

### プログラム例

研修プログラムについて

プログラム例

Sはシニアレジデント、Cはチーフレジデントの略。

S1は研修3年目、S2は4年目、C1は5年目、C2は6年目を指します。

S1 病理部内ローテーション（数か月単位で各指導医をローテーションします。）

S2 大学病院ないし関連施設にて研修

C1 S1・S2の指導、学外研修、あるいは人体病理学研究

C2 S1・S2の指導、学外研修、あるいは人体病理学研究

C1・C2では、病理診断の研修を更に進めるとともに、学位取得を目指して、研究も行います。

希望者は、全国の各種疾患専門病院（国立がんセンター等）で短期研修することも可能です。

### 取得できる資格

C1 死体解剖資格

C2 日本臨床細胞学会認定細胞診専門医・指導医

（病理研修5年目に日本病理学会認定病理専門医が取得できます。）

術前画像検査を詳細に読影しながら、手術の展開を予想した“術前サマリー”を書き、内科・放射線科医の前でプレゼンテーションを行う。

術後には自分の予測とどこが同じで、どこが違っていたのか反省する“術後サマリー”を書き、外科のスタッフの前で手術手順を反復する。

術後の経過も毎日細かくチャータイングし、チーフレジデントと翌日の指示を相談しながら決定する。

最初は非常に時間をとられるものの、非効率的に思えるこういった作業を継続することが、あなたの消化器外科医の一生に必ず役に立ちます。

### 院外研修

大学外の市中病院の魅力は、何とんでもスピード感と独立感でしょう。患者さんの入院から治療方針の立案、手術、術後管理、退院、外来までの一連の流れが速く、一人前の医師として判断を任される事も多くあります。

しかし、外科医として重要なのは、やはり手術です。多くの手術に立ち会い、術者としての経験を積み、みるみる“消化器外科医”になっていく自分を感じられる事でしょう。

この期間には1年間で120~150例の手術（術者または第一助手）を経験する事を目安にしています。

第一線の病院を引っ張ってきた先輩医師の武勇伝を聞きながら、将来の自分を重ね合わせてみてはどうでしょうか？

筑波大学消化器外科では、これらの研修協力病院と密に連絡をとり、充実した研修生活を送れるようにしています。

### 取得できる資格（認定医等）

#### 【外科専門医】

- ・卒後5年目に申請可能であり、全員がこの時期に取得している。

#### 【消化器外科専門医】

- ・後期研修終了時に手術経験数は申請基準を満たすことができる。
- ・申請には筆頭論文3編が必要であるため、実際には後期研修終了後2年以降に申請、取得することが多い。

### 経験できる疾患

【腫瘍】食道癌、胃癌、GIST、十二指腸腫瘍、小腸腫瘍（悪性リンパ腫など）、大腸癌、原発性肝癌、転移性肝癌、肝門部胆管癌、胆嚢癌、 Vater 乳頭癌、睪癌、IPMN

【良性疾患】アカラシア、食道憩室、特発性食道破裂、縦隔炎、メッケル憩室出血、急性虫垂炎、クローン病、潰瘍性大腸炎、痔核、痔瘻、肛門周囲膿瘍、胆嚢結石、総胆管結石、肝内結石、総胆管嚢腫、多発性肝嚢胞、脾機能亢進症、ITP、鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア、閉鎖孔ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア、腸閉塞、急性腹症（急性虫垂炎、絞扼性イレウス、消化性潰瘍穿孔、大腸穿孔など）

# 心臓血管外科コース：研修プログラム

## 研修目標

心臓血管外科医の基礎の構築

## プログラム例

後期研修

- 1年目・・・基礎的な心臓血管外科手術手技の習得、術後管理
- 2年目・・・術者としての基本的な手術の完遂、重症術後管理
- 3年目・・・術者としての経験の蓄積、術後管理の指導
- 4年目・・・より高度な手術の経験、総合的な患者管理とその指導

## 取得できる資格（認定医等）

卒後5-6年目で外科専門医取得。

レジデント修了時以降に心臓血管外科専門医取得可能

## 経験できる疾患

あらゆる成人、小児心臓外科疾患、大血管（ステントグラフトを含む）、末梢血管疾患

## 経験できる手技・検査

心臓カテーテル検査

各種ドレーン・S-Gカテーテル等留置

補助循環（IABP、ECLS）

血液透析

腹膜透析

ペースメーカー管理

## 経験できる手術（術者）

動脈管開存症、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症の根治手術、BTシャント術、僧帽弁置換術、

大動脈弁置換術、僧帽弁形成術、冠動脈バイパス術、腹部大動脈瘤手術、中小血管手術、  
下肢静脈瘤手術、ペースメーカー・ICD植え込み術等

## 経験できる手術（助手）

あらゆる成人、小児心臓外科疾患、大血管、末梢血管疾患

## 形成外科コース：研修プログラム

### 研修目標

\*

### プログラム例

筑波大学病院および関連機関での研修を通し、形成外科全般の手術技術を習得し、形成外科学会専門医習得に必要な症例を経験する。

また希望があれば研究分野（大学院進学など）を選択することもできる。

### 取得できる資格（認定医等）

日本形成外科学会認定専門医

（ただし学会入会前2年の初期研修、入会后4年の形成外科研修が条件です。）

### 経験できる疾患

1. 良性腫瘍  
皮膚・軟部組織の良性腫瘍（母斑、粉瘤、血管腫、脂肪腫など）。
2. 悪性腫瘍  
皮膚癌、耳鼻科・口腔外科手術の再建（マイクロサージャリーなど）。
3. 先天奇形  
口唇裂、口蓋裂、手足指の奇形、漏斗胸、半陰陽、耳介異常。
4. 外傷  
顎顔面の外傷（創縫合、顔面骨骨折）、手足指の外傷（切断指再接着を含む）。
5. 熱傷  
新鮮熱傷、熱傷瘢痕形成（植皮、Z形成、W形成など）。
6. 美容  
腋臭症、重瞼、乳房再建、陰茎再建、爪再建。
7. その他  
顔面神経麻痺再建（機能的筋肉移植など）。

形成外科では基本的に習得年は設定していません。本人の実力次第で術者になることも可能です。

## 救急診療コース：研修プログラム

### 研修目標

- ERとICU、全年齢・全疾患（小児系・外科系・産婦人科系も含む）を診療することができる Generalist になる。
- 臨床だけでなく、標準化コースなどの教育、学会発表や臨床研究・基礎研究を行うことができる、オールマイティーな医師になる。

### プログラム例

- 当科での研修では救急科専門医および集中治療専門医資格の取得を主なゴールのひとつとしています。2017年からの新専門医制度によって各科専門医制度が改定されており、現在は新制度と旧制度が混在する移行期であり、各人の背景（これまでの研修内容）によって専門医取得までの年数や満たすべき基準も様々で複雑です。したがって、当プログラムでは、研修年数や研修内容を一律に定めることはせず、各人の経歴や経験と希望に応じて個別に対応させていただきます。
- ERは原則1年、ICUは原則3か月を必須とします。
- 小児はER/ICU含め1年、産婦人科は3か月を推奨します。
- ドクターヘリやドクターカーなどの病院前医療、DMATを含む災害医療、高気圧酸素治療や熱傷診療などの特殊診療も研修できます。
- 茨城県内の救命救急センターや国立成育医療研究センターに代表される国内トップの医療機関と連携して研修を積むこともできます。
- 救急や集中治療の専門医までは希望していなくても、内科専門医や脳外科専門医を目指しながら、救急・集中治療のいろはを学びたい！学んでから各専門医になりたい！という方も大歓迎です。また各専門医取得後に、救急や集中治療を学びたいという方も大歓迎です！
- 将来開業を目指す方も、開業のためには全年齢・全疾患の対応ができる急性期治療の知識は必ず役に立つでしょう。多分野の症例サマリーが必要な内科専門医も取得し易いので開業前の急性期治療の短期間研修も歓迎します。

- 消化器系：  
肝細胞癌、肝硬変、急性肝不全、重症急性膵炎、イレウス、NOMI、ACS など
- 腎泌尿器系：  
電解質異常、急性腎障害、慢性腎不全急性増悪など
- 代謝・内分泌系：  
DKA、HONK、低血糖性昏睡、甲状腺クリーゼ、褐色細胞腫、摂食障害等
- 血液・膠原病系：  
高度貧血、DIC、血液腫瘍、SLR、MRA、シェーグレン症候群など
- 感染症：  
敗血症、壊死性筋膜炎、肺炎、乳腺炎、腹膜炎、胆嚢炎、尿路感染症、脊椎炎、IE など
- 産科・婦人科系：  
HELLP、子癇発作、PRESS、弛緩出血、卵巣腫瘍茎捻転、会陰血腫、子宮動静脈瘻破裂 など
- 小児系：  
術後管理、敗血症、尿路感染症など

#### 経験できる手技・検査

気管挿管、人工呼吸管理、CV挿入、心拍出量モニタリング、CHDF、PCPS、EV1000、胸腔腹腔ドレーン、気管支鏡、動脈圧ライン、低体温療法など

#### 経験できる手術（術者）

輪状甲状韧带切開術、気管切開術、緊急開胸術、緊急開頭術、脳圧モニター設置、創外固定術、視血的骨折整復術など

※他科ローテーション中には、他科の手術経験が可能です。

#### 経験できる手術（助手）

上記に準ずる

## 経験できる手術（助手）

頭蓋内腫瘍（難易度高）・脊髄腫瘍摘出術、脳動静脈奇形摘出術、脳動脈瘤内塞栓術（血管内手術）、内頸動脈ステント留置術（血管内手術）、頭蓋内内視鏡手術、てんかん外科、微小血管減圧術、小児脳神経外科手術

## 一般的な4年間の研修予定（例）

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1	筑波大学附属病院シニアレジデント							関連病院研修				
S2									関連病院研修			
C1									関連病院研修			
C2	筑波大学附属病院チーフレジデント											

# 筑波大学 整形外科専門研修プログラム



**機能再建・スポーツ医学の先端に行く**

③ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を筑波大学附属病院及び連携施設で偏りがないように経験することを目標とします。経験の不足している分野については、その後の研修施設において経験可能なように配慮します。

④ プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

⑤ リサーチマインドの養成計画

すべての専攻医が自らの症例を用いて研究した成果を発表するカンファレンス「レジデントデイ」を年1回開催します。研究指導は各施設の指導医が行います。また、大学の研修においては、希望により研究のプロジェクトに参加しリサーチマインドを養うことを目標とします。

⑥ 学術活動に関する具体的目標とその指導体制（専攻医1人あたりの学会発表、論文等）

専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。

⑦ コアコンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得させます。

筑波大学附属病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑧ 地域医療に関する研修計画

本プログラムの研修施設群は茨城県指定医師不足地域中小病院および医

師不足地域中核病院を含みます。すべての専攻医は茨城県指定医師不足地域中小病院および医師不足地域中核病院に3ヵ月以上勤務します。地域内での活動として、研修期間内に1回以上小学校での小児運動器検診に参加します。

#### ⑨ サブスペシャルティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャルティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムの筑波大学附属病院および連携施設にはこれらサブスペシャルティ領域の研修施設が複数施設ずつ含まれています。また、スポーツ医学や人工関節手術に多くの実績のある施設も含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャルティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャルティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

### 4.3 研修およびプログラムの評価計画

#### ① 専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6ヵ月に1回行い、(9月末および3月末) 専門研修プログラム管理委員会に提出します。

他職種も含めた筑波大学附属病院および各研修施設での研修評価(態度も含めた総評)を各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

#### ② 専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括(副)責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

筑波大学に専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。

年4回の定期委員会(6,9,12,3月)を開催し、年度末3月に専攻医4年次の修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します。

専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、各研修連携施設および専攻医に報告します。活動報告および研修プログラムは、ホームページで公開します。

### ③プログラムとしてのFD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

### ④専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年1回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

## 4.4 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

## 4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合があります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

## 4.6 修了要件

- ①各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
  - ②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
  - ③臨床医として十分な適性が備わっていること。
  - ④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。
  - ⑤1回以上の学会発表、また筆頭著者として1編以上の論文があること。
- 以上①～⑤の修了認定基準をもとに、専攻研修4年目の3月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

筑波大学附属病院では整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3 「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を研修することができます。茨城県の中核病院として、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。

【筑波大学週間及び月間予定表】

各専門分野の体制および週間スケジュール

分野	指導医数	週間スケジュール				
		月	火	水	木	金
脊髄・骨髄	3	AM 外来	AM 総回診	AM 手術	AM 外来	AM 手術
		PM 脊髄・骨髄症例検討会	PM 骨髄造影検査	PM 手術	PM 電気生理検査	PM 手術
股関節	3	AM 手術	AM 総回診	AM 病棟業務	AM 外来	AM 手術
		PM 手術	PM 外来	PM 病棟業務	PM 外来 手術症例検討会	PM 手術
膝・肩関節	3	AM 外来	AM 総回診	AM 手術	AM 病棟業務	AM 手術
		PM 新患診察	PM 外来 膝症例検討会	PM 手術	PM 病棟業務	PM 手術 肩症例検討会
手外科	1	AM 病棟業務	AM 総回診	AM 手術	AM 病棟業務	AM 外来
		PM 手術	PM ハンドセラピーカンファ	PM 手術	PM 電気生理検査	PM 外来 手術症例検討会
足外科・小児 骨系疾患	2	AM 手術	AM 総回診	AM 手術	AM 病棟業務	AM 足外科外来
		PM 病棟業務	PM 骨系疾患外来	PM 手術	PM 小児股関節外来	PM 足外科外来 手術症例検討会
救急・外傷	1	AM 救急外来	AM 総回診	AM 救急外来	AM 救急外来	AM 手術
		PM 手術	PM 救急集中治療カンファ	PM 病棟業務	PM 手術症例検討会	PM 手術

月間予定表

筑波大学附属病院 後期専攻医 月間スケジュール					
	月	火	水	木	金
第1週	PM 研修医症例検討会	AM 総回診 リサーチカンファレンス PMリハビリカンファ	X線カンファレンス		PM 振り返り 週末申し送り
第2週	PM 研修医症例検討会	AM 総回診 リサーチカンファレンス PMリハビリカンファ 放射線科合同カンファ	X線カンファレンス		PM 振り返り 週末申し送り
第3週	PM 研修医症例検討会	AM 総回診 リサーチカンファレンス PMリハビリカンファ	X線カンファレンス		PM 振り返り 週末申し送り
第4週	PM 研修医症例検討会	AM 総回診 クリニカルカンファレンス PMリハビリカンファ 放射線科合同カンファ	X線カンファレンス	PM 病棟連絡会	PM 振り返り 週末申し送り

備考

- ・研修医症例検討会は総回診でプレゼンテーションする症例について指導医および上級医が指導するものである
- ・病棟連絡会はナースとの連絡会議である
- ・振り返りは1週間の研修を病棟医長と振り返るものである
- ・第4週火曜日のクリニカルカンファレンスでより深く学習した1例について学会発表形式で報告する



本プログラムを構成する31の研修連携病院は、多くの研修単位を取得可能な大型研修病院が大学の他に8施設、多くの症例を経験可能な地域中核病院が11施設、地域研修病院として6施設あり、地域に根ざした医療研修も経験できるように配慮しています。このうち「高萩協同病院」、「ひたちなか総合病院」、「水戸赤十字病院」、「なめがた地域総合病院」「県西総合病院」は、茨城県指定医師不足地域中小病院に、また「筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・総合病院水戸協同病院」、「水戸済生会病院」、「茨城西南医療センター病院」は茨城県指定医師不足地域中核病院に該当します。したがって、地域枠や県の奨学生の専攻医にも十分な研修機会が提供できます。また、関節・スポーツ・脊椎・小児・手の外科などの専門研修も可能な特徴ある施設群を要しており、専攻医の希望に応じて、取得単位を勘案しながらローテーションする機会を提供します。他県にある連携施設とは長年にわたって人事交流があります。本プログラムとは別の地域における整形外科診療や病病連携、病診連携、専門研修を経験することを目的に、他県での研修を行います。

それぞれの施設研修可能分野と特徴的な研修分野を示します。大学での6ヶ月の研修以外は、専攻医の地域性と希望を考慮し、各单位・小児整形・腫瘍・地域医療研修などのローテーション表と専攻医毎の年次別単位取得計画を作成し提示します（専攻医志望人数により変わります）。下記に例示します。

\*整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料13「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照して下さい。

研修可能分野：1. 脊椎 2. 上肢・手 3. 下肢 4. 外傷 5. リウマチ 6. スポーツ 7. 小児整形 8. 腫瘍  
9. リハビリ 10. 地域医療

県北医療センター高萩協同病院	1, 4, 10	地域医療研修施設
ひたちなか総合病院	2, 3, 4, 7, 10	
日本赤十字社水戸赤十字病院	2, 3, 4, 5, 6, 9, 10	
筑波大学水戸地域医療教育センター・水戸協同病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 9	
国立病院機構水戸医療センター	1, 2, 3, 4, 5, 9, 10	
水戸済生会総合病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 9, 10	
東京医科大学茨城医療センター	1, 2, 3, 4, 6, 7, 8, 9	
茨城県立医療大学附属病院	3, 6, 9	リハビリ・障害者スポーツ
筑波学園病院	1, 2, 3, 4, 6, 9	
筑波記念病院	1, 3, 4	関節外科・人工関節
いちほら病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10	スポーツ医学・膝関節外科

筑波メディカルセンター病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9	
国立病院機構霞ヶ浦医療センター・地域医療研修センター	2, 4, 9	
つくばセントラル病院	1, 2, 3, 4, 6, 9	
茨城西南医療センター病院	1, 2, 3, 4, 6	
なめがた地域総合病院	1, 3, 10	地域医療研修施設
小山記念病院	2, 3, 4, 10	地域医療研修施設
龍ヶ崎済生会病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 9, 10	
きぬ医師会病院	3, 4, 6	
取手北相馬保健医療センター医師会病院	1, 2, 3, 4, 10	
総合守谷第一病院	1, 2, 3, 4, 7, 9	
アントラーズスポーツクリニック	10	地域医療研修施設
キッコーマン総合病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10	手の外科
柏市立柏病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	
新東京病院	1, 2, 3, 4, 5, 6	
松戸市立病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	小児整形
聖隷佐倉市民病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10	脊椎外科
千葉県がんセンター病院	8	腫瘍
公立昭和病院	1, 2, 3, 4, 6, 7	
国立精神・神経医療研究センター病院	7, 9, 10	地域医療研修施設

医療機関	1年目	2年目	3年目	4年目
筑波大学附属病院	専攻医1-5	専攻医8-14		
筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・総合病院水戸協同病院	専攻医6,14	専攻医1,11	専攻医2	専攻医3
筑波大学附属病院土浦市地域臨床教育センター・霞ヶ浦医療センター			専攻医1	専攻医11
いちばら病院			専攻医4	専攻医5
水戸赤十字病院			専攻医3	専攻医12
キッコーマン総合病院	専攻医7	専攻医2	専攻医12	専攻医8
茨城県立医療大学付属病院				専攻医4
取手北相馬保健医療センター医師会病院				専攻医9
高萩協同病院			専攻医11	専攻医5
筑波メディカルセンター	専攻医8	専攻医3	専攻医5	専攻医13
龍ヶ崎済生会病院			専攻医6	専攻医14
日立製作所ひたちなか総合病院			専攻医13	専攻医6
公立昭和病院	専攻医14	専攻医12	専攻医7	専攻医1
茨城西南医療センター	専攻医9	専攻医4		専攻医10
筑波学園病院		専攻医15	専攻医8	専攻医9
つくばセントラル			専攻医9	専攻医11
筑波記念病院			専攻医10	専攻医2
東京医大茨城医療センター	専攻医10	専攻医5		専攻医1
なめがた地域総合病院			専攻医14	専攻医8
きぬ医師会病院				専攻医3
守谷第一病院			専攻医2	専攻医14

医師不足地域中核病院  
 医師不足地域中小病院

## 専攻医別取得単位例

	1年目前半	1年目後半	2年目	3年目	4年目	取得単位合計48単位の内訳
専攻医1	a3.i3	h3.b3	b4.c4e4	a3.c1.e3.f3.i2	c6.d6	a6.b7.c7.d6.e7.f3.g4.h3.i2.i3
専攻医2	i3.c3	i3.b3	b3.h3.f3.c3	c3.f3.d6	a6.e3.g3	a6.b6.c9.d6.e3.f6.g3.h3.i3.i3
専攻医3	c3.b3	a3.d3	h4.c4e4	h3.c6.d3	i2.i2.a3.b2.f3	a6.b8.c6.d6.e4.f3.g7.h4.i2.i2
専攻医4	c3.a3	h3.d3	d6.a3.c3	f7.g3.i2	e3.i2.b6.d1	a6.b6.c6.d10.e3.f7.g3.h3.i2.i2
専攻医5	i3.b3	i3.d3	a3.b3.c3.d3	a3.c3.d3.h3	e3.f3.g3.c3	a6.b6.c9.d9.e3.f3.g3.h3.i3.i3
専攻医6	i3.a3	i3.b3	c3.e3.f3.g3	h3.c3.d6	b4.a4.d4	a7.b7.c6.d10.e3.f3.g3.h3.i3.i3
専攻医7	i3.b3	a3.i3	f4.c4.d4	h4.b4.d4	a3.c3.e3.g3	a6.b7.c7.d8.e3.f4.g3.h4.i3.i3
専攻医8	h3.d3	e3.c3	a3.g3.f3.i3	h4.c4.i4	a3.c3.d3.h3	a6.b7.c10.d6.e3.f3.g3.h3.i4.i3
専攻医9	d3.h3	i3.b3	a3.c3.d3.e3	h4.c4.f4	a4.c4.i4	a7.b7.c7.d6.e3.f4.g3.h3.i3.i4
専攻医10	i2.a3.d2	i2.c2.b2	a4.e4.c4	h4.c2.d2.f3	a2.c3.d4.h3	a9.b6.c7.d8.e4.f3.g4.h3.i2.i2
専攻医11	i2.e4	i2.a2.b2	a3.c3.d3.h3	a3.c3.d3.f3	h6.g6	a8.b8.c6.d6.e4.f3.g6.h3.i2.i2
専攻医12	c3.a3	f3.d3	b6.d6	c3.e3.g3.h3	a3.i3.i3.f3	a6.b6.c6.d9.e3.f6.g3.h3.i3.i3
専攻医13	e3.h3	i3.g3	h3.c3.f3.h3	a3.h3.c2.d2.i2	a4.c4.d4	a7.b9.c9.d6.e3.f3.g3.h3.i2.i3
専攻医14	d3.f3	i3.i3	a3.c3.d3.h3	a3.b6.g3	c4.e4.f4	a6.b6.c7.d6.e4.f7.g3.h3.i3.i3

## 6. 専門研修プログラムを支える体制

### ① 専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である筑波大学附属病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために筑波大学附属病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。

本研修プログラム群には、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置き、また、このプログラムが20名以上の専攻医を有することから副プログラム統括責任者を1名置き、副プログラム統括責任者はプログラム統括責任者を補佐します。

### ② 基幹施設の役割

基幹施設である筑波大学附属病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

筑波大学附属病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研

修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

### ③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。本プログラムは、計74名の指導医が担当します。

### ④ プログラム管理委員会の役割と権限

- 1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。
- 2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。
- 3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。
- 4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。
- 5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。
- 6) 筑波大学附属病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。筑波大学附属病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

### ⑤ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者は、筑波

大学医学医療系整形外科教授がこの責務を担います。

- 1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医
- 2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。また、副統括責任者がその業務をサポートします。

- 1) 専門研修基幹施設である筑波大学部附属病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。
- 2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

#### ⑥労働環境、労働安全、勤務条件

筑波大学附属病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・施設の給与体系を明示します。

## 7. 募集人数と応募方法

【専攻医受入数】各年次16名 合計64名→2017年度は、人数制限無し

### 【応募方法】

応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

筑波大学整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ

<http://tsukuba-seikei.jp/kenshu/>

- 必要書類 : ① 申請書 (ダウンロード)  
② 履歴書 (ダウンロード)  
③ 医師免許証 (コピー)  
④ 医師臨床研修修了登録証 (コピー)

【募集期間】7月末～11月30日 (募集期間終了後も随時対応します)

### 【問い合わせ先】

〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学 医学医療系 整形外科

担当: 三島 初 (研修プログラム副統括責任者)

Tel: 029-853-3219 Fax: 029-853-3162

[kenshu@tsukuba-seikei.jp](mailto:kenshu@tsukuba-seikei.jp) (整形外科研修プログラム専用アドレス)

### 【病院見学の申し込みについて】

筑波大学附属病院は随時、病院見学・プログラムガイダンス希望を受け付けております。

下記ページの「問い合わせ」よりお申込み下さい。

担当: 大西 信三 (後期研修担当)

筑波大学整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ

<http://tsukuba-seikei.jp/kenshu/contact/>

## 腎泌尿器外科コース：研修プログラム

### 研修目標

1. 病態の把握、エビデンスに基づく適切な治療プランの構築及びそのアウトカムを評価できる能力を身に付けること。
2. 深い知識と洗練された手技に裏打ちされた的確な医療技術を修得すること。
3. 安全で良質の医療を実践すること。
4. 疾患のみを診るにとどまらず、患者・家族の立場に立って満足して頂けるような医療の提供を身に付けること。

### プログラム例

S1：大学病院において、泌尿器科臨床医としての基礎的技術・能力の修得を目指します。  
S2：関連病院において、より多くの泌尿器科一般の症例を経験し、幅広い技術の修得を目指します。

C1：関連病院または大学病院においてより専門的な泌尿器科医としての技術を身につけます。

C2：大学病院において診療の中心的役割を果たすと共により高度な手術手技の習得に努めます。レジデント終了にあわせて泌尿器科専門医試験の合格を目指します（筑波大泌尿器科での合格率は100%です）。

大学病院では、悪性疾患の患者さんを中心に高度な医療技術を必要とする泌尿器悪性腫瘍の内科的、外科的考え方の基本を身につけることを目標としています。優秀な泌尿器外科医を育成するために手術教育にも力を入れ、難度の高い手術や体腔鏡手術などの手技についても研修します。また、多彩な泌尿器科悪性腫瘍に対する高度な全身化学療法管理についても研修します。関連病院では一般的な泌尿器科としての尿路結石、前立腺肥大症、女性泌尿器科疾患、悪性疾患などに対する数多くの外来診療、検査、手術を経験します。希望者は、コースの終了後に大学院進学や海外留学をすることもできるため、後期研修医終了後のキャリアアップも可能です。上記のように、4年間で総合的に教育を行うようなキャリアパスを整えており、バランスの良い泌尿器科医を育てることを目指しています。

※Sはシニアレジデント、Cはチーフレジデントの略。S1は研修3年目、S2は4年目、C1は5年目、C2は6年目を指します。

### 取得できる資格（認定医等）

後期研修4年目に専門医試験を受験し、合格すれば後期研修4年目終了時点で日本泌尿器科学会認定専門医を申請できます。

## 経験できる疾患

泌尿器科疾患全般を経験できますが、特に悪性腫瘍の集学的治療（腹腔症手術を含む外科治療、化学療法）、神経因性膀胱、EDなどにおいて高度な研修ができます。

また、関連施設と協力して尿路結石、前立腺肥大症、女性泌尿器、不妊などの分野にも力を入れています。

## 経験できる手技・検査

1. 内視鏡検査：膀胱鏡検査（硬性鏡および軟性膀胱鏡）、尿管カテーテル法、腎盂鏡尿管鏡（硬性鏡、軟性鏡）
2. X線検査：排泄性腎盂造影（IVP）、尿道造影（UG）、逆行性腎盂造影（RP）、精管精囊造影順行性腎盂造影（AP）、排尿時膀胱造影（VCG）、腎囊造影
3. 超音波検査：経腹的走査（腎、肝、膀胱、尿管、リンパ節）、経直腸走査（前立腺）、経尿道走査（膀胱）
4. Urodynamic Study：膀胱内圧測定、尿流測定、尿道内圧測定、尿道外括約筋筋電図
5. 生検：前立腺生検、精巣生検、膀胱粘膜生検、表在リンパ節生検

## 経験できる手術（術者）

経験年数に応じて泌尿器科検査・手術全般を経験できます。後期研修4年目では膀胱全摘術+各種尿路変更術、ロボット補助下前立腺全摘出、前立腺全摘術等高度な手術も指導医の元で経験できます。

尿道ブジー、陰嚢水腫穿刺、包茎手術、陰嚢水腫根治術、精管結紮術、精索静脈瘤根治術、精巣摘除術、経尿道的手術（結石、異物、粘膜生検）、精巣固定術、膀胱高位切開（膀胱瘻造設術）、精巣上体摘除術、ESWL、外尿道口切開術、腎瘻術（経皮的、開腹）、尿管切石術、腎・腎盂切石術、尿管皮膚瘻術、腎固定術、前立腺被膜下摘除（SPP、RPP）、腎摘除術（simple）、経尿道的手術（TUR-BI、TUR-P）、開放性腎生検、膀胱部分切除術、PNL、陰茎切斷術、TUL、女子尿失禁防止術、尿管膀胱再吻合術、経尿道的内尿道切開術、根治的腎切除術、陰茎形成術、腎尿管全摘術、腎盂形成術、尿道形成術、膀胱全摘術、逆流防止術、前立腺全摘術、ロボット補助下前立腺全摘出、後腹膜、骨盤内リンパ節郭清術、回腸導管造設術、副腎摘除術、精管（精巣上体）精管吻合術（顕微鏡下）、腹腔鏡下手術（副腎摘除術、根治的腎摘除術、腎部分切除術、腎尿管全摘術、非触知精巣検査など）、副甲状腺摘除術

## 経験できる手術（助手）

基本的に上記に同じです。

## 一般的な4年間の研修予定

学年 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

S1 大学病院において、泌尿器科臨床医としての基礎的技術・能力の修得を目指します。

S2 関連病院において、より多くの症例を経験し、幅広い技術の修得を目指します。

C1 関連病院または大学病院においてより専門的な泌尿器科医としての技術を身につけます。

C2 大学病院において診療の中心的役割を果たすと共により高度な手術手技の習得に努めます。

## 産科・婦人科コース：研修プログラム

### 研修目標

疾患、患者さんに対して総合的に考え、対応できるようにする。  
診断から治療までの技術を習得する。

### プログラム例

4年間の研修は、筑波大学附属病院ならびに茨城県内もしくは東京都内の病院にて行います。1年ごとのローテーションを基本としています。

大学においては、婦人科悪性腫瘍および高度な不妊症治療、合併症妊娠や胎児異常、産科救急などを中心に研修します。大学での研修の長所は、一般市中病院では経験しにくいこれらの疾患を多数経験ができることです。

一方、大学外の関連病院においては、一般婦人科疾患および正常妊娠・分娩・産褥の患者様や正常新生児の管理を中心に研修します。患者様の外来管理はもちろん、入院から治療方針の立案、実際の治療、退院まで、上級医の助言を得ながら自ら主体的に行う充実した研修生活となります。

もちろん研修は臨床だけではなく、将来の自らの専門分野を確立していただくために、上級医が責任をもって臨床研究や基礎研究の指導を行います。後期研修の途中もしくは修了後に大学院に進学したり、研究生となって研究に専念することも可能です。現在までに卒後10年程度でほとんどの医師が医学博士号を取得しています。

### 取得できる資格（認定医等）

卒業後5年の時点で日本産科婦人科学会専門医の資格が取得できます。

さらにサブスペシャリティの資格として日本婦人科腫瘍学会専門医、日本周産期・新生児医学会母体・胎児専門医、日本生殖医学会生殖医療専門医、日本臨床細胞学会細胞診指導医、臨床遺伝専門医制度専門医など、産婦人科関連のすべて専門医資格の取得が可能な数少ない施設のひとつです。

### 経験できる疾患

きわめて稀な疾患を除いて、ほとんどすべての産婦人科疾患を必ず経験することができます。

### 経験できる手技・検査

- 1) 婦人科内分泌検査・・・基礎体温測定、腔細胞診、頸管粘液検査、ホルモン負荷テスト、  
各種ホルモン測定、子宮内膜検査
- 2) 不妊（症）検査・・・基礎体温測定、卵管疎通性検査（通気、通水、通色素、子宮卵管造影）、  
精子頸管粘液適合試験（Huhner テスト）、精液検査、子宮鏡、腹腔鏡、  
子宮内膜検査、月経血培養
- 3) 癌の検査・・・子宮腔部・頸部・内膜をはじめとする細胞診、コ  
ルポスコピー、Schiller テスト、  
組織診、子宮鏡、RI 検査、CT、MRI、腫瘍マーカ  
ー測定
- 4) 絨毛性疾患検査・・・基礎体温測定、ホルモン測定（絨毛性ゴナドトロ  
ピンその他）、胸部 X 線検査、  
超音波診断、骨盤動脈造影
- 5) 感染症の検査・・・一般細菌、原虫、真菌検査、免疫学的検査（梅毒  
血清学的検査、HBs 抗原検査、  
HCV 抗体検査、HTLV-I 検査、HIV 検査、風疹抗  
体、トキソプラズマ抗体、  
淋菌 DNA、クラミジア DNA・抗体検査など）、血  
液像、生化学的検査
- 6) 放射線学的検査・・・骨盤計測（入口面撮影、側面撮影）、子宮卵管造  
影、腎盂撮影、膀胱造影、  
骨盤血管造影、リンパ管造影、胎児造影、レノグ  
ラフィー、シンチグラフィー、  
骨・トルコ鞍・胸部・腹部単純撮影法、CT、  
MRI、RI 検査
- 7) 内視鏡検査・・・コルポスコピー、子宮鏡、腹腔鏡、羊水鏡、膀胱  
鏡、直腸鏡
- 8) 妊娠の診断・・・免疫学的妊娠反応、超音波検査（ドップラー法、  
断層法）
- 9) 生化学的・免疫学的検査
- 10) 超音波検査・・・ドップラー法：胎児心拍聴取、断層法：骨盤腔内  
腫瘤（子宮筋腫、子宮内膜症、

- 卵巣腫瘍その他)、胎嚢、胎児頭殿長、児頭大横径、胞状奇胎、胎盤付着部位、  
 多胎妊娠、胎児発育、胎児形態異常の診断、子宮頸管長、  
 Biophysical Profile Score (BPS)、Amniotic Fluid Index (AFI)、血流ドップラー法
- 11) 出生前診断・・・ 羊水診断、絨毛診断、胎児血検査、胎児 well-being 診断、胎児形態異常診断、  
 遺伝カウンセリング
- 12) 分娩監視法・・・ 陣痛計測、胎児心拍数計測、血液ガス分析

### 経験できる手術（術者）

#### 婦人科：

腹式単純子宮全摘出術、腔式単純子宮全摘出術、子宮筋腫核出術、子宮腔部円錐切除術、子宮頸管形成術、頸管ポリープ切除術、子宮形成術、子宮脱手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍核出術（切除術）、卵管避妊手術、Bartholin 腺手術（造袋術、摘出術）、陈旧性会陰裂傷形成術、腹腔鏡下腹腔内観察、胸水穿刺術、腹水穿刺術、皮膚腫瘍生検術、体外受精における採卵

#### 産科：

会陰切開・縫合術、吸引遂娩術、鉗子遂娩術、骨盤位牽出術、腹式帝王切開術、子宮内容除去術、子宮頸管縫縮術・抜環術、妊娠合併卵巣腫瘍核出術（切除術）、産褥会陰血腫除去術、羊水穿刺術

### 経験できる手術（助手）

#### 婦人科：

広汎子宮全摘出術、準広汎（拡大単純）子宮全摘出術、後腹膜リンパ節郭清、卵巣癌根治手術、  
 子宮鏡下手術、腹腔鏡下手術、マイクロサージェリー、外陰切除術、人工造陰術、膀胱・尿管に関する手術、消化管・肛門に関する手術、体外受精における胚移植

#### 産科：

胎児胸腔穿刺術、胎児腹腔穿刺術、胎児採血、胎児膀胱-羊水腔シャント術、胎児胸腔-羊水腔シャント術

## 麻酔科コース：研修プログラム

### 研修目標

1. 成人及び小児の手術患者に対し、急性・慢性痛のコントロールも含め最善の術前・術中・術後管理を実施する。
2. 効率的な研修教育プログラムと学会認定施設である関連病院群へのローテーションを通じ、麻酔科専門医に加えサブスペシャリティーとなる専門医資格を取得する。
3. 基礎医科学や臨床医学の発展に寄与し得る研究を精力的に遂行し、エビデンスに基づいた診療を目指す。
4. 診療・教育活動を通じ、関連病院群と連携しながら地域における保健・福祉に貢献する。

### プログラム例

1. 麻酔実務Ⅰ急コース
2. 麻酔実務Ⅱ中治療コース
3. 心臓麻酔医養成コース
4. アカデミック麻酔科医養成コース

### 取得できる資格（認定医等）

原則として卒後7年目に日本麻酔科学会専門医試験を受験する。

その他の専門医については希望者は症例を蓄積し、セミナーなどを受けて受験するものとする。

麻酔科専門医以外のサブスペシャリティーを確立する。

### 経験できる疾患

ほぼすべての麻酔症例、ペインクリニック

### 経験できる手技・検査

気管挿管、中心静脈確保などの基本的診察手技。

高度気道確保の方法。心エコー手技。

### 経験できる手術（術者）

ほぼすべての麻酔症例、ペインクリニック

## 経験できる手術（助手）

ほぼすべての麻酔症例、ペインクリニック

## 一般的な4年間の研修予定

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1	大学（麻酔一般、心臓麻酔、小児麻酔）											
S2	筑波メディカルセンター（麻酔一般、心臓麻酔）											
C1	県立中央病院（麻酔一般、心臓麻酔、ICU）											
C2	土浦協同病院（麻酔一般、救急、ICU、心臓麻酔）											

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1	大学（麻酔一般、心臓麻酔、小児麻酔）											
S2	水戸済生会・こども病院（麻酔一般、心臓麻酔、小児麻酔）											
C1	筑波学園病院（麻酔一般、ペインクリニック）											
C2	土浦協同病院（麻酔一般、救急、ICU、ペインクリニック、緩和）											

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1	大学（麻酔一般、心臓麻酔、小児麻酔）											
S2	日立総合病院（麻酔一般、心臓麻酔）											
C1	筑波メディカルセンター（麻酔一般、心臓麻酔）											
C2	大学（麻酔一般、臨床研究、心臓麻酔、小児心臓麻酔）											

## 耳鼻咽喉科コース：研修プログラム

### 研修目標

\*

### プログラム例

#### シニアレジデントコース

1. 耳鼻咽喉科認定専門医として必要な診断・治療に関する専門的知識、技能、判断力を身につける。
2. 日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医の資格を得るのに必要な臨床能力を身につける。

#### チーフレジデントコース

1. 本コース中に日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医の資格を取得するに十分な、高次の耳鼻咽喉科治療能力を身につける。
2. 耳鼻咽喉科コースにおいて研修するジュニアレジデントとシニアレジデントに対する指導能力を身につける。

### 取得できる資格（認定医等）

日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医

### 経験できる疾患

外耳炎、外耳道異物、外耳奇形、滲出性中耳炎、急性中耳炎、慢性化膿性中耳炎、真珠腫性中耳炎、側頭骨化膿症、耳硬化症、化膿性内耳炎、内耳性難聴、突発性難聴、側頭骨骨折、メニエール病、前庭神経炎、聴神経腫瘍、顔面神経麻痺、幼小児難聴、中耳腫瘍、外傷性伝音難聴、耳性帯状疱疹、前庭性発作性めまい、顔面外傷、鼻奇形、急性鼻、副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎、鼻アレルギー、鼻出血、進行性鼻壊疽、上顎癌と鼻腔腫瘍、鼻腔嚢胞性疾患、唾液腺炎症性疾患、口腔悪性腫瘍、上咽頭悪性腫瘍、扁桃炎とその合併症、中咽頭、下咽頭腫瘍、喉頭炎、喉頭癌、声帯ポリープとその周辺疾患、喉頭奇形、咽頭狭窄、反回神経麻痺とその周辺疾患、頸部腫瘍、 頸部食道癌、気管・気管支異物

## 経験できる手技・検査

### シニア

幼児聴力検査、誘発電位検査、顔面筋電図検査、側頭骨断層撮影・CT、頭頸部CT、シアログラフィ、身体動揺記録検査、いびきの検査、顕微鏡下喉頭検査、顕微鏡鼻・副鼻腔検査、VTR喉頭直達鏡検査、温度眼振検査、視運動性眼振検査、視標追跡検査、リクルートメント検査、上咽頭内視鏡検査、耳管内視鏡検査、喉頭内視鏡検査、鼻副鼻腔内視鏡検査、鼓膜内視鏡検査、下咽頭、上部食道透視検査 定量的自発眼振検査、耳神経学的検査、頸部リンパ節転移検査、嚥下機能検査、耳鼻咽喉心身症検査、喉頭ラリンゴグラム、頭頸部血管撮影

### チーフ

蝸電図検査、後迷路機能検査、補聴器適合検査、耳管通気度計測、記録、音声音響分析検査、発声機能検査、精密喉頭機能検査、高解像度CT検査、精密顔面神経機能検査、機能性難聴検査、聴能訓練検査、発声訓練検査、失語症の検査、構音の検査、耳鳴検査、新生児難聴検査、精密言語発達検査、精密聴覚機能検査、精密平衡機能検査、他覚的聴力検査、耳鼻咽喉科免疫化学的検査、伝音機能・形態検査、前庭機能治療検査、発声機能治療検査、上気道呼吸機能治療検査、頭頸部癌再発検査、頭頸部制癌治療検査

## 経験できる手術（術者）

### シニア

先天性耳瘻孔摘出手術、中耳根本手術、上顎骨骨折整復手術、鼻中隔穿孔閉鎖術、過長茎状突起切除術、気管口狭窄拡大術、動脈カテーテル挿入術、口蓋形成術、鼓室形成術、汎副鼻腔根本手術、鼻外副鼻腔（篩骨洞、前頭洞、蝶形洞）手術、食道異物摘出手術、喉頭組織内注入術、甲状腺部分切除術、経上顎洞顎動脈結紮術

### チーフ

鼓室形成術、乳突洞閉鎖術、顔面神経減圧手術、外耳道造設術、聴力保存根治手術、中耳側頭骨腫瘍手術、耳性頭蓋内合併症手術、鼻副鼻腔悪性腫瘍手術、口腔、舌、唾液腺悪性腫瘍全摘手術、鼻咽癌腫瘍摘出術、咽頭悪性腫瘍全摘・部分切除・再建術、気管・気管支異物除去術（複雑なもの）、甲状腺癌全摘手術、頸部食道悪性腫瘍切除再建術、頸部郭清術

## 経験できる手術（助手）

鼓室形成術、乳突洞閉鎖術、顔面神経減圧手術、外耳道造設術、聴力保存根治手術、人工内耳埋込み術、中耳側頭骨腫瘍手術、耳性頭蓋内合併症手術、鼻副鼻腔悪性腫瘍手術、口腔、舌、唾液腺悪性腫瘍全摘手術、鼻咽癌腫瘍摘出術、咽頭悪性腫瘍全摘・部分切除・再

## 眼科コース：研修プログラム

### 研修目標

疾患、患者さんに対して総合的に考え、対応できるようにする。  
診断から治療までの技術を習得する。

### プログラム例

S1 院内研修  
S2 眼科研修関連病院  
C1 院内研修  
C2 眼科研修関連病院

### 取得できる資格（認定医等）

日本眼科学会専門医（卒後6年目）

### 経験できる疾患

麦粒腫、霰粒腫、睫毛内反、眼瞼下垂、鼻涙管閉塞、涙囊炎、結膜炎、点状表層角膜症、  
角膜変性症、角膜潰瘍、ぶどう膜炎、白内障、緑内障、視神経症、網膜裂孔、網膜剥離、  
黄斑円孔、加齢黄斑変性、中心性漿液性網脈絡膜症、強膜炎、眼窩腫瘍

### 経験できる手技・検査

細隙灯顕微鏡、視力、眼圧、眼底検査、超音波、角膜内皮測定、眼軸長測定、蛍光眼底造影、  
球後麻酔、瞬目麻酔

### 経験できる手術（術者）

麦粒腫・霰粒腫切開、内反ナート術、上眼瞼挙筋短縮術、眼輪筋縫縮術、鼻涙管開放術、  
翼状片切除術、角膜移植、白内障手術（超音波乳化吸引、計画囊外摘出術＋眼内レンズ挿入術）、  
緑内障手術（線維柱帯切除術、切開術）、斜視手術、硝子体切除術、網膜復位術  
（強膜内陥、網膜冷凍凝固）、網膜光凝固術、眼球摘出術

### 経験できる手術（助手）

麦粒腫・霰粒腫切開、内反ナート術、上眼瞼挙筋短縮術、眼輪筋縫縮術、鼻涙管開放術、  
翼状片切除術、角膜移植、白内障手術（超音波乳化吸引、計画囊外摘出術＋眼内レンズ挿入術）、  
緑内障手術（線維柱帯切除術、切開術）、斜視手術、硝子体切除術、網膜復位術  
（強膜内陥、網膜冷凍凝固）、網膜光凝固術、眼球摘出術、羊膜移植術

一般的な4年間の研修予定

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1	筑波大学附属病院											
S2	眼科研修関連病院（研修関連病院一覧をご覧ください）											
C1	筑波大学附属病院											
C2	眼科研修関連病院（研修関連病院一覧をご覧ください）											

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1	筑波大学附属病院											
S2	眼科研修関連病院（研修関連病院一覧をご覧ください）											
C1	眼科研修関連病院（研修関連病院一覧をご覧ください）											
C2	筑波大学附属病院											

建術、気管・気管支異物除去術（複雑なもの）、甲状腺癌全摘手術、頸部食道悪性腫瘍切除再建術、頸部郭清術喉頭・咽頭悪性腫瘍手術

一般的な4年間の研修予定

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1												
S2												
C1												
C2												

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1												
S2												
C1												
C2												

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S1												
S2												
C1												
C2												

## 臨床腫瘍コース：研修プログラム

### 研修目標

1. 様々な訴えをもった患者さんに対し病歴、身体所見、検査・画像データなどから系統的に鑑別診断を進めるとともに、患者さんの心理状況や社会環境を把握し問題点を整理して適切に対応する。このような医師としての基本を確立し、内科専門医や外科専門医などの基本学会専門医を取得する。
2. 抗がん剤の薬物動態・薬力学や化学療法理論などがん薬物療法の基本を習得し、各臓器の進行がんに対して主体的に関わる。日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医を取得する。
3. 外科医、放射線治療医、緩和ケア医など他科の医師や患者ケアに関わる多職種の医療スタッフと連携しながら、患者中心のチーム診療をコーディネートする。
4. 種々のエビデンスを実際の診療に生かしていくことを習得すると共に、臨床試験を通してエビデンスを作ることを学ぶ。

### プログラム例

卒後3年目（S1）：がん薬物療法を行っている診療科（腫瘍内科、消化器内科、呼吸器内科、

血液内科、乳腺甲状腺外科、婦人科、他）を3～6ヶ月毎にローテーションします。

卒後4年目（S2）：関連する診療科（病理診断科、放射線治療科、一般内科、一般外科、他）を3～6ヶ月毎にローテーションします。

卒後5・6年目（C1・2）：各診療科（腫瘍内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、乳腺甲状腺外科、婦人科、他）でより専門的な研修を行う他、大学院に進学したり、他の施設・病院で研修を行うことが出来ます。本コースは自由度が極めて大きく、先生方の希望に応じてカリキュラムを組んでいきます。

### 取得できる資格（認定医等）

基盤学会専門医（内科専門医、外科専門医など）、がん薬物療法専門医

### 経験できる疾患

消化器がん、呼吸器がん、乳腺・内分泌がん、血液悪性腫瘍、その他臓器横断的にすべての領域のがん

### 経験できる手技・検査

ローテーション先の診療科による

経験できる手術（術者）

ローテーション先の診療科による

経験できる手術（助手）

ローテーション先の診療科による

# リハビリテーション科医コース：研修プログラム

## 研修目標

多彩な疾患や外傷による心身の機能障害、日常生活活動の制限、社会参加の制約に包括的に対処するリハビリテーション医療の実践者となるために、急性期を含む傷病の様々な時期におけるリハビリテーションのニーズに的確に対応できるような専門的知識・技能を修得することが目標です。

日本リハビリテーション医学会による「リハビリテーション科専門医」認定試験に合格するレベルの知識・技能を修得することが基本となります。

## プログラム例

### 専門研修医1年目

筑波大学附属病院リハビリテーション部（急性期リハビリテーション、小児を中心とした外来でのリハビリテーション）での研修とともに、運動器、神経系、精神、呼吸器、循環器、膠原病、代謝、発達など関連が深い領域の中で、初期研修では十分な研修が出来なかった領域を中心に希望する診療グループのローテーションを行います（6ヶ月～9ヶ月）。

### 2年目

茨城県立医療大学附属病院リハビリテーション科および関連各科において、リハビリテーション（主に回復期リハビリテーション）を目的とした入院患者の診療に従事するとともに、地域リハビリテーションについて研修します。

### 3年目

関連病院リハビリテーション科における急性期リハビリテーションまたは回復期リハビリテーション。希望により、地域で展開される在宅リハビリテーションについての研修も行います。

### 4年目

筑波大学附属病院リハビリテーション部または関連病院リハビリテーション科において主に急性期リハビリテーションに従事しながら後進の指導にあたります。

## 取得できる資格（認定医等）

リハビリテーション科専門医（コース4年目の3月に受験可能）

## 経験できる疾患

附属病院リハビリテーション部では、多くの診療グループからあらゆる年齢層の多彩な疾患例が紹介されています。

運動器疾患 30%、血管障害・腫瘍・変性疾患等の神経・筋疾患 30%の他、廃川等の二次的

な心身の機能障害を伴った状態について多数のリハビリテーション依頼があります。現行の制度においては、以下を算定できる施設基準で診療を行っています。

- 脳血管疾患等リハビリテーション  
脳血管障害 脳腫瘍 神経筋変性疾患 外傷性脳損傷 末梢神経障害 脳性麻痺 各種疾患に伴う廃用症候群などに対応
- 運動器リハビリテーション  
骨・関節（運動器）の疾患および外傷全般に対応 切断後の義肢作成を含む
- 呼吸器リハビリテーション  
呼吸器系疾患全般に対応 開胸・開腹術周術期のリハビリテーションを含む
- がん患者リハビリテーション  
悪性腫瘍全般
- (心臓大血管リハビリテーション：準備中)

### 経験できる手技・検査

理学療法、作業療法、言語聴覚療法といった基本的なリハビリテーション治療について理解を深めるとともに、生理学的検査（呼吸・循環・神経）、画像検査（運動器、中枢神経系の他、嚥下などの機能画像）、嚥下内視鏡、各種高次脳機能検査、心理検査、神経ブロック、ボツリヌス毒素による痙攣治療などについて関連施設を含めて研修します。

### 経験できる手術（術者）

必須の経験とはしていませんが、関連する病院・診療科として主に整形外科での手術を経験する機会は設けられます

### 経験できる手術（助手）

同上

### 一般的な4年間の研修予定

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
S1		附属病院リハビリテーション部						整形外科 (electives)			神経内科 (electives)		
S2		茨城県立医療大学付属病院リハビリテーション科											
C1		水戸赤十字病院リハビリテーション科											
C2		筑波メディカルセンター病院リハビリテーション科					附属病院リハビリテーション部						

# 歯・口腔コース：研修プログラム

## 研修目標

## プログラム例

### 後期研修

- 1年目・・・関連病院歯科口腔外科
- 2年目・・・関連病院歯科口腔外科
- 3年目・・・大学病院または関連病院歯科口腔外科
- 4年目・・・大学病院

また、後期研修からは大学院へ進学するコースも選択できる。

## 取得できる資格（口腔外科認定医等）

チーフレジデント修了前に、日本口腔外科学会口腔外科認定医取得、その後日本口腔外科学会口腔外科専門医取得

## 経験できる疾患

齦歯、歯髄炎、  
歯性感染症（辺縁性・根尖性歯周炎、歯冠周囲炎、顎骨髄炎、蜂巣炎、上顎炎洞炎）、  
外傷（歯牙外傷、歯槽骨・顎骨骨折、頬骨骨折、顔面口腔軟組織損傷）、  
顎嚢胞（歯原性、非歯原性）、顎骨腫瘍（歯原性、非歯原性）、口腔軟組織嚢胞（類皮嚢胞）、  
唾液腺疾患（唾石症、粘液嚢胞、ガマ腫、シェーグレン症候群、腫瘍）、  
粘膜疾患、口腔癌、唇顎口蓋裂、顎関節疾患

## 経験できる手技・検査

歯髄診断、咬合診断、X線検査の読影、模型分析、顎口腔領域のCT、MRIの読影、超音波検査、唾液腺造影検査、組織生検、嚥下機能検査、顎関節検査（関節腔穿刺）、構音検査、内視鏡検査

## 経験できる手術

- 後期研修1・2年目  
上顎骨・頬骨骨折整復術、顎骨・軟組織良性腫瘍摘出術、  
気管切開術、腸骨・皮膚採取術、顎下腺摘出術、インプラント埋入術

- 後期研修3・4年目

口蓋形成術、口腔癌切除手術、頸部郭沿術、唾液腺腫瘍摘出術、顎関節手術、  
外科的矯正術、気管切開術

#### ■ 経験できる手術 (助手)

口腔顔面悪性腫瘍拡大切除術、顎骨・口腔軟組織再建術、口唇形成術、下顎枝矢状分割術、  
蜂窩織炎に対する切開・排膿術

## 法医学コース：研修プログラム

### 研修目標

日本法医学学会認定の死体検案認定医、法医認定医に相当するレベルの法医学の知識・技術を習得する。

また、法医学に関する研究も行い、その成果を学会で報告し、論文として発表する。

### プログラム例

Sはシニアレジデント、Cはチーフレジデントの略。

S1は研修3年目、S2は4年目、C1は5年目、C2は6年目を指します。

法医学関連の臨床科を研修（病理部、放射線診断部、救急部、内科系、外科系診療科などを、数か月単位でローテーションします。

研修科、ローテーション期間は個人の希望に合わせて設定可能です。

**S1** 残りの期間は死体検案、法医解剖を行います。

**S2** 死体検案ないし法医解剖（筑波大学または関連施設にて研修）、法医学研究

**C1** S1・S2の指導、死体検案ないし法医解剖、法医学研究

**C2** S1・S2の指導、死体検案ないし法医解剖、法医学研究

本コースでは、法医学の研修を進めるとともに、学位取得を目指して研究も行います。

希望者は、筑波メディカルセンター内の筑波剖検センターや、東京都監察医務院などで研修することも可能です。ジュニアレジデントでも短期間研修の選択が可能です。

### 取得できる資格（認定医等）

死体解剖資格認定（法医学研修3ヶ月目に認定を申請する資格ができます。）

法医認定医（法医学研修5年目に認定を申請する資格ができます。）

死体検案認定医（法医学研修3年目に認定を申請する資格ができます。）

### 経験できる疾患

異状死体の死因判定（頭部外傷、胸腹部外傷、窒息、内因性急死等）および個人識別疾患の病理診断（消化器、呼吸器、循環器、血液、泌尿器、生殖器、内分泌、脳神経、皮膚、軟部、骨、乳腺、頭頸部等、全身臓器の各種疾患）

## ■ 経験できる手技・検査

死体検案、法医解剖、

病理部の経験（病理組織学的診断（切り出しを含む）、免疫組織化学、電子顕微鏡的診断  
分子病理学的診断、細胞診断、病理解剖診断（CPC を含む）等）

放射線診断（CT、MRI の読解）、死体解剖、病理組織検査、薬毒物検査、DNA 検査

(様式第 4)

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
前野 哲博	内科	総合診療グループ長	26年	研修統括者
兵頭 一之介	消化器内科	消化器内科診療グループ長	36年	研修統括者
青沼 和隆	循環器内科	循環器内科診療グループ長	39年	研修統括者
檜澤 伸之	呼吸器内科	呼吸器内科診療グループ長	31年	研修統括者
山縣 邦弘	腎臓内科	腎臓内科診療グループ長	33年	研修統括者
島野 仁	内分泌・代謝・糖尿病内科	内分泌代謝糖尿病内科診療グループ長	33年	研修統括者
住田 孝之	内科、リウマチ科、アレルギー科	膠原病リウマチアレルギー内科診療グループ長	38年	研修統括者
千葉 滋	血液内科	血液内科診療グループ長	33年	研修統括者
玉岡 晃	神経内科	神経内科診療グループ長	37年	研修統括者
人見 重美	感染症内科	細菌学的診断診療グループ長	27年	研修統括者
福島 敬	小児科	小児内科診療グループ長	31年	研修統括者
新井 哲明	精神科	精神神経科診療グループ長	27年	研修統括者
藤本 学	皮膚科	診療グループ長	25年	研修統括者
南 学	放射線診断科	放射線診断・IVR診療グループ長	34年	研修統括者
櫻井 英幸	放射線腫瘍科	放射線腫瘍科診療グループ長	29年	研修統括者
野口 雅之	病理診断科	病理診断診療グループ長	35年	研修統括者
大河内 信弘	消化器外科 臓器移植外科	消化器外科診療グループ長	39年	研修統括者
平松 祐司	心臓血管外科	循環器外科診療グループ長	31年	研修統括者
佐藤 幸夫	呼吸器外科	呼吸器外科診療グループ長	28年	研修統括者
原 尚人	乳腺・内分泌外科	乳腺・甲状腺・内分泌外科診療グループ長	33年	研修統括者

増本 幸二	小児外科	小児外科診療グループ長	26年	研修統括者
関堂 充	形成外科	形成外科診療グループ長	27年	研修統括者
井上 貴昭	救急科	救急・集中診療グループ長	24年	研修統括者
石川 栄一	脳・神経外科	脳神経外科診療グループ長	22年	研修統括者
山崎 正志	整形外科	整形外科診療グループ長	34年	研修統括者
西山 博之	泌尿器科	泌尿器外科診療グループ長	28年	研修統括者
佐藤 豊実	産科、婦人科	婦人・周産期診療グループ長	28年	研修統括者
田中 誠	麻酔科	麻酔科診療グループ長	31年	研修統括者
原 晃	耳鼻いんこう科 頭頸部外科	耳鼻咽喉科診療グループ長	38年	研修統括者
大鹿 哲郎	眼科	眼科診療グループ長	32年	研修統括者
檜澤 伸之	内科	睡眠呼吸障害療グループ長	31年	研修統括者
関根 郁夫	腫瘍内科	腫瘍内科グループ長	29年	研修統括者
羽田 康司	リハビリテーション科	リハビリテーショングループ長	26年	研修統括者
武川 寛樹	歯科口腔外科	歯科・口腔外科診療グループ長	33年	研修統括者

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 別紙のとおり ・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 1回目の主な内容 「診療の安全に関する研修 ガバナンス」 2回目の主な内容 「診療の安全に関する研修 医療倫理」 ・研修の期間・実施回数 1回目 37回 H28. 11/11, 17, 18, 28, 29, 30, 12/1, 2, 6, 9 2回目 29回 H29. 3/16, 23, 24, 27, 28, 29, 30, 31 ・研修の参加人数 1回目 2,775人 2回目 2,542人
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 該当無し ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## 別紙

医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修(平成28年度分) ① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況		
1	研修名	小児外科セミナーシリーズ第21弾
	研修の主な内容	小児肝腫瘍治療の現状と未来
	研修の期間・実施回数	2016年6月17日
	研修の参加人数	27名
2	研修名	小児外科セミナーシリーズ第22弾
	研修の主な内容	小児肝移植の現状と困難な周術期管理・手術症例
	研修の期間・実施回数	2016年10月21日
	研修の参加人数	45名
3	研修名	小児外科セミナーシリーズ第23弾
	研修の主な内容	先天性横隔膜ヘルニアにおける内視鏡手術の現状と今後の課題
	研修の期間・実施回数	2016年12月9日
	研修の参加人数	28名
4	研修名	小児外科セミナーシリーズ第24弾
	研修の主な内容	小児・周産期医療における小児外科の役割～小児外科は小児・周産期医療にどこまで貢献すべきか?～
	研修の期間・実施回数	2017年1月6日
	研修の参加人数	36名

5	研修名	小児外科セミナーシリーズ第25弾
	研修の主な内容	小児慢性機能性便秘症に対する漢方薬と西洋薬によるハイブリッド治療戦略
	研修の期間・実施回数	2017年2月3日
	研修の参加人数	63名
6	研修名	新生児蘇生法講習会
	研修の主な内容	出生時に胎外呼吸循環が順調に移行できない新生児に対して、いかにして心肺蘇生法を行うべきかを学ぶ。助産師、看護師、救急救命士を対象に実施。
	研修の期間・実施回数	2016年4月～2016年12月・5回
	研修の参加人数	71名
7	研修名	つくば母乳育児支援勉強会
	研修の主な内容	お母さんと赤ちゃんに接する機会のある茨城県内の保健医療従事者を対照に、母乳育児支援に関する科学的根拠に基づいた最新の情報と臨床技能を伝え、協力し合うための勉強会
	研修の期間・実施回数	2015年10月、2016年2月・2回
	研修の参加人数	110名
8	研修名	死戦期帝王切開シミュレーション
	研修の主な内容	緊急帝王切開を想定し、産科、麻酔科、新生児科、救急部、循環器外科、OR看護師、助産師、CEでシミュレーションを行う。
	研修の期間・実施回数	2016年6月・12月、2回
	研修の参加人数	122名

9	研修名	薬剤部セミナー
	研修の主な内容	薬剤業務改善、医薬品適正使用に関する研究の発表
	研修の期間・実施回数	20回
	研修の参加人数	40～50名
10	研修名	お薬説明会
	研修の主な内容	新薬の使用方法に関する講習
	研修の期間・実施回数	6回
	研修の参加人数	40-50名
11	研修名	がん医療従事者研修 地域がん診療連携拠点病院 薬剤師セミナー(日本医療薬学会主催)
	研修の主な内容	がん医療に携わる薬剤師に必要な知識に関する研修
	研修の期間・実施回数	1回
	研修の参加人数	144名
12	研修名	薬剤師レジデント学習会
	研修の主な内容	論文抄読、処方・症例検討、テーマ発表
	研修の期間・実施回数	47回
	研修の参加人数	5名

13	研修名	生命倫理研修
	研修の主な内容	生命倫理に関して見識を深めることでより質の高い医療の実践を目指す
	研修の期間・実施回数	平成28年8月30日
	研修の参加人数	124名
14	研修名	妊産褥婦に対する最新医学管理研修
	研修の主な内容	助産師、看護師を対象に、その時点で外来もしくは入院管理中の実際の症例を題材として、妊産褥婦に対する最新の医学的な管理法を医師(周産期(母体・胎児)専門医)が教育する
	研修の期間・実施回数	平成28年4月～平成29年3月・計43回
	研修の参加人数	1回平均5名
15	研修名	医療連携患者相談センター講演会(地域連携講演会)
	研修の主な内容	大学病院から退院する患者が、安心かつスムーズに次の療養先に移行・サービスが継続できるよう、院内職員が在宅医療・介護分野の観点からアドバイスを受け、在院日数の短縮化や地域
	研修の期間・実施回数	平成28年11月・1回
	研修の参加人数	医師8名 看護師32名 SW7名
16	研修名	薬剤説明会
	研修の主な内容	新規採用薬剤および頻用薬剤についての説明・講習
	研修の期間・実施回数	12回
	研修の参加人数	約30-40名

17	研修名	医療機器説明会
	研修の主な内容	新規採用機器および頻用機器についての説明・講習
	研修の期間・実施回数	11回
	研修の参加人数	約30-40名
18	研修名	茨城人工透析談話会
	研修の主な内容	透析医療の向上発展のため、茨城県内の透析医療機関に従事する医療関係者の相互の親睦を図り、透析治療法の研究・教育を行う
	研修の期間・実施回数	年1回、平成28年11月13日
	研修の参加人数	約990名
19	研修名	茨城CKD研究会
	研修の主な内容	茨城県における慢性腎臓病の進展防止及び心血管系合併症の抑制を検討し、ならびに病診連携モデルの共有をもって、その研究向上と地域における健康増進を図る
	研修の期間・実施回数	年1回、平成29年3月18日
	研修の参加人数	75名
20	研修名	茨城腹膜透析研究会
	研修の主な内容	県内の腹膜透析医療に携わる医療従事者による学問的水準の向上と診断・治療の研究をはかる
	研修の期間・実施回数	平成29年2月25日
	研修の参加人数	60名

21	研修名	茨城県バスキュラーアクセス研究会
	研修の主な内容	県内の透析患者のバスキュラーアクセスを扱う医療従事者の活動報告と最新の知見習得
	研修の期間・実施回数	年1回、平成29年1月19日
	研修の参加人数	104名
22	研修名	痛風・高尿酸血症セミナー
	研修の主な内容	県内で慢性腎臓病(CKD)診療に携わる医療従事者が高尿酸血症の成因や予防について学習する
	研修の期間・実施回数	平成28年4月14日
	研修の参加人数	30名
23	研修名	腎と栄養懇話会
	研修の主な内容	県内の腎臓疾患栄養指導を担う管理栄養士を中心とした医療従事者による活動報告と最新の知見習得
	研修の期間・実施回数	平成28年9月8日
	研修の参加人数	68名
24	研修名	腎不全治療について考える ～透析療法と腎移植～
	研修の主な内容	県内で透析医療に携わる医療従事者が腎移植について学習する
	研修の期間・実施回数	平成28年9月1日
	研修の参加人数	31名
25	研修名	つくば腎不全病態研究会
	研修の主な内容	県内で腎不全医療に携わる医療従事者が腎不全の原因・進行抑制に関して学習する
	研修の期間・実施回数	平成28年7月21日
	研修の参加人数	39名

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 <b>2</b> 現状
管理責任者氏名	病院長 松村 明
管理担当者氏名	医療情報経営戦略部長 大原 信、薬剤部長 本間 真人 病院総務部総務課長 岡野 勉、同部患者サービス課長 澤邊 康利 同部品質・安全管理課長 山口 剛

		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課総務・広報係	紙媒体で保管	
		各科診療日誌	医療情報経営戦略部	電子化後は医療情報経営戦略部サーバ室のサーバで管理している。電子化以前の紙カルテ及び押印の必要な同意書等は1患者1ファイルにより、医療情報経営戦略部の病歴室で保管・管理している。診療録は電子データ、紙媒体に関わらず院外への持出しは禁止している。但し大災害時、法令に基づく要請など特別な場合は病院長の許可を得た上で持出すことができる。	
		処方せん	同上		
		手術記録	同上		
		看護記録	同上		
		検査所見記録	同上		
		エックス線写真	同上		
		紹介状	同上		
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	同上				
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課人事・共済係	人事システムで保管・管理している。	
		高度の医療の提供の実績	患者サービス課	共有サーバー及び紙媒体で保管	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	品質・安全管理課評価係	共有サーバー及び紙媒体で保管	
		高度の医療の研修の実績	総務課教育センター係	共有サーバー及び紙媒体で保管	
		閲覧実績	総務課 品質・安全管理課	共有サーバー及び紙媒体で保管	
		紹介患者に対する医療提供の実績	患者サービス課	共有サーバー及び紙媒体で保管	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	患者サービス課 薬剤部	共有サーバー及び紙媒体で保管(患者数) PC及び紙媒体で保管(調剤の数)
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	臨床医療管理部 (品質・安全管理課)	共有サーバー及び紙媒体で保管
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況					

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	品質・安全管理課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	
	第二項第一号から第三号までに掲げる事項	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	臨床医療管理部 (品質・安全管理課)
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	品質・安全管理課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課人事・共済係
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	臨床医療管理部 (品質・安全管理課)
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 臨床医療管理部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	つくば臨床医学研究開発機構 (T-CReD0)、 薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課人事・共済係
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器管理センター 臨床医療管理部 (品質・安全管理課)
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器管理センター
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課人事・共済係	共有サーバー及び紙媒体で保管
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理部 (品質・安全管理課)	共有サーバー及び紙媒体で保管
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	PC及び紙媒体で保管
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課人事・共済係	共有サーバー及び紙媒体で保管
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課人事・共済係	共有サーバー及び紙媒体で保管
		医療安全管理部門の設置状況	臨床医療管理部 (品質・安全管理課)	共有サーバー及び紙媒体で保管
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	臨床医療管理部 (品質・安全管理課)	共有サーバー及び紙媒体で保管
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	つくば臨床医学研究 開発機構 (T-CReDO) 、薬剤部	PC及び紙媒体で保管
		監査委員会の設置状況	臨床医療管理部 (品質・安全管理課)	共有サーバー及び紙媒体で保管
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	臨床医療管理部 (品質・安全管理課)	共有サーバー及び紙媒体で保管
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	臨床医療管理部 (品質・安全管理課)	共有サーバー及び紙媒体で保管
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者サービス課	共有サーバーで保管
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	大学本部 総務部総務課	情報提供がなかった ので、保管記録なし
		職員研修の実施状況	臨床医療管理部 (品質・安全管理課)	共有サーバー及び紙媒体で保管
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	品質・安全管理課	共有サーバー及び紙媒体で保管		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	附属病院長 松村 明		
閲覧担当者氏名	病院総務部総務課長 岡野 勉、 品質・安全管理課長 山口 剛		
閲覧の求めに応じる場所	病院総務部総務課		
閲覧の手続の概要			
病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧については、大学が定めた「法人文書開示請求書」に必要事項を記入の上、総務課へ提出する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	6件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	1件
	地方公共団体	延	2件
	その他	延	3件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 組織として事故防止に取り組む。</li><li>・ 情報の共有化を図り、事故防止に役立てる。</li><li>・ 医療安全に関する教育研修を実施する。 など</li></ul></li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 設置の有無 ( 有・無 )</li><li>・ 開催状況：年 1 2 回</li><li>・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療に係る安全管理体制に関する事。</li><li>・ 医療に係る安全管理のための指針の作成及び見直しに関する事。</li><li>・ 医療事故を防止するための医療従事者に対する啓発に関する事。</li><li>・ 医療事故等に係る患者、家族等への対応に関する事。</li><li>・ 医療事故等が発生した場合の原因の分析並びに改善策の立案、実施及び周知に関する事。</li></ul></li></ul> など	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 6 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ ガバナンス ( 3 7 回開催)</li><li>・ 医療倫理 ( 2 9 回開催)</li><li>・ 法令及び研修目的に沿ったものとする。必要に応じて、感染対策、医薬品、医療機器の安全管理に関する内容を含める。</li></ul></li></ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( 有・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療行為の手順をエビデンスに基づいて改善する</li></ul></li></ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的な考え方 院内感染対策委員会及び感染管理部の設置 院内感染発生時の対応 職員研修	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容： 院内感染対策指針及びマニュアルの審議 院内感染対策に関する情報収集と職員への周知 改善策の立案及び全職員への周知	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6 6 回
・ 研修の主な内容： 第 1 期：ガバナンス、感染経路別予防策（3 7 回開催） 第 2 期：医療倫理、持ってますか！抗体検査・ワクチン接種履歴登録カード（2 9 回開催）	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 無し	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る  
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 6 回
・ 研修の主な内容：  第 1 期：ガバナンス、薬剤有害事象の報告（37 回開催） 第 2 期：医療倫理、未承認薬や禁忌・適応外使用の取り扱い（29 回開催）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有)・無 ) ・ 業務の主な内容：  医薬品の安全使用のための業務に関する手順書を改訂し、さらに「未承認薬等の臨床使用」に関する手順書を作成した。 それらに基づく業務の実施状況をチェックリストにより、定期的に確認している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容：  ・ 製薬企業からの情報収集 ・ 医薬品医療機器総合機構からのメール受信（医薬品医療機器情報配信サービス） ・ 個人のメールボックスへの印刷物の配布（薬剤部からのお知らせ等） ・ 院内メールによる情報配信 ・ 薬剤部内の朝礼による周知 ・ 薬剤部HPにおいても、情報提供 ・ 「未承認薬等の臨床使用」に関する手順書を医薬品安全使用のための業務手順書へ追加した。 ・ 医薬品の禁忌・適応外使用把握の手順を作成した。 ・ 院内製剤を含む未承認薬や適応外の医薬品の使用状況をモニターし、把握している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 6 6 回
・ 研修の主な内容： ① 全職員を対象とした「診療の安全に関する研修（第 1 期） ガバナンス」において、「中心静脈カテーテル接続部の脱着時に発生した空気塞栓」をテーマに、資料を用いて説明を行った。 （ 3 7 回開催） ① 全職員を対象とした「診療の安全に関する研修（第 2 期） 医療倫理」において、「医療機器の研修の必要性—N P P V の基本—」をテーマに、資料を用いて説明を行った。 （ 2 9 回開催）	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有 ・ 無 ） ・ 保守点検の主な内容：保守点検はメーカーに依頼しており、メーカーが指定している各機器の点検内容に準じて実施。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有 ・ 無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： PFI 事業部である ME センターが情報収集及び注意喚起を医療機器安全管理責任者及び関係部署へ報告し、適宜関係部署の責任者へ周知またはメールで連絡をして対応している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師)・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者が医療安全管理委員会 (リスクマネジメント委員会) に出席し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括している。 また、リスクマネジメント委員会には、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が出席し、医療安全管理責任者が各々の懸案事項の報告を受けている</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 2 名 ) ・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
<p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品安全管理者の指示の下、医薬品情報室が中心となり、医薬品の添付文書の情報のほか、医薬品医療機器総合機構からのメール受信 (医薬品医療機器情報配信サービス)、医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等からの情報を広く収集し、管理している。また、定期的に「薬剤部からのお知らせ」等を発行・配布するとともに、院内ホームページに掲載し周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>禁忌、未承認医薬品等の使用状況を把握し、薬事委員会で集計した結果を院内に周知している。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有) ・無)</p> <p>・担当者の所属・職種： (所属：臨床医療管理部、職種 薬剤師)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) ・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：年 2 回、説明書の記載項目のサンプリング監査を行い、不足な記載項目について、チェックリスト形式の標準化された説明書への移行を促した。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・初期研修医の記載については経験 7 年以上の指導医が内容の確認及び指導を行っている</li><li>・診療録の量的監査については全例について記載されていることを確認している</li><li>・診療録の質的監査についてはサンプリングによる監査を年 2 回行い、結果を各診療グループにフィードバックしている</li><li>・入院死亡患者については全例 M&amp;M 委員会で検証を行っている</li><li>・インフォームドコンセントについては ISO・医療業務支援部が年 2 回、監査を行い、結果を各診療グループにフィードバックしている</li></ul>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無

- ・所属職員：専従（４）名、専任（０）名、兼任（２）名  
うち医師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（２）名  
うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（０）名  
うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（０）名
- （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

- ・活動の主な内容：
  - ・医療事故防止のための調査、分析、指導及び教育
  - ・医療事故発生に伴う調査、分析、指導
  - ・医事紛争支援
  - ・医療サービスの向上のための企画及び教育

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

当院ではジェネラル・リスク・マネージャー（GRM）として、次の要件を満たしている。

- ・医師、歯科医師、薬剤師又は看護師の内野いずれかの資格を有している。
- ・医療安全に関する必要な知識を有している。
- ・本院の医療安全部門（臨床医療管理部）に所属している。
- ・本院の医療安全管理委員会（リスクマネジメント委員会）の構成員に含まれている。
- ・医療安全対策推進に関する業務に専ら従事している。
- ・医療施設において6年を超える臨床経験を有している。
- ・必要な研修、教育及び安全管理業務や医療の質改善業務の実地経験を有している。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

- ・医療安全発信文書として、医療安全管理委員会において定める。  
例）医師は、中心静脈カテーテル挿入時は看護師に声をかける。  
看護師は、中心静脈カテーテル挿入時は協働して介助につく。
- ・医療安全に係る研修時にアンケートを実施し、従事者の医療安全の認識についてモニタリングしている。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

- ・活動の主な内容：
  - ・新規医療技術の企画を審査する。
  - ・新規医療技術の実施を審査する。
  - ・新規医療技術実施報告をうけ、当該技術が当院において安全に施行することが定着したか評価する。 など

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

- ・担当部門：T-CReD0 臨床研究推進センターサイト管理ユニット安全管理・指導部門
- ・「未承認薬等の臨床使用」に関する手順書の作成
- ・「筑波大学附属病院臨床研究倫理審査委員会」における審査の実施
- ・審査委員会で認められた「未承認新規医薬品」の使用状況の把握と集計結果の周知

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況 有・無

・監査委員会の開催状況：年1回

・活動の主な内容：

以下の項目についての監査を実施した。

- ・医療法施行規則改正に伴う特定機能病院新承認要件の対応状況

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）

・委員名簿の公表の有無（有・無）

・委員の選定理由の公表の有無（有・無）

・公表の方法：

病院ホームページ上にて公開している。

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
柳田 国夫	東京医科大学 茨城医療センター 副院長	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	有・無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
宮本 恭子	リレー・フォー・ライフ・ジャパン 茨城実行委員会 委員長		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者
佐藤総一郎	国立大学法人 筑波大学 監事		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

<p>⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年181件</li> <li>・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年273件</li> <li>・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 オカレンス報告として、全例の報告をうける。特に重要な事象は原因を分析し、再発防止策を立案する。</li> </ul>
<p>⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ） <input checked="" type="radio"/> 無）</li> <li>・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ） <input checked="" type="radio"/> 無）</li> <li>・技術的助言の実施状況 実施無し</li> </ul>
<p>⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体制の確保状況 患者やその家族の方からの疾病に関する医学的な質問、生活上及び入院上の不安など、様々な相談に対応する窓口（患者相談受付）を、以下のとおり設置している。 相談内容としては、医療福祉、在宅移行・転院調整・退院支援、がん、看護、栄養、こころ、苦情、診療費、薬剤、カルテ開示、リハビリ等で医療の質と安全に関する相談窓口を兼ねている。相談に当たり、院内の各部門と密接に連携の上、実施している。</li> </ul> <p>相談日： 月曜日～金曜日（休日は除く）    受付時間： 8時30分～17時00分    設置場所： けやき棟1階11番窓口（入退院センターの隣）    担当者： 医療メディエーター及び医療関係団体等が実施する医療対話仲介者の養成を目的とした研修を修了した者</p> <p>責任者： 医療連携患者相談センター部長</p>
<p>⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ）</li> <li>・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ）</li> <li>・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ）</li> </ul>
<p>⑭ 職員研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の実施状況 テーマ「ガバナンス」として実施し、特定機能病院新承認要件と、当院の対応状況について全職員に教育及び周知した。</li> </ul>

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者(病院長)

第2回病院長塾受講済 (H29年1月)

医療安全管理責任者

国立大学附属病院リスクマネージャー研修受講済 (H16)

医療安全に関するワークショップ(特定機能病院)受講済 (H17)

医療安全管理者養成講習会受講済 (H22)

平成28年度医療安全に関するワークショップ受講済

第2回病院長塾受講済 (H29年1月)

医薬品安全管理責任者(薬剤部長)

平成27年度医薬品安全管理責任者等講習会(日本病院薬剤師会)受講済 (H27年6月)

平成28年度医薬品安全管理責任者等講習会(日本病院薬剤師会)受講済 (H28年7月)

平成29年度医薬品安全管理責任者等講習会(日本病院薬剤師会)受講済 (H29年6月)

医療機器安全管理責任者(医療機器管理センター長)

医療機器安全管理責任者研修会(日本臨床工学技士会)受講済み (H28年12月)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 項 目：一般病院 2 及び副機能 (精神科病院) 評価機関：公益財団法人日本医療機能評価機構 受審日：平成28年8月29日及び30日 認定日：平成29年2月3日 条件付認定 認定期間：平成28年9月24日～平成29年9月30日 ※平成29年9月 確認書類提出済。 項 目：IS09001 2008 評価機関：株式会社BSIグループジャパン 発 効 日：平成28年3月9日 有効期限日：平成30年9月14日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 広く社会に向けて、病院ホームページ、病院のご案内 (病院概要) 及び病院広報誌にて、本院の診療指標、各診療科の取組みをWEBや紙媒体にて情報発信しています。 また、本院では市民公開講座等を通して陽子線治療やがん治療等の情報を定期的に発信するなど高度医療の啓発活動に努めています。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 院内コンサルテーションマニュアルにより他科の専門医に診察の依頼ができる体制が整っており、複数の診療科が連携して高度な医療を提供できる。	

(様式第 8)

筑大病品安第17-128号  
平成29年10月 5日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人筑波大学長 永田 恭介 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

既に受講済みの研修

管理者(病院長)

第2回病院長塾受講済（H29年1月）

医療安全管理責任者

国立大学附属病院リスクマネージャー研修受講済（H16）

医療安全に関するワークショップ（特定機能病院）受講済（H17）

医療安全管理者養成講習会受講済（H22）

平成28年度医療安全に関するワークショップ受講済

第2回病院長塾受講済（H29年1月）

医薬品安全管理責任者(薬剤部長)

平成27年度医薬品安全管理責任者等講習会（日本病院薬剤師会）受講済（H27年6月）

平成28年度医薬品安全管理責任者等講習会（日本病院薬剤師会）受講済（H28年7月）

平成29年度医薬品安全管理責任者等講習会（日本病院薬剤師会）受講済（H29年6月）

医療機器安全管理責任者(医療機器管理センター長)

医療機器安全管理責任者研修会（日本臨床工学技士会）受講済み（H28年12月）

なお、今年度の研修受講は未定である（平成29年10月1日現在）。

## 2. 医療安全管理部門の人員体制

- ・ 所属職員：専従（４）名、専任（０）名、兼任（２）名
  - うち医師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（２）名
  - うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（０）名
  - うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（０）名

## 3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

平成 29 年 4 月 1 日にて、薬剤師 1 名を専従にて配置しているので、現時点で今後の追加配置は予定していない。